

(頁五)

五 縣廳カ検査合格ヲ證明スル爲メ蠶種製造用ノ臺紙ニ押捺セル印章ノ明治四十二年トアルニノ字ヲ三ニ描改シ以テ明治四十三年度ノ検査合格證印ト爲シタル所爲ハ既存ノ印影ヲ材料トシテ全然新ナル證明力ヲ具有スル證印ヲ臺紙ニ顯出セシメタルモノナレハ公務所ノ印章偽造ヲ以テ論スヘキモノトス(大審院判決録明治四十四年二七三頁)

六 印章又ハ記號ノ偽造ハ印章又ハ記號タル影跡ヲ表顯セシムヘキ物體ヲ不法ニ製作シタル場合ニ限ラス不法ニ其影跡ヲ表顯セシムル以上ハ其方法ノ如何ヲ問ハサルナリ(同上大正三年一九八二頁)

●郵便局日附印ノ性質

- 一 郵便局ノ日附印ハ官印ナリ(同上明治三三年一〇卷二九頁)
- 二 郵便局日附印ハ郵便局ヲ表示シ且證明ノ用ヲ爲スモノナレハ第六百六十五條ニ規定スル公務所ノ印章ニ該當ス(同上明治四十二年八四八頁同年一一一九頁)

●數個ノ郵便局消印偽造ノ罪數

甲乙及ヒ丙郵便電信局ノ消印ヲ偽造行使シタル所爲ハ縱令其偽造印ヲ同一ノ文書ニ押用セル場合ト雖モ三箇ノ官印偽造行使罪ヲ構成ス(同上明治三七〇頁)

●公務員ノ印章ト私印トノ區別

- 一 官吏公吏ノ用ユル印類カ私印ナルヤ職印ナルヤハ其印類ノ性質如何ニ依リ定ムヘキモノニシテ之ヲ押捺セル文書ノ性質ニ依リテ定ムヘキニ非ス(同上明治三八一年一〇八一頁)
- 二 或印章カ官印ナルヤ將タ公印ナルヤハ其印章ヲ使用スル事務ノ性質ニ依リテ之ヲ定ムヘキモ

ノトス(同上明治四〇年五一九頁)

三 公務員ノ印章ハ公文書ヲ作成スルニ該リ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ汎稱シ其本來ノ性質カ私印ナルト公印ナルトハ之ヲ區別セス(同上明治四四年四二九頁)

四 公務員ノ印章トハ公務員ノ職印ノミニ限ラス其公務上使用スル總テノ印章ヲ包含ス(同上大正五年八七頁)

●數個ノ印章署名使用ノ罪數 二人以上ノ印章若クハ署名ヲ使用シ一個ノ文書ヲ偽造シタルトキハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(同上明治四二年二〇五頁)

●署名ノ意義

一 刑法上署名ト云フハ通例一定ノ人カ自己ヲ表彰スルカ爲メニ文字ヲ以テ其氏名ヲ表記セルモノヲ指稱スルモ單ニ片假名ヲ以テ其氏名又ハ名ノミヲ表記シタル場合ニ於テモ之ヲ署名ニ非スト謂フヘカラス何トナレハ片假名ヲ以テ氏又ハ名ノミヲ表記スルノミニテハ一般ニ一定ノ人ヲ表彰スルニ足ラストスルモ一定ノ關係アル者ノ間ニ於テハ其人ヲ表彰シ得サルニ非サレハナリ(同上明治四五年七七頁)

二 苟モ一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メ用ユル處ノ名稱ナル以上ハ其氏名ヲ記載スルト商號其他ノ符號文字ヲ記載スルトヲ問ハス刑法上之ヲ署名ト認ムヘキモノトス(同上明治四三年四一六頁)

三 氏名ヲ記載セサルモ或一定ノ公務員ヲ指稱シタルコト明カナル場合ニ於テハ公務員ノ署名ト認ムルニ妨ケナシ故ニ偽造シタル書簡ニ某村教務員ト記載シタルニ止マリ其氏名ヲ掲ケサルモ



其擔任吏員ヲ指シタルコト明カナルヲ以テ之ヲ署名ト認ムルコトヲ得ヘシ(大審院判決錄明治四四年一九九三頁)

四 署名トハ自署ニ限ラス代書ヲモ包含スヘク又自然人ノ氏名ノ表示ノミナラス法人ノ名稱ノ表示ヲモ指示スルモノトス(同上明治四五一年一〇三六頁)

五 偽造ノ目的タル署名ハ敢テ法律事項ノ證明ニ關スルモノタルコトヲ要セス苟モ行使ノ目的ヲ以テ署名ヲ偽造スルニ於テハ署名偽造罪ヲ構成ス(同上大正二年三五九頁)

●印章ト文書トノ區別

一 郵便局ニ於テ郵便物受理ノ時刻ヲ證明スル爲メ單ニ局名ト明治年月日時ノ文字ヲ刻シアル印影ヲ押捺シ擅ニ其年月日時ノ空間ニ數字ヲ記入シタルトキハ公印不正使用罪ニ非スシテ受附時刻證明書ノ偽造ナリ(同上明治四三年八六二頁)

二 「何々役場受付年月日」ト刻セル木版ハ印ニ非ス(東京控訴院判決明治三十八年十月七日)

●署名偽造ト使用トノ關係 署名偽造罪ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ署名ヲ偽造スルコトニ依リテ成立シ偽造署名使用罪ハ偽造ニ係ル他人ノ署名ヲ真正ノ署名トシテ使用スルニ依リテ成立ス而シテ署名ノ偽造ト其使用トハ同一犯人ニ依リテ遂行セラレタルト否トヲ問ハス各獨立シタル二個ノ犯罪ヲ構成スルモノニシテ二者同一犯人ニ依リ行ハレタルトキハ第五十四條ヲ適用スヘキモノトス(大審院判決錄明治四五年七六四頁)

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下

ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

【關係法令】

●森林法(明治四十四年法律第四十三號)

第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

【學說】

●公務所ノ意義(第七條(學說)ノ部參照)

●印章ノ意義(第六十五條(學說)ノ部參照)

●印章及ヒ署名偽造ノ意義(同上)

●印章及ヒ署名使用ノ意義(同上)

●印章ト記號トノ區別

一 印章ト記號トノ區別ニ關シ從來ノ說明ハ文字ヲ以テ表明セラルルヤ否ヤヲ以テ其標準トス即チ公務所ヲ表明スルニ方リテ文字ヲ以テスルハ常ニ印章ナルモ文字以外ノ符牒ヲ以テスルトキ



ハ記號ナリト謂フナリ但一説ハ文書ニ押捺スヘキモノハ官印トシ文書以外ニ押捺スヘキモノヲ記號ト爲ス(牧野博士二二版二六一頁)

二 公務所ノ印章ハ狹義ノ印章ト記號トノ二種ニ分ツ此區別ノ標準ニ付テハ印章ノ内容タル符號カ發音シ得ヘキ文字タルトキハ之ヲ狹義ノ印章トシ發音シ得ヘカラサルトキハ記號ナリト論スル説ト印章カ其使用者ヲ表示シ之ヲ代表スルモノナルトキハ狹義ノ印章ニシテ然ラサルモノハ記號ナリト論スル説トアリ後説ハ正當ニシテ判例モ亦之ヲ認ム(山岡博士五四二頁)

三 廣義ニ於ケル印ヲ發音シ得ヘキ文字即チ普通ニ所謂文字ヲ現出シ得ヘキモノ發音シ得ヘカサル文字即チ三角形十字形ノ如キ符號ヲ現出シ得ヘキモノニ種別シ前者ヲ印章トシ後者ヲ記號トス(勝本博士七橋義四四九頁)

四 記號印章トハ何レモ印類ヲ指スモノニシテ其印類ニ依リ現出スル影蹟カ發音シ得ヘカラサル符號(記號)ナルト發音シ得ヘキ文字(印章)ナルトニ依リ此區別ヲ設ケタルニ過キス(小崎學士各論二九二頁)

五 公成文書ニ押捺シテ作成者ノ同一格ヲ表章スヘキモノハ公用印章ニシテ產物商品什器其他文書又ハ有價證券以外ノ物ニ一定ノ文字又ハ符號ヲ押捺シ其物ノ上ニ附著セル位置状態ニ依リ一定ノ證明ヲ認識セシムルモノハ公用記號ナリ(泉二博士七〇五頁)

六 公務所ノ印章ト記號トハ其使用ノ目的如何ニ依リ之ヲ區別ス即チ公務所ノ一定ノ印章ニシテ書類ニ押捺シ證明ノ用ニ供スルモノハ印章ナリ若シ公務所ノ一定ノ印章ニシテ専ラ產物商品書籍什物等ニ使用スルモノハ記號ナリ(大場博士各論下三一五頁)

### 【判決例】

◎織物査定濟紙票ノ性質 稅務管理局織物査定濟ノ證ナル紙票ハ當局官吏カ納稅濟又ハ移出許可ノ證トシテ使用スヘキモノナルモ毛織物以外ノ織物ニ之ヲ貼用シ證印ニ代用スルモノナレハ官ノ記號ニ外ナラス(大審院判決錄明治四二年八〇三頁)

◎稅關日附印ノ性質 稅關ノ日附印ト雖モ圓形ノ輪廓内ニ年月日ノ數字ヲ西洋數字ニテ現ハシタルノミニ止マリ該官廳ヲ表示スル文字ナキモノハ印章ニ非スシテ記號ナリ(同上明治四二年一五五頁)

◎官林拂下檢査濟證ノ性質 林區署カ官林拂下等ノ場合ニ檢査濟ノ證トシテ豫定木ニ押捺シ又ハ立木伐採後伐採ノ證トシテ材木ニ押捺スル檢印ハ孰レモ其各事項ヲ證明スル爲メ立木又ハ材木ニ押捺スルニ止リ所屬官署ヲ表示スル爲メ押捺スルモノニ非サレハ第六百六十六條ノ所謂公務所ノ記號ニ該當ス(同上明治四三年一二三二頁)

#### ◎立木極印ノ性質

一 立木ニ押捺スル「檢」又ハ「山」ノ如キ極印ナルモノハ當該官廳ヲ表示スル文字ナク單ニ或處分ヲ爲シタル符號ヲ印スルモノニ過キサレハ第六百六十六條ノ所謂記號ナルコト勿論ナリ(同上明治四四年一四七頁)

二 國有林ノ立木ヲ盜伐シ其伐根ニ拂下木ノ引渡ニ用ユル官ノ極印ヲ不正ニ打記シ以テ罪跡湮滅ヲ圖リタル行爲ハ同時ニ森林法第八十四條第一號ト刑法第六百六十六條第二項トニ觸ルルモノト



ス(大審院判決錄大正三年八〇一頁)

◎記號ノ意義 第六百六十六條ニ所謂記號トハ他ノ物件ノ上ニ現出セシメタル其記號ノ影跡ノミヲ云フニ非スシテ影跡ヲ現出セシムヘキ物體ヲモ包含指稱スルモノナレハ斯ノ如キ物體ヲ偽造スルニ於テハ未タ之ヲ他ノ物體ニ押捺セサルモ記號偽造罪ヲ構成ス(大審院判決錄明治四五年四九二頁)

◎輸出米検査證票ノ性質 富山縣輸出米ノ検査ヲ爲シタルコトヲ示ス検査證票ナルモノハ一種ノ符號ニ過キサレハ第五十五條ノ文書ニ非スシテ第六百六十六條ニ所謂公務所ノ記號ナリトス(同上大正二年二三頁)

◎印章ト記號トノ區別 公務所ノ印章ト記號トヲ區別スル標準ハ其使用ノ目的如何ニ在リ即チ文書ニ押捺スルモノハ印章ニシテ商品、書籍、什物等ニ押捺スルモノハ記號ナリ(同上大正三年二〇一〇頁)

第六百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

【關係法令】

◎森林法(第六百六十六條(關係法令)ノ部参照)

◎人民署名肩書ノ式(明治八年三月二十五日太政官布告第四十四號)

人民署名肩書ノ儀自今貴屬或ハ管下ノ文字ヲ除キ何(府縣)華族士族平民ト記載可致此旨布告候事  
但從來ノ諸規則及雛形中ニ掲載セル肩書ノ儀モ總テ本文ノ通可相心得事

◎外國人署名捺印及訴訟上無資力證明方(明治三十二年法律第五十號)

第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

【學 說】

◎印章ノ意義(第六百六十五條(學說)ノ部参照)

◎公務員ノ印章ト私印トノ區別(同上)

◎署名ノ意義(同上)

◎印章及ヒ署名偽造ノ意義(同上)

◎印章及ヒ署名使用ノ意義(同上)

◎私印ノ意義

一 私印ハ印章主ノ何人タルカヲ示ス可キ符號アルコトヲ要スルモノト解ス(牧野博士二一版二六三頁)

二 私人ノ印章トハ自然人ノ印章及ヒ法人ニシテ公務所ニ非サル者ノ印章ヲ總稱ス單ニ文書ニ押捺スヘキ印章ノミナラス貨物什器等ニ押捺スヘキ印章(公務所ノ記號ニ相當ス)モ亦私人ノ印章タルコトヲ失



ハス(大場博士各論  
下三二頁)

- 三 法律ハ單ニ印ト規定シ別ニ制限ナケレハ印トシテ文書等ニ記載シタル事實ヲ證明スルモノタルトキハ實印タルト仕切判タルトヲ論セス(勝本博士析義  
上五五九頁)
- 四 印章ニ付テハ必シモ氏名ヲ表章スル文字ヲ使用スルノ要ナシト雖モ署名者ノ同一格ヲ表章スルモノニ非サレハ偽造ノ目的タルヲ得ス(泉二博士  
七〇九頁)
- 五 私印トハ私人ノ使用スル印ノ義ニシテ其實印タルト認印タルト仕切判タルトヲ問ハス(小崎學  
士各論  
二三八  
二頁)

### 【判決例】

- ◎官印偽造ノ意義(第六百六十五條(判  
決例)ノ部参照)
- ◎郵便局日附印ノ性質(同上)
- ◎數個ノ郵便局消印偽造ノ罪數(同上)
- ◎公務員ノ印章ト私印トノ區別(同上)
- ◎數個ノ印章署名使用ト罪數(同上)
- ◎署名ノ意義(同上)
- ◎印章ト文書トノ區別(同上)
- ◎署名偽造ト使用トノ關係(同上)

### ◎私印不正使用ノ方法

- 一 藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ寫シ取り之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタルトキハ私印盜用罪ニシテ私印偽造罪ニ非ス(大審院判決錄明治三  
〇年一〇卷一〇九頁)
- 二 多額ノ證書ヲ作成シテ之ヲ少額ノ證書ナリト欺キ記名調印セシメタル所爲ハ印影盜用罪ヲ構成ス(同上明治三二  
年二卷三五頁)

### ◎白紙委任狀ノ使用ト印影盜用 白紙委任狀ヲ署名者ノ承諾以外ノ事項ニ使用シタル行爲ハ印影盜用罪ヲ構成ス(同上明治三二年一 卷一三頁、同年八卷九頁)

### ◎私印偽造ノ意義

- 一 私印偽造罪ノ成立ニハ偽造ニ係ル印章カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足り其偽印カ眞印ニ酷似スルト否トヲ問フノ要ナシ(同上明治三五  
年六卷二八頁)
- 二 私印偽造トハ人ヲシテ他人ノ眞印ナリト認メシムルニ足ル程度ニ於テ擬作スルノ謂ニシテ其擬作カ彫刻ノ方法ニ依ルト描寫ノ手段ニ據ルトヲ問ハス苟モ之ヲ行使スルニ於テハ同罪ヲ構成スルコト勿論ナリ(同上明治四三  
年六七六頁)
- 三 印章ノ偽造トハ其影跡ヲ現出シタルノミナラス他人ノ事實證明ノ用ニ供スル文字又ハ符號ヲ刻セル印類其モノノ偽造ヲ完成シタル場合ヲモ包含指稱スルモノトス但偽造印類ヲ使用シ文書ヲ偽造シタルトキハ印類ノ偽造ハ文書偽造罪中ニ包含シ別個獨立ノ犯罪ヲ構成スルコトナシ(同上明治四三  
年二〇九五頁)



◎死者ノ實印盜用

- 一 他人ノ死亡後其實印ヲ盜捺シタルトキト雖モ其人ノ生前ニ押捺シタルモノトシテ使用シタルトキハ私印盜用罪ヲ構成ス(大審院判決録明治三六年三八三頁)
- 二 人ノ死亡後實印ヲ盜捺シタルトキト雖モ其生存中ノ日附ニ係ル文書ニ之ヲ盜用シタル場合ニ於テハ文書偽造ト共ニ印影盜用罪ヲ構成ス(同上同年四八五頁)

◎同一氏名ト印影ノ盜用 甲乙同一氏名ノ兩者存スル場合ニ乙者ノ印影トシテ甲者ノ印影ヲ盜用スルモ乙者ノ印影盜用罪ヲ構成セサルハ勿論甲者ノ印影盜用罪ヲモ構成スルコトナシ(同上明治三九年二〇一頁)

◎私印偽造ト法人ノ印章 私印偽造罪ノ成立ニハ其印章ノ使用權カ他人ニ屬スルコトヲ要スレトモ其使用權者カ自然人タルト將タ此等ノ人ヨリ成ル集合團體タルトハ問フ所ニ非ス(同上明治四〇年一三三三頁)

◎私印署名偽造使用ト文書偽造トノ關係

- 一 第六百六十七條第二項ハ印章若クハ署名ノ不正使用又ハ偽造印章若クハ偽造署名ノ使用ノ所爲カ他ノ犯罪所爲中ニ包含處罰セララルコトナク獨立シテ一ノ犯罪ヲ構成スル場合ノミヲ規定シタルモノトス(同上明治四二年六一頁)
- 二 他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル所爲ハ第五百九十九條第一項ニ依リ處斷スレハ足り其他ニ印章不正使用罪ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス(同上明治四二年五三六頁)
- 三 他人ノ印影ヲ盜用シ借用證書ヲ偽造シタルトキハ其私印盜用ノ所爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成セス

私文書偽造罪ニ包含シ一罪トシテ處斷スヘキモノトス(同上明治四三年五七頁、同年四〇一頁、同年七二八頁)

四 印章盜用ノ所爲ハ他人ノ署名若クハ印章ヲ使用シテ文書ヲ偽造スル罪ノ内容ヲ成ス一事實タルニ過キスシテ文書偽造罪ノ外別個ノ印影盜用罪ヲ構成スルモノニ非ス(同上明治四三年二二四一頁)

◎證書ノ印影利用ト私印盜用 被告人カ債務者ノ承諾ナキニ拘ハラヌ契約證書ニ存スル印影ヲ偽造文書ニ利用シタル所爲ハ私印盜用罪ヲ構成ス(同上明治四二年七〇一頁)

◎私人署名ノ意義

- 一 刑法上署名トハ通例一定ノ人カ自己ヲ表彰スルカ爲メニ文字ヲ以テ其氏名ヲ表記スルモノヲ指稱スルモ片假名ヲ以テ氏又ハ名ノミヲ表記シタル場合ニ於テモ一定ノ關係アル者ノ間ニ於テ其人ヲ表彰シ得ルカ故ニ之ヲ署名ニ非スト謂フヘカラス(同上明治四三年七七頁)
- 二 苟モ一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メ用ユル名稱ナル以上ハ其氏名ヲ記載スルト商號其他ノ符號文字ヲ記載スルトヲ問ハヌ刑法上署名ト認ムヘキモノトス(同上明治四三年四一六頁)
- 三 一ノ雅號ト雖モ苟モ特定ノ人ヲ表示スルニ足ルヘキモノナル以上ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ署名偽造罪ヲ構成ス(同上大正二年三四三頁)
- 四 署名トハ氏名ノミナラス書畫ノ筆者カ落款ニ用ユル雅號ト雖モ苟モ特定人ヲ表示スルニ足ル以上ハ之ヲ包含ス之ト同時ニ書畫ノ筆者カ書畫ニ押用スル印章ニ付キテモ亦偽造罪ヲ成立スルモノトス(同上大正二年一四八五頁)

◎偽造印章使用ノ意義



- 一 他人ノ印章ヲ偽造シ其人ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ之ヲ文書ニ押捺行使シタルハ即チ不正ニ之ヲ使用シタルモノト謂フヘク第六十七條第二項ニ問擬スヘキモノトス(大審院判決錄明治四四年八六四頁)
- 二 他人ノ印章ヲ自己ノ署名ノ下ニ押捺シ若クハ自己ヲ表識スル趣旨ニ於テ他人ノ印章ヲ使用スル場合ニ於テハ固ヨリ第六十七條第二項ニ該當セサルモ他人ノ印章ヲ印章主ノ印章トシテ使用スルニ於テハ同條項ニ該當ス(同上明治四五三年三三六頁)

◎代理人ノ資格冒用ト署名偽造 他人ノ代理人トシテ公正證書ニ署名スル場合ニ於テ其署名ハ畢竟代理人自身ノ爲メニ之ヲ爲スニ非スシテ被代理人即チ本人ノ爲メニ之ヲ爲スモノナレハ其署名ハ代理人ニ對シテ效力ヲ生スルモノニ非スシテ本人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス故ニ他人ノ代理者タル資格ヲ冒シテ公正證書ニ署名シタル場合ニ於テ其效果ハ直接ニ其他人ノ署名ヲ之ニ冒用シタル場合ト敢テ擇ム所ナシ故ニ第六十七條第一項ノ罪ヲ構成ス(同上明治四四一年一九九三頁)

◎印章署名ノ使用ト實害ノ發生 第六十七條ノ罪ハ他ノ信用ニ對スル罪ト同シク偽造ノ行爲若クハ使用ノ行爲ニ因リテ印章若クハ署名ノ真正又ハ其正當ノ使用ニ對スル公ノ信用ヲ害シ若クハ害スル危險アルコトヲ其成立ノ要件トスルモ此外他人ノ財産權上又ハ其他ニ損害ヲ發生セシメ若クハ發生セシムル危險アルコトヲ必要トセス(同上明治四五三年三四頁)

◎電報賴信紙發信人ノ署名偽造 電報賴信紙ノ端末ニ記載スル發信人ノ氏名ハ受信人ニ傳送セラレヘキ通信文ノ一部ヲ構成スルモノニ非スシテ單ニ電信官署ノ事務取扱ノ用ニ供スルモノニ過キサレハ發信人ノ氏名ヲ偽署シタルモノハ第六十七條第一項ニ該當ス(同上明治四五一年六九〇頁)

◎私印ノ意義

一 私人ノ印影ハ必シモ其氏名ト一致スルコトヲ要セス各人ノ好尚ニ基キ任意其常用ノ印影ヲ採擇シ得ヘキモノナルヲ以テ甲ノ氏名ノ印影ナルノ一事ヲ以テ直ニ之ヲ乙ノ印影ニ非スト謂フヲ得ス(同上大正三年一三六頁)

二 偽造ノ目的タル印章ハ必シモ權利義務ノ證明ニ關スルモノタルコトヲ要セス雅號ヲ彫刻シタル印類ト雖モ特定人ノ印章トシテ行使スル目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ印章偽造罪ヲ構成ス(同上大正三年一一一頁)

◎私人ノ記號偽造 私印偽造罪ハ廣義ニ解シ私人ノ記號偽造ノ行使ヲモ當然包含スルモノト爲スヲ相當トス(同上大正三年二〇一〇頁)

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【學 說】

◎未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部參照)

【判決例】

◎未遂既遂ノ區別(第四十三條(判例)ノ部參照)



◎不能犯ト未遂犯トノ區別(同上)

### 第二十章 偽證ノ罪

第六百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三  
月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

#### 【關係法令】

◎民事訴訟法(明治二十三年)  
法律第二十九號

第三百七條 證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附  
加セサル旨ノ誓ヲ宣フ可シ

又訊問後ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシ旨ノ  
誓ヲ宣フ可シ

◎刑事訴訟法(明治二十三年)  
法律九十六號

第二百二十二條 豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セ  
シム可シ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス  
可シ

第九十條(抜抄) 第一百五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ之ヲ準用ス

第九十五條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思科シタルトキハ裁判  
所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

◎非訟事件手續法(明治三十一年)  
法律第十四號

第十條(抜抄) 人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

◎判事懲戒法(明治二十三年)  
法律第六十八號

第二十三條(抜抄) 下調ノ命ヲ受ケタル判事ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ  
證人ハ治罪法ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問スヘシ

◎會計検査官懲戒法(明治三十三年)  
法律第二十一號

第二十條(抜抄) 懲戒裁判所下調ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ裁判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ  
受命裁判官又ハ受託判事ハ證據集取ニ付刑事訴訟ニ於ケル豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス但シ受命裁判官ハ罰金ヲ  
言渡シ又ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條 證人トシテ懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定  
又ハ通事ノ爲懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者詐欺ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以  
上一年以下ノ重禁錮ニ處ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐欺ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦  
同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ判決ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

◎行政裁判所長官評定官懲戒令(明治三十一年)  
勅令第三百五十四號



第十八條(拔抄) 懲戒裁判所下調ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ裁判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ  
受命裁判官證據ヲ集取スルニ付テハ刑事訴訟ニ於ケル豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス但シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發ス  
ルコトヲ得ス

第三十條 證人トシテ懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又  
ハ通事ノ爲懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者詐欺ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上  
一年以下ノ重禁錮ニ處ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐欺ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同  
シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ判決ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

◎特許法(明治四十二年  
法律第二十三號)

第六十七條(拔抄) 審査又ハ再審査ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲  
スコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言  
渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第九十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其囑託ヲ受タタル裁判所若ハ官廳  
ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◎意匠法(明治四十二年  
法律第二十四號)

第二十二條(拔抄) 特許法第六十六條乃至第六十八條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官  
廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◎商標法(明治四十二年  
法律第二十五號)

第二十一條(拔抄) 特許法第六十六條乃至第六十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官  
廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◎實用新案法(明治四十二年  
法律第二十六號)

第二十條(拔抄) 特許法第六十六條乃至第六十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官  
廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

【學 說】

◎宣誓無能力者ノ偽證

一 宣誓ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ當該官廳ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス證人トシテ宣誓スル



ノ資格ナキ者ト雖モ宣誓シタル以上ハ偽證罪ノ主體ト爲ル(大場博士各論下七九頁、小崎學士各論四四七頁)

二 證人タル資格ナキ者ハ假令宣誓スルモ之カ爲メ其者カ證人能力ヲ獲得シ責任ヲ負フノ理ナシ(勝本博士析義上五九四頁)

三 證人無能力者カ其無能力ナルコトヲ隱蔽シ證人トシテ宣誓シタル場合ニ於テ其證人無能力カ當事者トノ一定ノ關係ニ由來スルトキハ偽證罪ヲ構成スルモ宣誓ノ何タルカヲ解セサル精神不完全ニ由來スルトキハ同罪ノ成立ナシ(牧野博士二一版二六五頁、泉二博士五九三頁)

四 法律上宣誓能力ナキ者カ事實上證人トシテ宣誓シタル場合ニハ偽證罪ヲ構成ス(山岡博士六五三頁)

五 偽證罪ヲ認メテ保護スル法益ハ宣誓ナル形式ナリ故ニ證人トシテ宣誓ヲ爲スノ資格ヲ有スルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ(小崎學士法律新聞明治三八年三二〇號)

六 證人タル資格ナキ者ト雖モ宣誓シテ虛偽ノ供述ヲ爲ストキハ偽證罪ヲ構成ス(法曹會決議法曹記事明治四一年九號)

◎違法ノ訴訟手續ニ於ケル偽證

一 當該事件ノ訴追カ不法ナリトスルモ偽證罪ノ成立ニ影響ナシ(泉二博士五九九頁、牧野博士二一版二六七頁)

二 起訴ノ手續カ無効ナルトキト雖モ其事件ニ付キ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ成立ス(小崎學士法律新聞明治三八年三二〇號)

◎自己ノ犯罪事件ニ關スル偽證

一 證人カ自己ノ訴追ヲ受クヘキ事項ニ付テモ宣誓ヲ爲シ偽證ヲ爲スニ於テハ第六十九條ニ依リ處分スヘキモノトス(飯倉博士法學志林明治四四年四號)

二 證言事項ニシテ自己ノ犯罪事實ニ係ルトキハ縱令宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲スモ偽證罪ヲ構成セス(勝本博士法學志林明治四四年八號、九號)

◎虛偽ノ陳述

一 虛偽ノ陳述ハ法律ニ從ヒ宣誓シタル後ナルコトヲ要シ又事實ニ關スル陳述ナルコトヲ要ス而シテ陳述ノ客體カ客觀的事實ニ關スル場合ニ在リテハ其事實ニ一致セサル場合ニ限り虛偽ノ陳述アリト雖モ陳述ノ客體カ證人ノ知識ニ關スル場合ニハ其知ル所ニ反スル陳述ハ虛偽ナリトス(大場博士各論下八〇二頁)

二 證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ因リ成立スル偽證罪ニ付テハ宣誓カ陳述前ニ在ルコトヲ必要トス(泉二博士五九四頁)

三 若シ夫レ陳述カ眞實ニ反セサランカ假令犯人ハ不實ト信シテ供述スルモ無罪ナリ(勝本博士析義上六〇〇頁)

四 陳述カ誠實ナラサルコト即チ虛言ナルコトヲ要スレトモ其陳述ハ必シモ虛偽ナルコトヲ要セス事實ハ現ニ眞正ナルモ尙其陳述ハ虛偽ナルコトヲ得ヘシ(江本博士一五五頁)

五 虛偽ノ陳述トハ證人カ自己ノ經驗ニ反シ眞實ナラサル事實ヲ供述スルヲ謂フ虛偽ハ陳述セル事實ノ全部ニ涉ルト一部ニ關スルトヲ區別セス(山岡博士六五三頁)

六 不實ノ陳述ハ裁判ニ影響ヲ及ホスモノナラサルヘカラス裁判ニ何等影響ヲ與ヘサルモノナルトキハ實害ノ危險ナキカ故ニ罪ト爲ラス(牧野博士一八版三〇六頁)

◎陳述ノ訂正



- 一 偽證罪ハ其犯人ニ對スル訊問ヲ終リタルトキ初メテ成立ス故ニ訊問終結前ニ於ケル證言ノ訂正ハ犯罪ノ成立ヲ阻却ス(牧野博士一八版三〇六頁 大場博士各論下八一四頁)
- 二 一旦虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキト雖モ訊問終結前之ヲ變更シテ眞實ト爲シタルトキハ本罪ヲ構成セス(泉二博士 五九六頁)
- 三 同一被告事件ニ付キ同一宣誓ノ下ニ數回訊問セラレタル場合ニ於テハ前後ノ陳述ヲ通シテ一個ノ證言ト謂フヘク從テ一旦虛偽ノ陳述ヲ爲スモ後ノ陳述ニ於テ之ヲ訂正シタルトキハ偽證罪ヲ成立セス(小崎學士法律新聞明 治三八年三二〇號)

【判決例】

◎違法ノ訴訟手續ニ於ケル偽證

- 一 證人トシテ訊問セラレタル被告事件ノ起訴ニシテ不法ノ點アリトスルモ苟モ證人トシテ訊問ヲ受クルニ際シ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス(大審院判決錄明治 三三年五卷九頁)
- 二 起訴ノ手續無効ナル以上ハ之ニ基ク豫審處分モ亦無効ナリ從テ證人ニシテ豫審判事ノ訊問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトスルモ偽證罪ヲ構成セス(同上三四年 一卷一八頁)
- 三 刑事被告事件ニ關シ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ宣誓シタル證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ構成シ公判手續ニ違法ノ廉アリテ其公判ノ無効ヲ來タスコトアルモ偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス(同上明治四五 年一〇七三頁)

◎事實ニ適合スル陳述ト偽證罪ノ成立

- 一 或事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタルト稱シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ於テハ偽證罪ハ完全ニ成立ス而シテ證人カ現ニ見聞シタルト偽リタル事實カ偶々實際ノ事實ニ適合スルモ偽證罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(同上明治三五 年八卷二七頁)
- 二 事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタルト稱シ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ完成シ其現ニ見聞シタルト供述セル事實カ實際ノ事實ニ符合スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(同上明治四二 年七三五頁)
- 三 苟モ證人カ其實驗セサル事實ヲ實驗シタルモノノ如ク偽リ證言スルトキハ常ニ偽證罪ヲ構成スルモノニシテ其證言カ偶々事實ニ適合スルカ如キハ該犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキニ非ス(同上明治四四 年一八 二五頁)
- 四 偽證罪ハ證言ノ不實ナルコトヲ要件トセサルヲ以テ證言ノ内容タル事實カ眞實ニ一致シ若クハ少クトモ其不實ナルコトヲ認ムル能ハサルトキト雖モ證人カ故ラニ其記憶ニ反シタル陳述ヲ爲スニ於テハ同罪ヲ構成ス(同上大正三 年六五七頁)

◎訊問調書讀聞後ノ陳述取消 證人カ訊問ノ後調書ノ讀聞ヲ受ケ其陳述ヲ増減變更セサル意思ヲ表示シタルトキハ其供述ハ確定シ之ト共ニ偽證罪カ成立ス從テ證人カ其後該供述ヲ取消スモ同罪ヲ

消滅セシムルモノニ非ス(同上明治三五 年九卷七五頁)

◎裁判ニ影響ナキ陳述ト偽證罪ノ成立



- 一 犯人カ訊問事項ニ付テ事實ニ反スルコトヲ知リナカラ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ縱令其證言カ裁判ノ結果ニ何等ノ影響ヲ有セサル場合ト雖モ偽證罪ノ刑責ヲ免レス(大審院判決録明 治四〇年一九頁)
- 二 適法ニ宣誓シタル證人ニシテ苟モ訊問事項ニ關シ事實ニ反スルコトヲ知リナカラ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ直ニ偽證罪ヲ構成ス而シテ其陳述カ當該事件ノ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ問フ所ニ非ス(同上明治四三 年一七一八頁)
- 三 證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ假令其證言カ裁判ノ結果ニ對シ法律上何等ノ影響ヲ來スヘキ虞ナキ場合ニ於テモ尙偽證罪ヲ構成ス(同上明治四 四年四三頁)
- 四 新刑法ニ於ケル偽證罪ノ構成條件トシテハ證人カ宣誓ノ上裁判官ノ訊問ニ對シ虚偽ノ事實ヲ陳述シタルノミヲ以テ足り其陳述カ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスノ虞アリヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ(同上大正二 年八四八頁)

◎宣誓無能力者ノ偽證

- 一 證人タル資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス其訊問手續ノ瑕瑾ノ如キハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス(同上明治四一 年四九六頁)
- 二 苟モ適法ニ宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ縱令其宣誓ヲ爲ス資格ナキコトヲ隱秘シテ宣誓シタル場合ト雖モ偽證罪ノ成立ヲ妨ケス(同上明治四二 年八〇八頁)
- 三 事實上證人タル資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス(同上明治四二 年一四九八頁)

四 苟モ證人トシテ適法ニ宣誓シタル上虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ資格審査ノ瑕疵若クハ無資格者タルコトノ隱秘ニ依リ證人タル資格ナキ者ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタル場合ト雖モ偽證罪ノ成立ヲ妨ケス(同上明治四二 年一五七三頁)

五 證人トシテ適法ニ宣誓シタル後虚偽ノ陳述ヲ爲シタル所爲ハ偽證罪ヲ構成ス而シテ被告カ其宣誓ノ當時現ニ證人タル資格ヲ有シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(同上明治四三 年一五八五頁)

六 證人無資格者ト雖モ自ら其身分ヲ隱秘シ或ハ裁判所カ審査ノ不完全ナル等何等ノ事由ニ基因スルトヲ問ハス苟モ證人トシテ適法ノ宣誓ヲ爲シタル上虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ハ成立ス(同上大正四 年一九頁)

◎自己ノ犯罪事件ニ關スル偽證

- 一 刑事被告人カ自己ヲ曲庇スル爲メ他人ニ囑託シテ偽證ヲ爲サシメタルトキハ第六十九條ノ罪ニ對スル教唆トシテ同條及ヒ第六十一條第一項ヲ適用スヘキモノトス(同上明治四二 年一一六一頁)
- 二 刑事被告人カ他人ヲ教唆シテ自己ノ利益ト爲ルヘキ虚偽ノ證言ヲ爲サシメタル所爲ハ偽證教唆罪ヲ構成ス(同上四三年 一一九一頁)
- 三 偽證罪ハ宣誓ニ背キテ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナレハ苟モ證人トシテ適法ニ宣誓シタル以上ハ假令其證言ノ事項ニシテ自己ノ犯罪事實ニ係ルコトアルモ虚偽ノ陳述ヲ爲セハ同罪ハ完全ニ成立ス(同上明治四四 年一六二頁)
- 四 苟モ法律ニ依リ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ偽證罪ヲ構成スヘク其陳述



ニ係ル事項カ陳述者ノ犯罪行為ニ關スルト否トハ同罪ノ成立ニ影響ナシ(大審院判決録明治四四年四五頁)

五 自己ニ對スル刑事被告事件ニ付キ他人ヲ教唆シテ偽證ヲ爲サシメタルトキハ偽證教唆罪ヲ構成ス(同上大正三年一三二五頁)

◎偽證ノ目的

一 偽證罪ハ犯人ノ目的カ曲庇又ハ陷害スルニ在ルト否トヲ問ハサルハ勿論其陳述カ現實被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルコトヲ知リタルヤ否ヤモ亦犯罪ノ成立ニ影響ナシ(同上明治四二年一三三五頁)

二 犯人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル原因如何ハ偽證罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(同上明治四二年一五七三頁)

◎適法ノ効力ナキ陳述ト偽證罪ノ成立 偽證罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虚偽ノ供述ヲ爲スニ因リ直ニ成立スルモノニシテ其供述ニ依ル事實カ法律上適法ノ効力ヲ有スヘキモノナルト否トハ何等同罪ノ成立ニ影響ヲ有スルモノニ非ス(同上明治四三年一〇四頁)

◎宣誓ノ前後ト偽證罪ノ成立 偽證罪ノ成立スルニハ證人カ適法ニ宣誓シタル後ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ必要トセス故ニ宣誓カ陳述ノ前ニ在ルト其後ニ在ルトニ因リテ本罪ノ構成ニ影響ヲ及ボスコトナシ(同上明治四五年一〇五頁)

◎不知ノ事項ト偽證罪ノ成立 偽證罪ハ適法ニ宣誓シタル證人カ故意ニ自己ノ認識セル事實ニ反シテ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ因リ成立シ證人カ供述スヘキ事項ニ付キ真正ノ事實ヲ熟知スルコトヲ必要トセス(同上大正二年六八九頁)

◎偽證罪ノ罪數 同一事件ニ付キ同一豫審廷ニ於テ同一被告人ヲ曲庇スル爲ニサレタル虚偽ノ陳述

ハ縱令數個ノ事實ニ關スル場合ト雖モ一箇ノ偽證罪ヲ構成ス(同上大正四年二〇七一頁)

第七百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

【關係法令】

- ◎會計検査官懲戒法(第六十九條(關係法令)ノ部参照)
- ◎行政裁判所長官評定官懲戒令(同上)
- ◎特許法(同上)
- ◎意匠法(同上)
- ◎商標法(同上)
- ◎實用新案法(同上)

【判決例】

◎偽證ノ自白ノ意義 犯人カ自己ノ犯罪事實ヲ自首シ又ハ當該官ノ問ニ對シ自白シタル場合ハ第七百七十條ノ自白ニ該當ス(大審院判決録明治四二年一七九五頁)

◎刑ノ免除ノ意義 第七百七十條ニ依ル刑ノ免除ノ判決ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモノニ非ス却テ之ヲ有罪ト認メテ只其刑ヲ免除セルニ過キサレハ被告人ハ之ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ(同上大正三年)



●偽證ノ自白ト第二審ニ於ケル取消 第七十條ノ減免ハ當該被告ニ於テ其偽證シタル事件ノ裁判確定前一度自白シタル事實アルヲ以テ足り第二審ニ至ルモ尙一貫シテ其自白ノ旨趣ヲ支持スルコトヲ要スルモノニ非ス(大審院判決録 大正四二六八頁)

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

【關係法令】

- 會計検査官懲戒法(第六十九條(關 係法令)ノ部参照)
  - 行政裁判所長官評定官懲戒令(同上)
  - 特許法(同上)
  - 意匠法(同上)
  - 商標法(同上)
  - 實用新案法(同上)
  - 裁判所構成法(明治二十三年 法律第六號)
  - 第七十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ
- 當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用キルコトヲ要スル場合

ニ於テ之ヲ用ウ

第七十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

●民事訴訟法(明治二十三年 法律第二十九號)

- 第七十五條(抜抄) 裁判所ハ辯論ニ與カル者日本語ニ通セサルトキハ通事ヲ立會ハシム
- 第七十六條 裁判所ハ辯論ニ與カル者聾又ハ啞ナルトキ之ニ文字ヲ以テ理會セシムルコトヲ得サル場合ニ限リ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得
- 第七十九條 鑑定人ハ其鑑定ヲ爲ス前ニ其鑑定人タル義務ヲ公平且誠實ニ履行ス可キ旨ノ誓ヲ宣フ可シ

●刑事訴訟法(明治二十三年 法律第九十六號)

- 第一百條 被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命スヘシ
- 第一百一條 通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ
- 書記ハ通事ニ讀書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ
- 第七十六條(第七十七條以下ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス)
- 第七十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ其宣誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ
- 第九十條 第七十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第二百二十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス
- 第九十五條(第六十九條「關係法令」ノ部参照)



第九十六條 被告人聲者、啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ第百條第百一條ノ規定ニ從フ

●非訟事件手續法(明治三十一年法律第十四號)

第十條(抜抄) 證人及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

●土地收用法(明治三十三年法律第二十九號)

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

### 【學 說】

- 宣誓無能力者ノ偽證(第百六十九條(學說)ノ部參照)
- 無効ノ訴訟事件ニ於ケル偽證(同上)
- 自己ノ犯罪事件ニ於ケル偽證(同上)
- 虛僞ノ陳述(同上)
- 陳述ノ訂正(同上)

### 【判決例】

- 違法ノ訴訟手續ニ於ケル偽證(第百六十九條(判決)ノ部參照)
- 事實ニ適合スル陳述ト偽證罪ノ成立(同上)
- 訊問調書讀聞後ノ陳述ノ取消(同上)

●裁判ニ影響ナキ陳述ト偽證罪ノ成立(同上)

●宣誓無能力者ノ偽證(同上)

●自己ノ犯罪事件ニ關スル偽證(同上)

●偽證ノ目的(同上)

●適法ノ効力ナキ陳述ト偽證罪ノ成立(同上)

●宣誓ノ前後ト偽證罪ノ成立(同上)

●偽證罪ノ罪數(同上)

●事實ニ符合スル陳述ト詐欺鑑定罪ノ成立 詐欺鑑定罪ハ鑑定人カ自己ノ所信ニ反シテ虛僞ノ意見判斷ヲ陳述スルニ因リ完成シ其鑑定カ偶々客觀的眞實ニ符合スルモ亦其鑑定カ爾後如何ニ使用セラレタルヤハ同罪ノ成立ニ關係ナシ(大審院判決錄明治四十二年一七九五頁)

### 第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

### 【關係法令】



●刑事訴訟法(明治二十三年法律第九十六號)

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原告告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ  
民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

【學 說】

●誣告罪ノ法益

- 一 誣告ハ一方ニ於テハ國家ノ司法其他ノ事務ヲ紛亂スルモノナリ他方ニ於テハ被誣告者ノ名譽其他ノ法益ヲ侵害スルモノナリ誣告罪ハ此兩者ノ一ヲ侵害スルコトニ因テ成立ス(牧野博士一八)版三〇八頁
- 二 誣告ハ行爲者カ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ事實タルコトヲ知リナカラ當該官署ニ虛偽ノ申告ヲ爲スモノニシテ誣告罪ニ因リ害セラルヘキ法益ハ國家ノ裁判事務ナリ(大場博士各論)下七七〇頁

●誣告罪ノ客體

- 一 虛無或ハ死亡シタル人ニ對スル誣告モ亦罪トナル(牧野博士一八)版三〇九頁

- 二 誣告セラレタル者ハ刑事又ハ懲戒處分ノ客體ト爲リ得ヘキ他人タルコトヲ要ス死者及ヒ狂人ハ客體トナラス(泉二博士六〇三頁、山岡博士六五五頁)

- 三 誣告ノ客體ハ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルコトヲ得ル人格者ナラサルヘカラス法人カ罰セラレヘキ場合ニ於テハ法人モ亦本罪ノ客體タルコトヲ得ヘキモ死者ハ其客體トナラス(大場博士各論)下七七二頁

●申告ノ方法

- 一 虛偽ノ申告ハ口頭ニ依ルト書面ニ依ルトヲ問ハス署名アルト匿名ナルト他人ノ名義ヲ用キルトヲ論セスト雖モ犯罪事實ニ付テハ搜查權アル官吏ニ對シ又懲戒事實ニ付テハ懲戒手續ヲ開始シ得ヘキ者ニ對スル申告ナラサルヘカラス(牧野博士二二)版二六九頁
- 二 誣告ハ被誣告者ヲ特定シ得ヘキコト刑事若クハ懲戒處分ヲ受クヘキ事實ヲ申告スルコト及ヒ申告ニ依リ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケ又ハ受クル虞アルコトヲ要ス但申告ハ必シモ自ら進ンテ之ヲ爲スコトヲ必要トセス(大場博士各論)下七七四頁
- 三 誣告ハ進ンテ犯罪事實ヲ申告スルコトヲ要スルカ故ニ官廳ヨリ召喚ヲ受ケ又ハ官吏ノ訊問ニ對シ或事實ヲ申告スルモ同罪ヲ構成セス(勝本博士析義下二四六頁)山岡博士六五七頁
- 四 申告トハ自ら發言シタル報告、意味ス從テ證人、參考人又ハ被告人トシテ官署ノ訊問ヲ受クルニ際シ他人ニ關スル不實ノ陳述ヲ爲スモ誣告ト謂フコトヲ得ス(小崎學士各論七三二)泉二博士六〇四頁

●申告ヲ受クル官廳又ハ官吏

- 一 誣告ハ當該官廳若クハ官吏ニ申告ヲ爲スヲ謂フ當該官廳トハ刑事處分ノ手續ヲ開始スル職權



ヲ有スル官廳若クハ官吏及ヒ懲戒處分ノ手續開始ノ上申ヲ爲シ又ハ自ら懲戒處分ヲ爲シ得ヘキ職務アル官廳若クハ官吏ヲ指稱ス(大場博士各論下七八〇頁 山岡博士各論六五六頁)

二 官ニ申告スルコトヲ要ス官トハ犯罪捜査ノ職權アル者ヲ意味ス例ヘハ檢事、警視總監、地方長官、司法警察官ノ如キ是ナリ(小崎學士各論七三三頁)

三 誣告ハ當該官廳ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ニ出テタル誣告ハ犯罪ノ捜査權アル者即チ檢事又ハ司法警察官ニ爲スコトヲ要ス通例トス巡查ニ對シテ爲シタル申告ハ司法警察官ニ到達シタル場合ニ限り本罪ヲ構成ス懲戒處分ヲ受ケシムル目的ノ誣告ハ抽象的ニ懲戒權ヲ有スル長官ニ向ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス(泉二博士各論六〇五頁)

四 誣告ハ相當官吏ニ對スル申告ナラサルヘカラス犯罪事實ニ付テハ捜査權アル者(巡查ヲ含ム)又懲戒ニ該當スヘキ不法行爲ニ付テハ懲戒手續ヲ開始シ得ヘキ者ニ向ヒ之ヲ爲シタルコトヲ要ス(牧野博士二一版二六九頁)

◎懲戒處分ノ意義

一 懲戒ノ處分トハ刑事ノ處分ヲ除ク外一般ニ實質上ノ刑罰ヲ指ス故ニ官吏及ヒ官吏待遇者ノ懲戒及ヒ辯護士公證人ノ懲戒ハ勿論民法商法ニ定メタル過料(民法八四條、一一〇條、商法一八條二項、二六一條、二六二條、五三六條)ノ處分モ亦懲戒ナリ(牧野博士二一版二六九頁)

二 總テノ過料ヲ懲戒罰ナリト解スルコト能ハス身分又ハ戶籍ニ關スル過料ノ如キハ懲戒罰ニ非ス(泉二博士各論六〇七頁)

三 懲戒處分トハ公務員及ヒ公務員ニ準スヘキ職務ヲ有スル者ニ對スル懲戒處分ヲ指稱ス(大場博士各論下七七六頁)

四 第七十二條ニ所謂懲戒處分中ニハ戶籍法違反ノ過料處分ヲ包含セス(法曹會決議法曹記事明治四四年三號)

【判決例】

◎數人ニ對スル一誣告行爲ノ罪數

一 二人ヲ陷害セン爲メ誣告ヲ爲シタルトキハ其各人ニ對シ各誣告罪ヲ構成ス從テ其告訴狀カ一通ナリシトテ之ヲ一行爲ト爲スコト得ス(大審院判決錄明治三四年六卷三六頁、明治三七年一二五一頁)

二 數人ヲ陷害スル目的ヲ以テ誣告ヲ爲シタル場合ニハ其被害者ノ數ニ應シ各獨立シテ數個ノ誣告罪ヲ構成ス(同上明治四〇年一一六九頁)

三 數人ニ對シ日時ヲ異ニシ數回誣告ヲ爲シタル場合ト雖モ其告訴ノ事實同一ナル以上ハ各被害者ニ對シ各一罪ヲ構成スルニ過キス(同上明治四〇年一一六九頁)

四 一片ノ書面ヲ以テ數人ヲ誣告シタル行爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ其重キ刑ニ從ヒ處罰スヘキモノトス(同上明治四三年七五八頁)

五 一通ノ告訴狀ヲ以テ二人ニ對スル虛偽ノ申告ヲ爲シタルトキハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(同上明治四四年一八五二頁)

六 誣告ハ國家ノ裁判權ノ行使ヲ恣ラシメ又ハ恣ラシムル虞ヲ生シ公益ヲ害スルト同時ニ直接被



誣告者ノ人格ヲ侵害スルモノナレハ一個ノ行爲ヲ以テ數人ヲ誣告シタルトキハ其各人ニ對スル  
法益侵害アリテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナリ(大審院判決錄大  
正二年五四二頁)

●一人ニ對スル數個ノ誣告行爲ノ罪數

- 一 數多ノ事項ヲ掲ケテ一人ヲ陷害セントスルモ陷害ノ結果ハ唯一ナルカ故ニ縱令一人ヲ陷害スル爲メ數罪アリト誣告シタルハトテ數罪ヲ成スモノニ非ス(同上明治三七年一二五二頁)
- 二 一人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシメタル爲メ數個ノ不正行爲ヲ掲ケテ虛偽ノ申告ヲ爲シタル場合ニ於テモ單一ノ誣告罪ヲ構成スルニ過キス(同上明治四三年四二七頁)
- 三 數個ノ犯罪アリトシテ不實ノ申告ヲ爲スモ其申告ニシテ一通ノ告訴狀ヲ以テ一人ニ對シタルトキハ單一ナル誣告罪ヲ成スニ過キス(同上明治四四年二二四頁)
- 四 同一誣告事項ヲ記載シタル書面數通ヲ搜查官吏ニ送致シタルトキハ縱令該書面ヲ同時ニ發送スルモ一個ノ行爲ニ非スシテ誣告罪ノ連續犯ナリ(同上明治四四年一八二〇頁)
- 五 誣告罪ハ一方國家ノ裁判ニ對スル公ノ法益侵害ナルト同時ニ他方ニ於テ個人ノ名譽信用ニ對スル私ノ法益侵害タルヘキ行爲ニシテ之ニ關スル一個ノ行爲カ誣告罪ニ觸ルル個數ヲ測定スルニハ私ノ法益侵害ノ側面ニ就キ計量スヘキモノトス故ニ一人ニ對シ數個ノ犯罪ニ關シ誣告ヲ爲スニ於テハ私ノ法益侵害ハ一個ナレハ即チ一個ノ罪名ニ觸ルルニ止マル(同上明治四五年九七三頁)
- 六 一人ヲ陷害スル爲メ數罪ヲ犯セリト申告スルモ侵害セラレタル法益ハ唯一ニシテ一個ノ誣告罪ヲ構成スルモノナリ(同上大正二年三〇二頁)

●申告ノ方法

- 一 他人ヲ誣告スル爲メ提出シタル告訴狀カ法律上ノ條件ヲ具備スルト否トハ誣告罪ノ成立ニ何等ノ影響ナキモノトス(同上明治四〇年五四四頁)
  - 二 人ヲシテ處罰ヲ受ケシムル爲メ虛偽ノ事實ヲ當該官ニ申告シタル行爲ハ其口頭ニ依ルト否トヲ問ハス又書面ニ依ル場合ニハ署名アルト匿名ナルト將タ他人ノ名義ヲ用ヒタルトヲ論セス同シク誣告罪ヲ構成ス(同上明治四二年五一八頁)
  - 三 誣告罪ハ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ事實ヲ官ニ申告スルニ依リテ成立スルモノナレハ其告訴事項カ法律上ノ犯罪構成要件ヲ具備スルト否ト又其告訴ハ自己ノ名義ヲ以テスルト否トハ右犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ(同上明治四五年五四九頁)
  - 四 誣告罪ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ當該官ニ虛偽ノ事實ヲ申告スルニ因リ成立シ其申告ノ方法又ハ形式等ノ如何ハ同罪ノ成立ニ影響ナキモノトス(同上大正元年一三九頁)
- 誣告罪ノ著手 誣告ハ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メ不實ノ事項ヲ申告スルニ因リテ成立スルモノナレハ單一其事項ヲ記載セル書面ヲ郵便ニ付スルモ未タ以テ犯罪行爲ニ著手シタルモノト謂フヲ得ス何トナレハ其書面ノ到達セサル限りハ未タ申告ノ事實ナケレハナリ(同上明治四三年一二七七頁)
- 申告ヲ受ケル官廳又ハ官吏
- 一 懲戒處分ヲ受ケシムル爲メ誣告罪ハ必シモ訴追權アル本屬長官ニ對シテ之ヲ爲スヲ要セス暨



督權アル上官ニ對シ之ヲ爲スヲ以テ足ル故ニ區裁判所書記ヲシテ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ其監督判事又ハ地方裁判所長ニ對シテ虛偽ノ申告ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦同罪ヲ成立ス

(大審院判決錄明治四五年四六二頁)  
二 懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ爲ス虛偽ノ申告カ誣告罪ヲ構成スルニハ其本屬長官ニ對シ之ヲ爲スヲ要セス官吏ノ服務紀律違背ヲ本屬長官ニ具申シ懲戒處分ヲ促スノ職權ヲ有スル監督者ニ對シテ爲スヲ以テ足ル(同上大正二年七六九頁)

三 虛偽ノ事實ヲ記載セル告訴狀ヲ警察分署ニ提出シ司法警察官ニ不實ノ申告ヲ爲シタル以上ハ其申告カ檢事ニ到達セサル以前ト雖モ誣告罪ハ完成ス(同上大正二年三六七頁)

四 誣告罪ノ成立ニハ搜查權ヲ有スル官吏又ハ補助機關タル官吏ニ對シテ虛偽ノ申告ヲ爲スヲ以テ足り其申告カ起訴權アル官廳ニ到達スルコトヲ要セス(同上大正二年九三一頁)

五 誣告罪ノ成立ニハ告訴狀カ當該搜查官署ニ到達シ搜查官吏ノ閱覽シ得ヘキ狀態ニ措カルルヲ以テ足り該官吏カ之ヲ受理シテ搜查ニ著手シタルコトヲ必要トセス(同上大正二年二〇〇六頁)

六 誣告罪ノ申告ハ搜查官又ハ監督者ヲシテ特定人ニ對シテ犯罪行爲又ハ職務違背行爲ヲ認知セシメ以テ其取調ヲ促スヘキ程度ニ在ルヲ以テ足ル(同上大正四年二七五頁)

●誣告ト偽證トノ關係 刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ他人ヲ誣告シタル行爲ト其誣告ノ結果他人カ被告人トシテ取調ヲ受クルニ際シ證人トシテ虛偽ノ證言ヲ爲シタル行爲トハ全然別個ノ行爲ニシテ別個ノ罪條ニ觸レ各獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノトス(同上大正元年一一三七頁)

●被害者ノ承諾ト誣告罪ノ成立 誣告罪ハ個人ノ權利ヲ侵害スルト同時ニ公益上當該官憲ノ職務ヲ誤ラシムル危險アルカ爲メ處罰スルモノナレハ縱シ被誣告者ニ於テ承諾アリトスルモ同罪成立ニ影響ヲ及ホサス(同上大正元年一五六七頁)

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

【判決例】

●刑ノ免除ノ意義(第七十條(判例)ノ部參照)

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

【關係法令】

●警察犯處罰令(明治十一年內務省令第十六號)

第三條(按抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ料料ニ處ス

二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒褻裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

第二編 第二十一章 第七十三條 判決例 第三章 第五十四條 關係法令



【學 說】

◎公然ノ意義

- 一 公然トハ不特定ノ人又ハ多數ノ人ノ面前ニ於テスルノ意ナリ但是等ノ人カ實際之ヲ目撃シタルコトヲ要セス目撃サレ得ル狀況ニ在ルコトヲ以テ足レリトス(牧野博士二版二七一頁、三一七頁、岡田ドクトル五〇二頁)
  - 二 公然トハ不定多數ノ人ニ覺知セラレ得ル狀態ノ意味ス住宅内ト雖モ隣家又ハ往還ヨリ覺知シ得ヘキ狀態ニ在ルトキハ公然タルヲ妨ケス(泉二博士七七一頁、七八五頁)
  - 三 公然トハ行為ノ情況ニ從ヘハ猥褻ノ行為カ不定多數ノ人ニ依リ實見セラルルトキヲ謂フナリ即チ行為者ト個人的關係アル者以外ノ公衆ニ依リ實見セラルヘキ場合ニ於テ之ヲ爲スニ於テハ公然猥褻ノ行為アリト解ス(大場博士各論下四六五頁)
  - 四 公然トハ不定多數人カ覺知シ得ヘキ狀態ニ在ルヲ謂フ道路公園公衆出入ノ場所ハ勿論自己ノ住宅ト雖モ公衆ノ覺知シ得ヘキ狀態ナルトキハ之ヲ公然ナリト謂フヲ妨ケス(山岡ドクトル三九七頁、五七七頁)
  - 五 公然トハ秘密ニ對スル語ナルヲ以テ秘密ニ非サル者ハ總テ公然ナリ(勝本博士析義下二六五頁)
  - 六 所謂公然トハ不特定ナル多數ノ人ニ知ラレ得ヘキコトヲ謂ヒ現ニ或人ニ依リ發見セラレタルコトヲ要件トス(法曹會決議法曹記事明治四一年九號)
- ◎猥褻行為ノ意義
- 一 猥褻行為トハ淫慾ヲ興奮シ又ハ之ヲ満足セシムル目的ニ出テタル行為ニシテ覺知者ニ醜恥ノ

感念ヲ生セシムルモノヲ謂ヒ猥褻物トハ同上ノ目的ヲ以テ製作セラレタル文書圖書ヲ謂フ(泉二七二頁)

- 二 猥褻トハ陰陽ニ關スル醜陋背德ノ所行ヲ謂フ(江木博士一六七頁)
  - 三 猥褻行為トハ情慾ヲ刺激シ又ハ満足セシムル行為ヲ謂フ(岡田ドクトル三三四頁)
  - 四 猥褻行為トハ色情ニ關スル行為ナリ異性間ノ交接、強姦、獸姦乃至手淫等凡テ色慾ノ興奮又ハ満足ヲ來タスヘキ行為上ノ一切ヲ包括ス(山岡ドクトル五七四頁)
  - 五 猥褻ノ所爲トハ淫事ニ關シ見ルニ堪ヘサル醜行ヲ總稱ス本罪ニハ未遂ナシ蓋シ猥褻トハ或所爲ノ性質ヲ形容シタル語ナレハナリ(勝本博士析義下二二二頁)
  - 六 猥褻行為トハ客觀的ニ之ヲ言ヘハ淫事ニ關シ風紀ヲ紊ル行為即チ羞恥ノ感覺ヲ惹起スル行為ヲ謂ヒ主觀的ニ之ヲ言ヘハ行為者カ淫慾ヲ起シ若クハ之ヲ満足セシムル爲メニ行フ行為ヲ謂フナリ例ヘハ同性間ノ猥褻ノ行為異性間ノ天然ニ反スル淫事又ハ獸類ヲシテ人ト姦セシムル行為ノ如シ(大場博士各論上三五九頁)
  - 七 猥褻行為トハ色情ヲ喚起シ又ハ満足セシムル爲メ若クハ既ニ喚發シタル色情ヲ外部ニ表現スル目的ニ於テ爲サレト同時ニ淫事ニ關シ現時社會ニ畫カレタル一般風儀上ノ感情(貞操)ヲ著シク傷害スル處ノ行為ヲ稱ス(小崎學士各論六九五頁)
- ◎強制猥褻強姦罪ト公然猥褻罪トノ關係 公然ノ場所ニ於テ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其行為中ニハ公然猥褻ノ行為ヲモ包含スルヲ以テ第四百七十四條ニ違犯スル部分ノ



ミヲ分離シテ處罰スルコトヲ得ス(法曹會決議法曹記事)  
(明治四十二年一〇頁)

### 【判決例】

◎強制猥褻罪ト公然猥褻罪トノ關係(第七十六條(判例)ノ部參照)

第七十五條 猥褻ノ文書、圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス 販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

### 【關係法令】

◎出版法(明治二十六年法律第十五號)

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一

日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布

セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

◎新聞紙法(明治四十二年法律第四十一號)

第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得

第三十八條(抜抄) 第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 【學說】

◎公然ノ意義(第七十四條(學說)ノ部參照)

◎猥褻行為ノ意義(同上)

◎頒布販賣陳列ノ意義

- 一 頒布トハ公衆ニ分配スルノ意ナリ販賣トハ有價名義ニ於ケル讓渡ナリ陳列トハ容易ニ人ノ知覺ニ上ルヘキ裝置ヲ爲スヲ謂フ(牧野博士二二頁)
- 二 頒布トハ多數人ニ配布スル行為ヲ爲スヲ謂フ未タ配布セサルモ配布スヘキ行為ヲ爲セハ頒布ナリ販賣トハ單一ナル賣買ト同一ナラス營業トシテ又ハ同種類ノ多數ノ物ヲ賣却スル行為ノ一



トシテ爲スヲ謂フ(大場博士各論 下四六八頁)

三 頒布ハ多數人間ニ頒布スルナリ販賣ハ多數ノ賣却ヲ目的トスル賣却行爲ナリ陳列ハ不定多數人ノ認知シ得ル場合ニ猥褻物ヲ置ク意味ナリ(泉二博士 七一三頁)

四 販賣トハ賣買ニ依リ物體ノ引渡ヲ爲スコトヲ意味ス陳列トハ人ノ視得ラルヘキ場所ニ置クノ義ニシテ一個タルト數個タルトヲ問ハス(小崎學士各論 四八四頁)

五 頒布トハ多數人ニ配布シタルヲ謂ヒ販賣トハ多數ノ賣却ヲ爲ス目的ヲ以テ企テタル各個ノ有價名義ニ於ケル讓渡ナリ陳列トハ不定多數人ニ猥褻物ノ内容ヲ知覺シ得ヘキ裝置ヲ爲スコトヲ謂フ(山岡ドクトル 五八〇頁)

六 非賣品タル出版物ト雖モ種類及ヒ員數ノ不定ナル多數カ觀察シ得ヘキ狀況ニ在ルトキハ公然ノ陳列ナリ(法曹會議議決法曹記 事明治四四年一號)

### 【判決例】

◎文書圖書發賣頒布ト猥褻罪 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ自ラ印刷シテ發賣頒布又ハ所持スル行爲ハ出版法第二十七條ニ依リ處斷スヘク刑法第七十五條ヲ適用スヘキニ非ス(大審院判決錄大正四年一九七八頁)  
第七百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對

シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

### 【關係法令】

◎年齡計算ニ關スル件(第四十一條(關係法令)ノ部參照)

◎民法(同上)

### 【學說】

◎猥褻行爲(第七百七十四號(學說)ノ部參照)

◎暴行脅迫(第九十五條、第二百三十三條(學說)ノ部參照)

◎夫婦間ノ強制猥褻 強制猥褻罪ハ夫婦間ニ於テモ亦之ヲ行フヲ得ヘシ蓋夫婦間ト雖モ正當ナル交接以外ノ猥褻行爲ヲ強要サルル義務ヲ有スルモノニ非サルニ依ル(岡田ドクトル三五三頁、山岡ドクトル五八七頁)

### 【判決例】

◎強制猥褻罪ト公然猥褻罪トノ關係 第七百七十六條ノ猥褻行爲ハ公然之ヲ爲スコトヲ必要トセサルカ故ニ若シ公然猥褻行爲ヲ爲シタルトキハ同條及ヒ第七百七十四條ノ罪ヲ構成シ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(大審院判決錄明治四三年二〇一五頁)

◎強制猥褻罪ト強姦罪トノ關係 第七百七十六條ノ猥褻行爲中ニハ第七百七十七條ノ強姦行爲ヲ除外ス



ルノ法意ナリ(大審院判決録大正三年一五四三頁)  
第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

【學 說】

◎暴行脅迫ノ意義(第九十五條、第二百三十三條(學說)ノ部参照)

◎強制猥褻強姦罪ト公然猥褻罪トノ關係(第七十四條(學說)ノ部参照)

◎強姦罪ノ主體 強姦罪ノ主體ハ普通男子ナレトモ女子ト雖モ或ハ單獨ニ或ハ男子ノ共犯者トシテ其主體トナリ能ハサルニ非ス例ヘハ婦女カ精神病者ヲ使用シテ他ノ婦女ヲ強姦セシメタル如キハ前者ニシテ間接正犯ノ一ナリ(大場博士各論上三四六頁、岡田ドクトル三五五頁、小崎學士各論七〇七頁)  
◎姦淫ノ意義及ヒ強姦ノ既遂

- 一 姦淫トハ男女間ニ於ケル不正ノ性交ヲ謂フ陰陽ノ交接(没入)アルヲ以テ足ルモノト爲ス(泉博士三頁)
- 二 強姦ハ暴行脅迫ヲ手段ト爲ス婚姻外ノ性交ニシテ陽物ヲ陰腔内ニ挿入シタルトキ其既遂トス淫欲ヲ遂ケタルヤ否ヤハ之ヲ問ハス(大場博士各論上三四七頁、岡田ドクトル三五六頁)

- 三 強姦ノ既遂ハ生殖器ノ接合ヲ以テ成立スルモノトナスヲ通説トス(山岡ドクトル五八九頁)
- 四 男女ノ生殖器カ互ニ交媾スルトキ既遂ト爲ル(小崎學士各論七〇四頁)
- 五 姦淫ハ交接即チ情慾ヲ充タスコトヲ意味スルカ故ニ情慾ヲ遂ケタルトキ既遂ト爲ル(勝本博士二頁)

◎妻ニ對スル強姦

- 一 夫ノ妻ニ對スル強制姦淫ハ罪ト爲ルヤ否ヤハ問題ナレトモ消極ニ決スルヲ通説トス(山岡ドクトル五八頁)
- 二 夫ハ妻ニ對シテモ暴行又ハ脅迫ヲ加フルノ權利ナキカ故夫カ妻ノ意ニ反シ性交ヲ遂ケントシ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルトキハ強姦罪トシテハ罰セラレサルモ暴行脅迫ノ點ニ付テ處罰ヲ免レス(大場博士各論上三四五頁)
- 三 妻カ夫ニ服従スルコト能ハサル分娩前後又ハ病中ノ如キ場合ニハ情交ニ關スル服従義務ナキカ故ニ本罪成立ス(岡田ドクトル三五六頁)
- 四 夫婦ノ間ニ於テハ法律上常ニ任意ノ承諾アルモノニシテ離婚スルニ非サレハ此承諾ヲ取消スコトヲ得ス故ニ強姦スルコトヲ得ス(江本博士一七二頁)
- 五 夫妻間ノ交接ト雖モ暴行脅迫ノ手段ニ依リタルトキハ強姦罪ヲ以テ論シ得ヘキモノトス(小崎各論七〇五頁)



【判決例】

●強制猥褻罪ト公然猥褻罪トノ關係(第百七十六條「判例」ノ部參照)

●強制猥褻罪ト強姦罪トノ關係(同上)

●數人輪姦ト強姦罪ノ成立 數人順次一ノ婦女ヲ強姦セント企テ最初ノ姦淫者カ加ヘタル暴力ノ結果ヲ利用シ他ノ者ニ於テ更ニ暴力ヲ加フルコトナク順次姦淫シタルトキハ後者ノ所爲モ亦強姦罪ヲ構成スルモノトス(大審院判決錄明治四〇年五一三頁)

●暴行脅迫ニ依ル幼女強姦罪ノ成立

- 一 十三歳未満ノ幼女ヲ姦淫シタル行爲ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テスルト否トヲ問ハス第百七十七條後段ニ該當スルコト明カナリ蓋十三歳未満ノ幼女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テシタル姦淫モ暴行脅迫ヲ以テセサル姦淫モ齊シク其姦淫タルヲ妨ケサルナリ(同上明治四四年三四四頁)
- 二 十三歳未満ノ少女ヲ姦淫シタルトキハ暴行又ハ脅迫ノ有無ヲ問ハス第百七十七條ニ該當スル一所爲一罪名ニ觸ルルモノトス(同上大正二年一二五七頁)

第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

【學說】

●心神喪失ト心神耗弱トノ區別(第三十九條「學說」ノ部參照)

●猥褻行爲ノ意義(第百七十四條「學說」ノ部參照)

●姦淫ノ意義及ヒ強姦ノ既遂(第百七十七條「學說」ノ部參照)

●昏醉ノ方法(第二百三十九條「學說」ノ部參照)

●心神喪失及ヒ抗拒不能ノ意義

- 一 催眠術ヲ以テ人ヲ催眠状態ニ陥ラシムル場合ハ所謂心神喪失ナラシムルモノニ該當シ藥酒等ヲ用ヒテ人ヲ昏睡セシメタル場合ハ所謂抗拒不能ナラシムルモノニ該當ス(牧野博士二二版二十四頁)
- 二 意思能力不完全ナルモ未タ心神喪失者ナリト謂フ能ハサル者例ヘハ心神耗弱者ノ如キハ此罪ノ客體ニ非ヌ又抗拒力極メテ薄弱ナルモ其絶無ナラサル者ハ抗拒不能者ト謂ヒ難シ(大場博士各論七三五頁)
- 三 心神喪失又ハ抗拒不能トハ睡眠昏睡其他不具疾病ヲ機會トシタルヲ意味ス治療手術其他ノ理由ニ依リ善意ヲ以テ魔睡劑ヲ與ヘ催眠術ヲ施シ其後ニ於テ猥褻行爲ヲ爲シタルトキハ尙本罪タリ(岡田博士「ル五五〇頁」)

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【學說】



●未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部参照)

【判決例】

●未遂既遂ノ區別(第四十三條(判決例)ノ部参照)

●不能犯ト未遂犯トノ區別(同上)

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

【關係法令】

●刑事訴訟法(明治二十三年法律第九十六號)

第十三條

被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四十九條(抜抄)

何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人ノ所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印

ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第五十四條(抜抄)

告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

第五十五條

告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可シ

【學說】

●妻ノ強姦被害ト夫ノ告訴權 告訴權ヲ有スル者ハ被害者ナリ故ニ強姦ノ被害者タル婦女ハ勿論夫

モ亦告訴權ヲ有ス蓋有夫ノ婦カ強姦セラルルトキハ婦女ノ性交ノ自由カ害セラルルト同時ニ夫權

モ亦害セラルルモノナレハ夫モ亦被害者ナリ(大場博士各論上三六四頁)

【判決例】

●妻ノ強姦被害ト夫ノ告訴權 強姦罪ノ告訴ハ被害者ノ本夫ニ於テ之ヲ爲スモ有效ナリ(東京控訴院明

月六日

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス



【學 說】

●殺人行爲(第九十九條)  
(學說)ノ部参照

●傷害ノ意義(第二百四條)  
(學說)ノ部参照

●猥褻姦淫ノ未遂ト死傷トノ責任

- 一 姦淫猥褻ノ所爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ勿論苟モ其手段タル行爲ニ著手シタル以上ハ未タ姦淫猥褻行爲ニ著手セサルモ因テ生シタル死傷ノ結果ニ付キ其責任アリ(大場博士各論)上三六五頁
- 二 本罪ハ死傷ノ結果ニ付キ犯意ナキ場合ニシテ所謂結果犯ナリ若シ結果ニ付キ犯意アルトキハ別ニ殺人罪又ハ傷害罪ヲ構成シ第七十六條以下ノ罪ト想像上ノ俱發トナル固ヨリ姦淫ノ點ニ付キ既遂ナルコトヲ要セス(牧野博士一八)版三一五頁
- 三 猥褻行爲既遂ニ終リタル後死傷ノ結果カ生シタル場合ニ於テハ其手段行爲タル暴行脅迫魔睡劑ノ施用ニ因リ死傷ノ結果カ生シタルト猥褻行爲自體ヨリ生シタルト問ハス又敍上ノ行爲未遂ニ終リタルニ不拘尙死傷ノ結果カ生シタル場合モ亦加重條件ヲ充實ス(岡田博士)ル三五二頁

●猥褻姦淫ト間接ノ死傷

- 一 猥褻強姦ノ罪ト被害者ノ死傷トノ間ニ存スヘキ因果關係ハ必シモ直接ナルコトヲ要セス強姦ノ結果被害者カ懷妊シ分娩ノ爲メ死亡シタル場合ニ於テモ本罪ヲ以テ論スヘシ(小崎學士各論)七一八頁
- 二 強姦ニ依リ被害者カ懷妊シ其分娩ニ因リテ死亡スルモ其結果ニ付キ強姦犯人ハ責任ヲ負フヘキモノニ非ス(荻谷學士法學新報)大正元年一一號
- 三 第八十一條ノ罪ハ死傷ノ結果カ猥褻姦淫罪ニ隨伴スレハ足り猥褻ノ行爲自體又ハ其手段タル暴行脅迫ニ因リ生シタルコトヲ要セス(富田博士京都法學會)雜誌大正五年一號

●強姦罪ト強姦死傷罪トノ關係 暴行ヲ用ヒ少女ヲ姦淫シ因テ之ヲ負傷セシメタルトキハ第八十一條ヲ以テ處斷スヘク此外第七十七條、第五十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス(勝本博士京都法學會)雜誌大正三年四號

【判決例】

●處女膜破裂ト姦淫致傷罪ノ成立

- 一 姦淫ニ因リテ處女膜ヲ破裂セシメタル所爲ハ姦淫致傷罪ヲ構成ス(東京控訴院判決法曹)記事明治四〇年一號
- 二 第七十七條ノ罪ヲ犯ス者カ暴行ニ因テ人ヲ死傷シタルト暴行ニ因ラス姦淫其モノニ因テ人ヲ死傷ニ致シタルト擇ム所ナク齊シク第八十一條ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ人ノ處女膜ヲ裂傷スルハ即チ人ノ身體ヲ傷害シタルモノニ外ナラサレハ十三歳未満ノ幼女ヲ姦淫シ其處女膜ヲ裂傷スル行爲カ同條ノ適用ヲ受クヘキハ當然ナリ(大審院判決錄明治)四四年三四二頁

●淋毒感染ト姦淫成傷罪ノ成立 病毒ヲ他人ニ感染セシムル行爲ハ法律上之ヲ成傷ト認ムヘキモノトス從テ不法姦淫ノ結果人ニ淋毒ヲ感染セシメ疾病休業ニ致シタル所爲ハ姦淫成傷罪ヲ構成ス(同上明治四一年一三四頁)

●姦淫死傷罪ト死傷ノ故意



- 一 第八十一條ノ罪ハ第七十六條乃至第七十九條ノ犯罪行為ノ結果トシテ人ヲ死傷ニ致ス  
コトニ因テ成立シ被害者ノ死傷ニ關シ故意又ハ過失アルコトヲ必要トセス(大審院判決錄明治四十四年七月三頁)
- 二 死亡ノ結果ニ付キ故意ヲ有シ暴行ヲ以テ婦女ヲ姦淫シ因テ死ニ致シタル所爲ハ強姦致死罪及  
ヒ殺人罪ノ罪名ニ觸ルルモノトス(同上大正四年二〇九〇頁)

●**腔口哆開ト姦淫成傷罪ノ成立** 刑法ニ人ヲ傷害ストハ他人ノ身體ノ現狀ヲ不良ニ變更スルノ謂ニシテ必シモ身體ノ組織ヲ物質的ニ破壊スルコトヲ要セス故ニ指ヲ婦女ノ陰部腔口ニ挿入シ以テ腔口哆開竝ニ發赤ヲ生セシメタル行為ハ即チ第八十一條ニ該當ス(同上明治四十四年七月四頁)

●**姦淫罪ト姦淫死傷罪トノ關係**

- 一 第八十一條ハ第七十六條乃至第七十九條規定ノ犯罪行為ト因テ人ヲ死傷ニ致シタル結果トヲ總括シテ處罰スヘキモノニシテ第八十一條ニ該當スル犯罪行為ハ別ニ第七十六條乃至第七十九條ニモ該當スルモノトシテ論スルコトヲ得ス(同上明治四十四年七月四頁)
  - 二 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル所爲ハ單一ナル第八十一條ノ罪ヲ構成スルニ止マリ更ニ右第七十六條乃至第七十九條ノ罪トノ二罪ヲ以テ論スヘキニ非サレハ別ニ此等ノ法條ヲ適用スルノ要ナシ(同上明治四十四年七月四頁)
- 姦淫死傷罪ト告訴ノ要否** 第八十一條ノ罪ハ加重情狀アル第七十六條乃至第七十九條ノ罪ナリト雖モ全然獨立シタル別個ノ犯罪ヲ構成スル以上ハ固ヨリ第八十條ニ從ヒ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スヘキモノニ非ス(同上明治四十四年七月三三三頁)

●**猥褻姦淫ト死傷ノ因果關係** 第八十一條ノ罪ハ第七十六條乃至第七十九條ニ規定セル強姦其他ノ罪ノ既遂行為又ハ其未遂行為ニ原因シテ他人ニ死傷ノ結果ヲ生セシメタル場合ニ於テ成立スルモノニシテ苟モ死傷ヲ惹起シタル行為カ猥褻姦淫罪ニ隨伴スルニ於テハ其目的タル犯罪ヲ遂行スル爲メナルト之ヲ免ルル爲メナルトヲ問フコトナシ(同上明治四十四年一三三三頁、大正四年一二九三頁)

●**姦淫未遂ト姦淫死傷罪ノ成立** 暴行ヲ以テ婦女ヲ姦淫セントシテ實行ニ著手シ因テ其婦女ヲ傷ケタルモ姦淫ノ目的ヲ遂ケサリシ所爲ニ對シテハ第八十一條ヲ適用スルヲ以テ足ル(同上大正二年八月一〇頁)

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

【關係法令】

- 警察犯處罰令**(明治四十一年內務省令第十六號)  
第一條(抜抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
- 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

【學說】

●**姦淫勸誘ノ意義** 勸誘トハ婦女ヲシテ姦淫ノ決意ヲ爲サシムル一切ノ行動ヲ謂フ但暴行脅迫ヲ用ヒタルトキハ強姦罪ノ正犯タルヘシ(山岡博士五九一頁、泉博士七二六頁)



【判決例】

●幼女ノ姦淫勸誘 第八十二條ニハ婦女ノ年齢ヲ區別セサルカ故ニ十三歳未満ナルト否トヲ問ハス苟モ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫ヲ爲サシメタル以上ハ同條ノ適用ヲ受クヘキモノトス(同上明治四五) (年二三七頁)

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

【關係法令】

●刑事訴訟法(第八十條(關係法令)ノ部參照)

●民法(明治三十一年法律第九號)

- 第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八百十三條(抜抄) 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
  - 一 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ

【學說】

●姦通ノ既遂未遂

- 一 姦通罪ハ行為者双方ノ生殖器ノ接合アルニ依リ完成スヘキモノトス性慾ヲ遂ケタルヤ否ヤヲ問フノ要ナシ(大場博士各論) (下四七五頁)
- 二 姦通トハ有夫ノ婦カ夫以外ノ男子ト姦淫ヲ爲シ婚姻ニ基ク貞節ヲ破ルヲ謂フ(山岡ドクト) (ル五九四頁)
- 三 姦通ハ有夫ノ婦即チ現ニ生存スル夫ヲ有スル婦女カ夫以外ノ男子ト合意ノ姦淫ヲ爲スニ因リ成立ス(泉二博士) (七一四頁)

●姦通ト相姦者トノ關係

- 一 姦通ノ成立ハ妻タル身分ヲ有スル姦婦ノ行為ニシテ相手方タル男子トノ間ニ姦通ノ意思ヲ存セシヤ將タ之ヲ詐リ若クハ強制シタルヤハ姦婦ノ處罰ニ影響ナシ之ニ反シ姦夫ノ處罰ハ姦婦トノ間ニ相互認識ヲ必要トス故ニ例ハ他人ノ妻ヲ強制シ若クハ錯誤ニ陷レ姦淫ヲ遂ケタル如キハ姦通罪ヲ構成セス(山岡ドクト) (ル五九四頁)
- 二 姦婦姦夫ハ姦婦ニ現存ノ本夫アルコト及ヒ婚姻外ノ性交ヲ爲スコトヲ知ルニ非サレハ本罪ヲ構成セス其一方ノミカ之ヲ知ルトキハ其認識ヲ有スル者ノ方面ニ於テノミ本罪ヲ構成ス(泉二博士) (七一四頁)

●姦通ノ告訴ノ效力



- 一 告訴ハ不可分ナルカ故ニ共犯者ノ一人ニ對シ告訴ヲ提起スルモ總テノ共犯者ニ對シ訴訟條件タルヘク又共犯者ノ一人ニ對シ告訴ノ取下アルトキハ全部ノ共犯者ニ對シ取下ノ效力ヲ生スハキナリ(小嶋學士各論七二五頁)  
(大場博士各論下四七六頁)
- 二 告訴ハ夫カ妻ニ對シテ有スル權能ナルカ故ニ妻ノミニ對スル告訴又ハ其取下ハ延ヒテ相姦者ニ及フト雖モ相姦者ノミニ對スル告訴又ハ其取下ハ妻ニ對シテモ相姦者ニ對シテモ其效力ヲ生セス(勝本博士析義)  
(下二二九九頁)

◎姦通ノ縱容

- 一 縱容トハ豫メ姦通ヲ許容シ又ハ之レアルヲ知リテ容赦シ置クヲ謂フ事後初メテ覺知シ其犯行ヲ宥恕スルハ縱容ニ非スシテ告訴ノ拋棄ナリ(山岡博士)  
(ル五九八頁)
- 二 縱容ハ承認ト同シ姦通後ノ承認ハ告訴ノ拋棄ト爲ルニ止マル本夫カ縱容シタルトキハ其法律上代理人モ亦告訴權ヲ有セス(泉二博士)  
(七一九頁)

【判決例】

◎民法施行前ノ婚姻ノ方式 民法施行以前婚姻ヲ爲シタル婦女ハ縱令送籍ノ手續ヲ行ハサルモ實際夫婦タル關係アル以上ハ夫婦タル身分ヲ有スルモノトス從テ送籍ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ影響ヲ及ホサス(大審院判決錄明治三九年一〇六四頁)

◎姦通ノ犯意 姦通罪ノ成立ニハ有夫ノ婦ト第三者トノ交接ヲ必要トスルモ其犯意ハ一方ニ存スル

ノミヲ以テ足り對手人ノ犯意ノ有無ハ一方ノ犯罪成否ニ何等ノ影響ヲ及ホサス(同上明治四〇年一二三八頁)

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

【關係法令】

◎民法(明治三十一年法律第九號)

- 第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七百八十條(抜抄) 第七百六十五條乃至第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者、其戸主、親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
- 第八百十三條(抜抄) 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
  - 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ

【學說】

◎重婚ノ意義

- 一 重ネテ婚姻ヲ爲シ民法及ヒ戶籍法ノ手續ニ從ヒ戶籍吏ニ届出テタルコトヲ要ス内縁ノ關係ニ止マルモノハ罪トナラス(牧野博士二一)  
(版二七六頁)
- 二 重婚罪ハ有婦ノ夫若クハ有夫ノ婦カ更ニ新ナル婚姻ヲ爲スニ依リ成立スルモノニシテ有婦ノ



夫若クハ有夫ノ婦カ更ニ他ノ女又ハ男トノ間ニ結婚式ヲ舉ケ住居スル場合ニ於テモ未タ法律上ノ手續ヲ施行セサル以上ハ重婚ナリト謂フヲ得ス(大場博士各論 下四八〇頁)

三 重婚罪ハ重ネテ婚姻ヲ爲シタルコトヲ要シ單ニ事實的ナル夫婦生活ヲ指スモノニ非ス(山岡博士 六頁)

【判決例】

◎民法施行前ノ婚姻ノ方式(第八十三條(判) 決例ノ部参照)

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

【關係法令】

◎刑事訴訟法(明治二十三年 法律第九十六號)

第八條(抜抄) 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

五 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年

◎取引所法(明治二十六年 法律第五號)

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第八十六條ノ適用ヲ妨ケス(大正三年法律第三十三號ヲ以テ追加)

【學說】

◎偶然ノ輸贏ノ意義

- 一 博戲賭事ノ雙方ニ通シテ其勝敗ノ分ルル標準カ關係者ノ知ラサル事實ナラサルヘカラス關係者ニ於テ之ヲ知ラサリセハ假令勝敗ノ條件トナレル事實カ過去ニ屬スルモ又確定セルモノナルモ敢テ問フ所ニ非ス(岡田博士講 義一六二頁)
- 二 偶然ノ輸贏トハ全然若クハ主トシテ偶然ノ出來事ニ依リテ勝敗ヲ決スヘキ場合ヲ總稱シ其出來事ハ必シモ將來ニ屬スルコトヲ要セス又客觀的ニ不確定ナルコトヲ要セス苟モ當事者間ニ主觀的不確定ナルヲ以テ足ル(小崎學士各論 四九〇頁)
- 三 偶然ナル事實ハ必シモ未來ノ事實タルコトヲ意味スルモノニ非ス客觀的ニ一定セル過去ノ事實モ當事者ニ對シテ主觀的ニ不定ナレハ足ル(泉二博士 七二二頁)
- 四 單ニ當事者ノ一方カ事實ヲ確知セサルヲ以テ足ル必シモ當事者ノ雙方カ之ヲ知ラサルコトヲ要セス(勝本博士各論 講義三九二頁)



五 偶然ノ輸贏トハ關係者双方ノ知ル所ニ基キ其知ラサル事項又ハ將來ノ結果ヲ指シテ偶然ト謂フニ外ナラス(大場博士各論 下四八九頁)

◎博戯ト賭事トノ區別

一 多數說ハ博戯ト賭事トヲ區別スト雖モ之ヲ區別シテ觀念スルヲ得ス兩者ヲ合シテ賭博ナル法律上ノ一觀念ヲ構成スルモノト解ス(牧野博士二二 版二七八頁)  
二 偶然ノ輸贏カ關係者ノ伎倆、力量、熟練、思慮等ノ如ク關係者カ多少豫想シ得ヘキ事柄ニ原因スルモノアリ又全然關係者ノ豫想スル能ハサル事柄ニ原因スルモノアリ前者ヲ競技ト謂ヒ後者ヲ賭事ト謂フ(大場博士各論 下四九〇頁)

三 博戯トハ單ニ射利ヲ目的トスルニ反シ賭事ハ更ニ或主張ヲ保持スルヲ目的トシ客觀的ニ於テ前者ハ行為者ノ干與セル偶然ノ事項ニ依リ輸贏ヲ決スルニ反シ賭事ハ右以外ニ於ケル偶然ノ事項ヲ以テ勝敗ヲ定ムルニ在リ(山岡ドクト 六〇二頁)

四 博戯ハ關係者自身又ハ其依頼セル第三者ノ動作結果ヲ以テ輸贏ヲ決シ賭事ハ此動作以外ノ事實ヲ以テ輸贏ヲ決スルモノナリト解ス(泉二博士 七二二頁)

◎賭博ト競技トノ區別

一 競技ニ於ケル勝敗若クハ損益ハ主トシテ熟練、心算或ハ力量等ニ關スルモノニシテ偶然ノ事項ニ關スル賭博トハ其性質ヲ異ニス(山岡ドクト 六〇一頁)

二 賭博ト競技トハ區別セサルヘカラス競技ハ技巧ヲ爭フ當事者ヨリ見ルトキハ一ノ競技ニシテ

賭博ニ非スト雖モ第三者カ他人ノ競技ノ結果ニ關シ財物ヲ賭スル場合ハ偶然ノ事情ニ基キ輸贏ヲ爭フモノナリ(牧野博士二二 版二七七頁)

三 競技ハ一面競技者ノ技術力量等ニ原因シ他面所謂偶然ノ事柄ニ原因スルモノナレトモ其勝敗ノ如キハ即チ偶然ノ輸贏ト稱スヘキナリ(大場博士各論 下四九二頁)

四 競技モ亦賭博ト爲ルコトアリ(藤波學士法曹記 事大正五年一號)

五 賭博ハ賭博ト爲ルモ他ノ競技ハ公ノ秩序善良ノ風俗ヲ害スル程度ニ至ラサルカ故ニ罪トナラス(牧野博士法學協會 雜誌大正五年三號)

◎財物ノ意義

一 財物トハ有形物ニ限ルトスルヲ通説トス必シモ金錢ニ見積リ得ヘキ物タルコトヲ要セス交換價值アルコトヲ要セス但金錢ヲ賭スルモ少額ニシテ一時ノ娛樂ト認メ得ル程度ノモノハ罪トナラス(牧野博士二二 版二七八頁)

二 財物トハ單ニ金錢及ヒ有體動産ノミヲ指シ不動産及ヒ權利ハ之ニ包含セス然レトモ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭スルハ罪トナラス(大場博士各論 下四九六頁)

三 財物トハ吾人カ其物ノ上ニ法律上ノ利益ヲ有スル總テノ有體物ヲ謂フ必シモ動産ニ限ラサルカ故ニ不動産モ賭博ノ目的タルコトヲ得(勝本博士析義 上六九五頁)

四 財物トハ物權ノ目的タル總テノ有體物ヲ謂フ動産タルト不動産タルトヲ問ハサルモ無體物ヲ包含セス(小崎學士各論 四九〇頁)



◎一時ノ娛樂ニ供スル物

- 一 一時ノ娛樂ニ供スル物トハ一般ニ定ムヘキモノニ非スシテ行為者ノ身分、財産及ヒ其他ノ狀況ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス(大場博士各論 下四九七頁)
- 二 金錢ヲ賭スルモ少額ニシテ一時ノ娛樂ノ爲メニスルモノト認メ得ルトキハ罪トナラス飲食物ト雖モ多量ニシテ一時ノ娛樂ト認メラレサルトキハ罪トナル(牧野博士二二 版二七九頁)
- 三 直接賭シタル物ハ金錢ナルモ眞實ノ目的ハ飲食物ニシテ金錢ハ單ニ其價格ヲ定ムル手段ニ過キサルトキハ之ヲ一時ノ娛樂物ト謂フヘシ(勝本博士法曹記 事大正三年二號)
- 四 第八十五條但書ノ娛樂物中ニハ金錢ヲ加フヘキモノニ非ス其金錢ノ用途ヲ定メタルト否トヲ問ハサルナリ(宮本學士法律評 論大正三年三號)
- 五 一時ノ娛樂ニ供スル物ト否トハ當事者ノ立場ヨリ相對的ニ定メサルヘカラス故ニ當事者ノ一方ニハ賭博ト爲リ他ノ一方ニハ然ラサル場合ヲ生ス(牧野博士法學志 林大正四年四號)

【判決例】

○勝敗ノ不定不能ト偶然ノ輸贏

- 一 賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スコトニ依テ成立シ各場合ニ於テ必シモ常ニ輸贏ノ決定セラルルコトヲ要セス從テ苟モ其博戲又ハ賭事ニシテ勝敗ヲ決シ得ヘキ性質ノモノナル以上ハ縱令之ヲ爲シタル者ノ間ニ於テ勝敗ナク爲メニ財物ノ得喪ナクシテ終了シ

タル場合ニ於テモ之カ爲メ同罪ノ成立ヲ妨クヘキモノニ非ス(大審院判決錄明治 四五年九五八頁)

- 二 賭博トハ偶然ノ事情ニ依リテ財物ノ得喪ヲ決スル行為ヲ謂フモノナレハ苟モ其得喪ノ結果カ偶然ノ事情ニ繫ル以上ハ縱シヤ時ニ或ハ事當事者雙方ノ豫期ニ反シ勝敗ノ決セサル場合アリ得ヘシトスルモ其行為ハ賭博タル性質ヲ喪フモノニ非ス(同上明治四四 年八七三頁)
- 三 賭博ノ當事者カ互ニ利害相反スル結果ヲ豫期シ偶然ノ事項ニ關シテ通常輸贏ヲ決シ得ヘキ方法ヲ執リタル以上ハ現實取リタル方法カ當事者ノ一方又ハ雙方ノ錯誤ニ因リ若クハ其他豫期セサル事情ノ發生ニ依リテ輸贏ヲ決シ能ハサルニ至リタリトスルモ之カ爲メニ現ニ著手シタル行為カ賭事タル性質ヲ失ハス(同上大正三 年八六〇頁)

◎金錢賭博ト一時娛樂物ノ認定

- 一 贏ケ得タル賭金ヲ觀劇費用ト爲ス約束ニテ賭博ヲ爲スモ其賭金ヲ一時ノ娛樂ニ供スルモノト謂フヲ得ス(大阪地方裁判所明治四 三年一月二二日判決)
- 二 偶然ノ輸贏ニ因リ金錢其物ノ得喪ヲ爭ヒタルニ非スシテ唯敗者ヲシテ一時ノ娛樂ニ供スヘキ物ノ對價ヲ負擔セシムル爲メ一定ノ金額ヲ支出セシメタルニ過キサルコト明白ナルトキハ賭博罪ヲ構成セサルモノトス(大審院判決錄大正 二年一二五四頁)
- 三 一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シ博戲ヲ爲シタルトキハ賭博罪ハ成立セス又一時ノ娛樂ニ供スル爲メ金錢ヲ賭シタル場合ニ於テハ金錢モ亦之ヲ一時ノ娛樂ニ供スルモノト認ム(同上大正三 年二九〇頁)
- 四 金錢ヲ賭シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル場合ニ於テ其金錢ヲ以テ一時ノ娛樂ノ用ニ供スル物ノ



對價トシテ賭シタル事實ノ存セサル限りハ其行爲ハ利益ノ得喪ヲ目的トスルモノトシテ處罰スルヲ相當トス(大審院判決錄大正四年二〇九九頁)

●技倆ノ優劣ト偶然ノ輸贏 博戲勝敗カ一ニ當事者ノ伎倆ノ優劣ニ因ルモノニシテ勝敗ノ數カ豫メ確定スヘキモノナラス偶然ノ輸贏ニ關スルモノト謂フヘカラスト雖モ伎倆ノ優劣ヲ平均シテ勝敗ノ運命ヲ逆賭スヘカラサル射倖的條件存スルモノナル以上ハ其伎倆ニ於テ優劣ノ差等アリトスルモ偶然ノ輸贏ニ關スルモノト謂フヲ妨ケス(同上明治四四年一八八六頁)

●賭物ノ數額ト賭博ノ成立 賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ依リ財物ノ得喪ヲ爭フニ因リテ成立シ現實ニ得喪シタル財物ノ數額如何ハ其罪ノ成否ニ影響ヲ及ホサス(同上明治四五年九五一頁)

●賭財ノ方法 賭博罪成立ニハ當事者カ互ニ財物ヲ賭スルコトヲ要スルモ財物ヲ賭スルコトハ偶然ノ輸贏ニ依リ一定ノ財物ヲ勝者ニ交付スヘキコトヲ豫メ約束スルノ謂ニシテ現實ニ財物ヲ齎出シテ之ヲ提供スルノ必要ナシ(同上明治四五年九五七頁)

●賭財ノ確定 賭博罪ノ成立ニハ得喪ノ目的タル財物ノ數額カ確定シ得ヘキモノナルヲ以テ足り當初ヨリ確定シ居ルコトハ必要ニ非ス(同上明治四五年九六四頁)

●賭博ノ名稱 第八十五條ハ偶然ノ事情ニ付キ何等ノ制限ヲ爲ササルヲ以テ苟モ財物得喪ノ結果ヲ偶然ノ事情ニ繋ラシムル約束ヲ以テ勝敗ヲ決スルニ於テハ他ノ法律若クハ慣行上之ニ對シ賭博ト異リタル名稱ヲ付スルコトアルモ刑法ニ所謂賭博中ニ包含ス(同上大正元年一三〇九頁)

●勝敗ノ不定ト賭博ノ既遂未遂 賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シテ財物ヲ賭シ賭事又ハ博戲ヲ爲シタル

事實アレハ直ニ完成シ縱令賭博ノ實行ニ著手シ未タ勝敗ヲ決スルニ至ラス若クハ勝敗ヲ決スルコト能ハサリシトスルモ賭博罪ハ未遂狀態ニ在ルモノニ非ス(同上大正二年一四六七頁)

●一人ノ勝敗ト全員ノ賭博 博戲ノ方法ハ偶然ノ結果ニ依リテ多數當事者中ヨリ一人ノ勝者ト一人ノ敗者トヲ定ムルモノニシテ當事者全員ノ勝敗ヲ決スルニ非サル場合ト雖モ各自互ニ唯一ノ勝者ト爲リ又ハ唯一ノ敗者ト爲ルコトノ可能ナル以上ハ偶然ノ結果ニ因リテ勝敗ヲ爭フモノト謂フヘシ(同上大正三年一八〇頁)

●「チーハー」蟻走者ノ責任 「チーハー」ノ蟻走ハ自ラ財物ヲ賭シ輸贏ヲ決シタルモノニ非サレハ賭博ノ實行者ニ非スシテ幫助者ナリ(同上大正三年一三四五頁)

●客觀的確定ト偶然ノ輸贏 賭博罪ノ構成ニハ犯人ノ觀念ニ於テ勝敗カ不確定ナル事實ニ繋ルヲ以テ足り其事實カ客觀的ニ不確定ノモノナルコトヲ必要トセス(同上大正三年一八二頁)

●賭博ト取引所法違犯トノ關係 大正三年法律第三十三號取引所法第三十二條ノ五ハ刑法第八十五條ノ適用ヲ除外スルモ常習トシテ右ノ行爲ヲ爲ス者ニ付テハ第八十六條ノ適用ヲ妨クモノニ非ス(同上大正四年四一頁)

●圍碁ト賭博 圍碁ノ勝敗ハ必シモ當事者平素ノ伎倆ノミニ因リテ決スヘキモノニ非ス又事前ニ於テハ通例不確定ノモノナルカ故ニ其勝敗ニ關シ金錢ヲ賭シタルトキハ賭博罪ヲ構成ス(同上大正四年五頁)

第八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ



處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

【關係法令】

◎取引所法(第八十五條(關  
係法令)ノ部参照)

【學 說】

◎偶然ノ輸贏ノ意義(第八十五條  
(學說)ノ部参照)

◎博戯ト賭事トノ區別(同上)

◎賭博ト競技トノ區別(同上)

◎財物ノ意義(同上)

◎一時ノ娛樂ニ供スル物(同上)

◎賭博常習ノ意義

- 一 賭博常習トハ慣習的ニ繰返サレタルコトヲ必要トシ各賭博行為カ多少連鎖ノ關係ニ於テ存シ犯人ノ賭博慣行性ヲ表示スルニ足ル場合ニ之ヲ認ム(山岡ドクト  
ル六〇四頁)

二 常習トハ曾テ賭博犯ニ依リ處罰セラレタル事實アルコトヲ要セス事實上屢、賭博ヲ爲シタルコトアルヲ以テ足ル常習ナル文字ハ行為者ノ身分ニ關スルモノナリ(大場博士各論下五〇〇頁、泉二博士七二三頁)

◎常習賭博ノ處分

- 一 常習賭博ハ從來屢、賭博行為アリタルコトニ依リ之ヲ認ムヘキ數個ノ賭博行為アリ之ニ依リ、常習賭博者タルコトヲ認メ得ヘキ場合ニ於テハ一個ノ常習賭博罪ヲ構成ス(大場博士各論下五〇一頁)

二 賭博慣行ノ事情アルモノハ賭博罪ノ併合罪又ハ累犯トセスシテ本條ニ依リ全ク別種ノ刑ヲ科ス(牧野博士二一  
版二八〇頁)

三 常習賭博罪ハ集合犯ノ一種ナリ故ニ苟モ賭博反覆ノ事實アル以上ハ之ヲ常習者ト認メ併合罪ノ規定ニ依ラスシテ處罰スルナリ(森作藏氏法律新聞明  
治四三年六四八號)

◎數個ノ非常習賭博行為ノ處分 賭博ノ常習ナキ者カ爲シタル賭博ハ縱令數箇ニシテ繼續ノ意思ニ出テタル場合ト雖モ常習賭博ニ非ス(富田博士京都法學會  
雜誌大正五年二號)

◎賭博場開張罪ノ要件

- 一 賭博場ヲ開張シ利ヲ圖ルトハ所謂寺錢ヲ徴シテ一定ノ場所ニ他人ヲ招集シ賭博ヲ爲スノ便宜ヲ與フル行為ナリ(牧野博士二一  
版二八〇頁)
- 二 關係者カ賭博者ヲ誘引シ賭博ヲ爲スヘキ機會ヲ與フルトキハ既遂ナリ(泉二博士  
七二四頁)
- 三 賭場開張罪ハ自ラ賭博ヲ爲スニ非スシテ却テ賭場ヲ開張シ利ヲ圖ル行為ナリ即チ他人ヲ招集シテ賭場ヲ供給シ寺錢等ノ利益ヲ收受スル行為ナリ(山岡ドクト  
ル六〇五頁)



- 四 利ヲ圖ル目的ヲ以テ賭博場ヲ開カンカ爲メ賭博者ヲ誘引スルモ誘引ヲ受ケタル者カ賭博行爲ニ著手セサルトキハ賭博開張ノ行爲ヲ完成シタルモノト解スル能ハス(大場博士各論 下五〇四頁)
- 五 賭場開張罪ノ成立ニハ開張セラレタル賭場ノ存在スルコトヲ必要トス(林學士法律新聞大 正元年八一三號)

●博徒結合罪ノ要件

- 一 博徒トハ常習的賭博者ヲ指稱ス博徒ノ結合トハ利ヲ圖ル目的ヲ以テ賭博常習者ノ團體ヲ組織シ賭博常習者間ノ聯絡ヲ圖ル行爲ヲ謂フ(大場博士各論 下五〇五頁)
- 二 博徒結合罪ハ所謂親分タル者カ無賴ノ常習賭博者ノ團結ヲ作り自ラ其長トシテ利益ヲ收得スル行爲ヲ罰センカ爲メ設ケタルモノナリ(山岡博士各論 下六〇五頁)
- 三 博徒ヲ結合シテ利ヲ圖ルト云フハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ常習賭博者ノ團體ヲ組織シ自ラ親分ノ地位ニ立ツノ意ナリ(泉二博士 七二四頁)

【判決例】

- 勝敗ノ不定不能ト偶然ノ輸贏(第八十五條(判) 決例ノ部参照)
- 金錢賭博ト一時娯樂物ノ認定(同上)
- 技倆ノ優劣ト偶然ノ輸贏(同上)
- 財物ノ數額ト賭博ノ成立(同上)
- 賭財ノ方法(同上)

- 賭財ノ確定(同上)
- 賭博ノ名稱(同上)
- 勝敗ノ不定ト賭博ノ既遂未遂(同上)
- 一人ノ勝敗ト全員ノ賭博(同上)
- 「チーハー」蟻走者ノ責任(同上)
- 客觀的確定ト偶然ノ輸贏(同上)
- 賭博ト取引所法違犯トノ關係(同上)
- 圍碁ト賭博(同上)
- 賭博常習者ノ意義

- 一 常習賭博罪ハ集合犯ノ一種ニシテ同種行爲ヲ反覆スレハ足り必シモ包括的ニ故意ノ單一ナルコトヲ要セス(大阪地方裁判所 明治四二年判決)
- 二 賭博ノ常習者ト認ムルニ付テハ職業トシテ賭博ヲ爲シ又ハ其習癖ヲ有シ普通博徒ト稱スル階級ニ在ル者ニ限ラス其他ノ者ト雖モ賭博ノ常習者ナリト認定スルヲ妨ケス(大審院判決錄明治四三年一五三一頁)
- 三 賭博常習者トハ常ニ賭博ヲ爲スノ習癖アル者ノ謂ニシテ賭博ヲ常業ト爲シ親分乾兒ノ關係ヲ有スル博徒タルコトヲ必要トセス故ニ被告カ賭博行爲ヲ反覆シタル事實アル以上賭博常習者ト認ムルヲ妨ケス(同上明治四五年 年六六八頁)
- 四 賭博ノ常習タル事實ハ賭博罪ノ構成要件タル事實ト同シク第八十六條ニ於ケル犯罪事實ニ



屬スルヲ以テ裁判所ハ自由ニ證據ヲ取捨判斷シテ之ヲ認定スルコトヲ得ヘシ(大審院判決録明治四五年一八八七頁)

五 賭博慣行者ハ所謂博徒ナラサルモ賭博常習者トシテ處罰スヘキモノナリ(同上大正二年七八七頁)

六 賭博ノ常習トハ反覆シテ賭博行為ヲ爲ス習癖ヲ謂フ故ニ單ニ一回ノ賭博ヲ爲シタルノミニテハ之ヲ賭博ノ常習アルモノト謂フヲ得ス(同上大正三年四六六頁)

◎常習賭博ト連續犯及ヒ併合犯ノ關係

一 賭博ノ常習アル者カ賭博ヲ爲シタルトキハ其行為カ數回ニ涉ル場合ト雖モ包括的ニ之ヲ觀察

シ一罪トシテ第八十六條第一項ヲ適用スヘキモノトス(同上明治四四年九頁同年八八頁)

二 賭博慣行ノ事情アル者カ賭博ヲ爲シタルトキハ其行為ヲ數回反覆シタル場合ト雖モ一罪トシテ之ヲ處分スヘク第五十五條ヲ適用スルノ要ナシ(同上明治四五年三三七頁)

三 常習トシテ賭博ヲ爲ストハ之ヲ數次反覆シテ習癖的ニ爲スノ謂ナレハ之ヲ集合的一罪ト爲スヘク連續犯ヲ以テ擬スヘカラス(同上大正三年一四三頁同年二〇八八頁)

四 賭博ノ常習者カ常習賭博罪ヲ構成スヘキ二個以上ノ賭博行為ヲ爲シタル場合ニ於テモ其行為ノ間ニハ併合罪若クハ連續犯ノ關係ナシ(同上大正三年二四六八頁)

◎常習賭博ノ教唆者及ヒ幫助者ノ擬律

一 犯人ニ賭博ノ常習アルト否トハ賭博罪ノ成立ニ何等ノ影響ナク之カ罰條ヲ異ニスルハ法律力之ヲ處罰スルニ輕重相異ル別個ノ刑ヲ以テシタルニ過キヌシテ身分ヲ以テ構成要件トスルモノニ非ス故ニ賭博ノ常習ナキ者カ常習賭博ヲ幫助スルモ第六十五條第一項ヲ適用スヘキモノニ非

ス(同上大正二年三五六頁)

二 第八十六條第一項ハ自ラ常習トシテ賭博ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキ規定ニシテ單ニ他人ノ賭博行為ヲ幫助シタル場合ニハ縱令其幫助者カ賭博ノ常習者ナルトキト雖モ常習賭博ノ從犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(同上大正三年二六八頁)

三 第八十六條第一項ハ第八十五條ノ通常賭博罪ノ加重規定ニシテ其加重ハ犯人ノ身分ニ因ル加重ナリトス故ニ教唆又ハ幫助者カ非常習者ナルトキハ第八十五條ヲ適用セサルヘカラス(同上大正三年九三七頁)

◎賭博ノ前科ト常習ノ認定 賭博犯人ニ賭博ノ前科アル事實ハ必シモ常ニ之ヲ常習犯ト認ムヘカラサルト同時ニ之ニ依リ常習賭博ヲ認定スルヲ妨ケス(同上大正三年二四六九頁)

◎賭博ノ反覆ト常習ノ認定 賭博行為ヲ數回反覆スルハ客觀的ニ賭博ノ累行タルコト勿論ナレトモ尙主觀的ニ賭博ヲ爲ス習癖ノ成立ヲ認メ得ル時ニ於テ常習賭博罪ヲ構成ス(同上大正五年三〇三頁)

◎賭場開張者ノ賭博ト開張罪トノ關係

一 賭場開張罪ハ賭場ヲ開設シテ手数料若クハ寺錢ノ如ク一定ノ利益ヲ得ルニ因リ完成ス從テ開張者自ラ賭博ヲ爲スニ於テハ別ニ賭博罪ヲ構成ス(同上明治三五年四卷一五五頁)

二 賭場開張罪ハ開張者以外ノ者カ互ニ賭博ヲ爲ス爲メノ賭場ニ限ラス開張者自ラ相手方ト爲リテ賭博ヲ爲ス爲メ賭場ヲ開張シタル場合ニモ亦成立ス(同上明治四三年六八七頁同年九五七頁)

三 賭場開張罪ト賭博罪トハ元來別個獨立ノ犯罪ニシテ自己ノ開張シタル賭場ニ於テ自ラ賭博ヲ



爲シタルカ爲メ獨立ノ性質ヲ失フヘキ謂レナシ(大審院判決録明治四四年一六四頁)

四 空米相場ニ依ル賭博ヲ爲ス行爲ト其賭博ニ付キ賭場ヲ開張スル行爲トハ互ニ手段結果ノ關係ヲ有セス(同上大正四年四〇頁)

五 賭場開張者カ賭博ノ相手方ト爲リテ賭博ヲ爲ス方法ノ下ニ賭場ヲ開張シタル場合ニハ偶々其賭博罪ト開張罪トノ間ニ因果關係アルニ過キヌシテ第五十四條ニ所謂手段結果ノ關係アルモノト謂フヲ得ス(同上大正四年三二一頁)

●賭場開張圖利ノ意義

一 賭博場ヲ開張シテ利ヲ圖リトハ利益ヲ取得スルノ企圖アルコトヲ要スルノミニシテ既ニ利益ヲ取得シタルコトヲ要スルノ旨趣ニ非ス(同上明治三五年五卷一六六頁)

二 賭場開張罪ハ利益ヲ圖ルノ目的ヲ以テ賭博ヲ爲サシムヘキ場所ヲ開設セルニ因リ成立スルモノニシテ賭博者ヲ招集シ又ハ現實ニ利益ヲ取得スルコトハ其構成要件ニ非ス(同上明治四五年六六七頁)

三 第八十六條第二項ニ所謂利ヲ圖リトアルハ賭場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シ因テ不正ノ利ヲ獲得スルノ謂ニシテ其利益ヲ收受スルコトノ現在ナルト將來ナルトハ該罪ノ成立上何等ノ影響ナシ(同上大正三年八七四頁)

●博徒結合ノ意義 博徒ノ結合アリトスルニハ犯人ニ於テ日時場所ヲ特定シテ直接ニ博徒ヲ招結シ賭博ヲ爲サシメタルコトヲ必要トセス犯人カ博徒ヲ集合シ一定ノ區域内ニ於テ隨時隨所ニ參會シテ賭博ヲ爲スノ方便ヲ授ケタル場合ニ於テモ亦本罪ヲ成立スルモノトス(同上明治四三年一六九六頁)

●博徒結合圖利ノ意義 博徒結合罪ノ構成要件タル利ヲ圖リトハ利益ヲ獲得セントスル計畫アリタルノミヲ以テ足レリトシ既ニ之ヲ獲得シタルコトヲ要求セサルヲ以テ博徒ノ結合カ射利心ヲ以テ其動機トシ之ヲ遂行スヘキ手段方法ヲ執リタル以上ハ同罪ハ完全ニ成立スヘク現ニ利益ヲ得タルヤ否ヤハ犯罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ス(同上明治四三年一六九六頁)

●博徒結合ト數個ノ賭場開張罪數 當初博徒結合ノ所爲アリタル外何等ノ行爲ヲ爲スコトヲ要セスシテ被告カ親分トシテノ地位ヲ失却セサル間ハ依然博徒結合ノ狀態カ繼續スルトキハ縱令賭場開張財物ノ徵收カ數度ニ涉ルモ尙不可分の單一ノ所爲ニシテ連續犯ニ非ス(同上明治四三年一六九九頁)

●賭博開始前ニ於ケル賭場開張罪ノ成立

一 賭博ヲ爲スヘキ場所ヲ開キ賭博者ヲ誘引シ寺錢手數料等ノ名義ヲ以テ金錢上ノ利益ヲ得ンコトヲ圖リタル以上ハ賭場開張罪ハ完全ニ成立シ其場ニ於テ賭博ヲ爲シタル事實アルト否トハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(同上明治四三年一八九一頁)

二 賭場開張罪ハ賭博ヲ爲ス設備ヲ爲シ因テ財産上ノ利益ヲ獲得セントスルニ因リ成立シ現ニ其賭博場ニ於テ賭博ヲ爲シタル者アルコトヲ必要トセス(同上大正二年九九四頁)

●賭場開張圖利ト博徒結合圖利トノ關係 賭場開張圖利ノ行爲ト博徒結合圖利ノ行爲トハ二個ノ行爲ニシテ法律上縱シ第五十四條ノ適用アル爲メ一罪ヲ構成スルトスルモ事實ノ内容ハ決シテ同一ト謂フヲ得ス(同上明治四三年二一六二頁)

●博徒結合罪ノ從犯 博徒結合者ノ爲メニ乾兒タル博徒ヨリ親分ニ送付スヘキ年度金ノ取立乾兒間



ノ紛議ノ裁判及ヒ仲裁若クハ親分ヨリノ指揮命令ヲ傳達スル如キハ何レモ博徒結合罪ノ從犯ナリ  
(大審院判決註明治四四年一二五五頁)

◎賭場開張罪ト賭場給與者ノ責任 賭場開張者ニ賭場ヲ給與スルハ其犯罪遂行ノ便宜ヲ與ヘ之ヲ容易ナラシムルモノナルヲ以テ賭場開張罪ノ從犯ナリ(同上大正二年七七二頁)

◎數回ノ口錢取得ト賭場開張ノ罪數 賭場開張罪ハ現實ニ利益ヲ收得スルコトヲ要件トセサルヲ以テ數回連續シテ客ヨリ口錢ヲ取得スルモ之ヲ以テ同罪ノ連續犯ナリトスルヲ得ス(同上大正三年三九六頁)

第八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

【關係法令】

◎懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方(明治四十二年內務省令第二十號)

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用キシコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以内ノ罰金情ヲ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ彰表物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス

【學說】

◎賭博ト富籤ノ區別

一 賭博ト富籤ノ區別ニ付キ諸說アリ一說ニ曰ク富籤ハ一ノ雙務契約ニシテ興行主ハ一定ノ條件ノ下ニ利益ヲ與フルコトヲ約シ購買者ハ無條件ニテ代金ヲ支拂フモノナルモ賭博ハ一定ノ條件ノ下ニ一方ヨリ他方ニ利益ヲ與フルコトヲ約スルニ過キスト二說ニ曰ク富籤ハ多數ノ表中偶然ノ中テモノヲ爲シ利益ヲ僥倖セントスル加入者カ非常ニ多數ニ達シ得ルモ賭博ニ在リテハ其加入者比較的少數ニ止マルト三說ハ判例ノ示ス所ナリ(牧野博士二二版二八二頁)

二 危險負擔カ一方的ナルヤ雙方的ナルヤノ點及ヒ抽籤ノ有無カ共ニ(結社的ニ)富籤ト賭博トヲ區別スル標準ナリト解ス(泉二博士七二五頁)

三 賭博ハ勝敗ト云フ出來事ニ因テ始メテ勝者カ敗者ノ手中ヨリ財物ヲ獲得スルノ手段即チ勝敗關係ニ依ルモ富籤ハ偶然ノコトニ因リ先ニ出資シタル物ヨリモ多クノ物又ハ少キ物ヲ得若クハ全ク何物ヲモ得サルコトト爲ルト云フ手段即チ損益關係ニ因ルノ點ニ於テ性質上ノ差異アリ

(勝本博士析義上七〇八頁)



- 四 富籤ト賭博ト異ル所ハ一、富籤ハ籤ニテ勝敗ヲ決シ二、一種ノ雙務契約ニシテ契約者ノ一方（興業者）カ他ノ一方（購買者）ニ對シ一定ノ條件成就ノ下ニ一定ノ金額ノ仕拂又ハ物件ノ給付義務ヲ負擔シ購買者ハ興業者ニ對シ無條件ニテ一定ノ金額ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルコトヲ約ス反之賭博ハ一定ノ條件成就ノ下ニ賭博者ノ一方（敗者）カ他方（勝者）ニ對シテ一定ノ金額ノ支拂又ハ物件ヲ給付スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ約スルニ過キス（小崎學士各論四九七頁）
- 五 富籤トハ關係者ノ一方ヨリ豫メ解除條件ナク一定ノ財物（通常金錢）ヲ提出シ抽籤ノ方法ヲ以テ當籤者ニ限リ他ノ一方ヨリ豫定ノ利益（通常ハ金錢又ハ有價物）ヲ與フル同意ヲ謂フ其博奕ト異ルハ豫メ處分的ニ財物ヲ提出スルト勝敗ヲ抽籤ノ方法ニ依リ決スルノ二點ニ在リ（岡田博士講義一七〇頁）
- 六 賭博ニ於テハ之ニ干與スル者ハ孰レモ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭スルモノナレトモ富籤ノ場合ニ於テハ其發賣者ニ於テハ財物ヲ賭スルコトナク從テ如何ナル場合ト雖モ財物ヲ損失スルノ危險ヲ負擔スルコトナク其財物ヲ賭スルハ富籤ノ購買者ニ限ルノ一事ニ在リ（大場博士各論下五〇七頁）
- 七 富籤ト賭博トノ區別セララル點ハ分配方法カ抽籤ナルコト興業者ニ損益ノ危險ナキコトノ二點ニ在リ（山岡博士講義六〇八頁）

【判決例】

◎富籤ノ意義

- 一 富籤興行ノ罪ハ財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ヲ以テ利益ヲ僥倖スル興行ヲ爲スノ行爲ニシテ其醜

出金ノ效力カ一回ノ抽籤ニ限ルト數回ノ抽籤ニ及フトハ犯罪ノ構成ニ影響ナシ（大審院判決錄明治三十四年一卷三〇頁）

- 二 富籤トハ財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ニ依リ當籤者ニ利益ヲ與フルノ行爲ヲ謂ヒ當籤セサル者カ財物ノ全部ハ又ハ一部ヲ喪失スルコトヲ要件トス（同上大正三年一五五二頁）

- 三 富籤ノ發賣トハ其購買者ヲシテ抽籤ノ方法ニ依リ利益ヲ僥倖セシムル目的ヲ以テ籤札ヲ發賣スルヲ謂ヒ籤札トハ射倖ノ權利ヲ證明スルノ具トシテ賣買授受セラルヘキ有形ノ物體ヲ指スモノトス（同上大正三年二二四二頁）

◎富籤ト賭博トノ區別

- 一 賭博ハ財物ヲ賭スル行爲ニシテ胴元ト賭者トノ間ニ取引ノ關係ヲ有シ二者孰レモ危險ノ負擔ニ任スルモノトス之ニ反シ富籤ハ財物ヲ醜集スル行爲ニシテ其興行者ハ如何ナル場合ト雖モ危險ヲ負擔スルコトナシ（同上明治三八年一八五頁）
- 二 富籤ハ財物ヲ醜集シ抽籤ニ依リ利益ヲ僥倖セシムル行爲ニシテ其發賣者ハ如何ナル場合ト雖モ危險ヲ負擔スルコトナシト雖モ賭博ハ財物ヲ賭スル行爲ニシテ胴元ト張方トノ間ニ取引ノ關係ヲ有シ兩者何レモ危險ノ負擔ニ當ルモノトス（同上大正元年一一七六頁）

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル



者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓  
以下ノ罰金ニ處ス

【關係法令】

◎憲法(明治二十二年二月十一日發布)

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背ケサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

◎警察犯處罰令(明治四十一年內務省令第十六號)

第二條(抜抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス  
三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚漬シタル者

【學說】

◎禮拜所不敬罪ノ法益

- 一 本罪ノ法益ハ神祠佛堂墓所禮拜所若クハ其所有者ノ有スル利益ニ非スシテ之ニ對スル不定多數人ノ信教上ノ感覺ナリ(大場博士各論(下五一三頁))
- 二 禮拜所ニ對スル不敬罪ハ信者ノ宗教上ノ感覺ヲ害スル所爲タリ(江本博士(一七七頁))
- 三 禮拜所ニ關スル罪ハ宗教上ノ良俗ヲ害スルモノナリ(泉二博士(七二八頁))

四 本罪ハ宗教上ニ於ケル風俗ヲ害スル者ヲ處罰スルノ趣旨ナリ(岡田博士講義(一七〇頁))

◎不敬ノ意義

- 一 不敬ノ所爲ハ言語ヲ以テスルト動作ヲ以テスルトヲ問ハスト雖モ單ニ禮拜セサル事實ヲ以テ不敬ナリト謂フヲ得ス進ンテ侮辱ノ意ヲ表示スルコトヲ要ス(牧野博士(二二一頁))
- 二 不敬罪ハ公然積極のニ輕侮ノ意思ヲ表示スヘキ行爲ヲ爲スニ依リ成立ス(大場博士各論(下五一四頁))
- 三 言語動作等現場ニ於テ行ハルヘキモノタルコトヲ要スルモノニシテ夫ノ刷行ノ文書、圖畫等ニ依リ他所ニ於テ行ハルルモノハ本罪ヲ構成セス(勝本博士各論(上七一五頁))
- 四 不敬トハ禮拜所ノ尊嚴ヲ毀損スヘキ行爲ヲ謂フ其實際尊嚴ヲ喪フニ至リタルト否トハ罪ノ成立ニ關係ナシ而シテ其行爲ハ言語ニ依ルト形容ヲ以テスルト將タ直接タルト間接タルトヲ區別セス(山岡博士講義(ル六一二頁))

◎說教禮拜葬式妨害ノ行爲

- 一 妨害ハ其方法ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ暴行喧噪等ノ方法ヲ以テスルトキハ勿論人ノ迷信ヲ利用シテ其厭惡スル行爲ヲ爲シ又ハ虛偽ノ事實ヲ傳説シテ人衆ヲ驚愕セシメ以テ說教、禮拜又ハ葬式ノ平穩ナル執行ヲ妨害スルトキハ皆本罪トナル(牧野博士(二二一頁))
- 二 言語又ハ動作等ニ依リ現在其場所ニ於テ行ハルルコト例ヘハ喧囂騷擾シテ聽聞ヲ妨ケ又ハ禮拜者ヲ抑留シテ之ヲ妨クル如キコトヲ要ス夫ノ文書ヲ刊行シテ廣ク之ヲ攻撃スルカ如キ行爲ヲ包含セス(勝本博士各論(上七一六頁))



三 妨害シタル者ト言フハ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタルモノ(一二三條)又ハ妨害ヲ生セシメタルモノ(一二四條)ト謂フニ同シカラス後日ノ説教、禮拜又ハ葬式ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタルノミニテハ本罪ハ構成セス(泉二博士 七二九頁)

四 妨害ハ説教禮拜若クハ葬式ノ平穩ナル執行ヲ妨クル一切ノ舉動ヲ謂ヒ其執行ヲ不能ニ致シタルト否トヲ分タスト雖モ妨害ハ現在タルコトヲ要シ將來執行サルヘキ説教其他ヲ妨害スル如キハ本罪ヲ構成セス(山岡ドクト 六六一三頁)

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

【關係法令】

●刑事訴訟法(明治二十三年)

(法律第九十六號)

第三百三十五條(第二項) 鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

【學說】

●墳墓發掘ト損壞トノ區別 發掘ハ損壞ト區別セサルヘカラス單ニ墳墓ヲ損壞スルニ止マル場合ハ第二百六十一條ニ入り死體其他ノ物ニ對シ特別ノ結果ヲ及ホシタル場合ハ第九十一條ニ入ル(牧野博士二版二八四頁、泉二博士七三二頁)

●古墳ノ發掘 吾人ノ宗教的信念ヲ失ヘル古墳ヲ發掘スルモ毀棄罪ヲ構成スルコトアルハ格別墳墓發掘罪ヲ構成セス(草野學士法學志 林大正五年四號)

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

【關係法令】

●刑事訴訟法(第八十九條(關))

(係法令)ノ部参照)

●刑死者及在監死亡者遺骸解剖實驗ニ供用方(明治十八年内務省 達甲第二十五號)

監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事

但屍體剖觀ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムヘシ

●監獄法(明治四十一年)

(法律第二十八號)

第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

【學說】

●死體ノ意義



- 一 死體ハ生命ヲ失ヒタル人ノ身體ナリ人ト認ムヘキ體軀ヲ具ヘサル死胎又ハ數百年ヲ經過シタル木乃伊ノ如キハ葬祭ヲ要スル人ノ死屍ト認ムヘキニ非サレハ死體ニ非ス(大場博士各論 下五一九頁)
- 二 死屍トハ人類ノ遺骸ヲ指ス故ニ假令人ニ關スト雖モ妊娠後一二月ニシテ未タ人類ト認ムルタケノ體軀ヲ具ヘサルモノハ包含セス然レトモ妊娠後四月以上ニシテ既ニ人類ノ形體ヲ具ヘタルモノノ死體ハ皆之ニ包含ス(勝本博士折義上二一八頁 山岡ドクトル 六一四頁)
- 三 胎兒ト雖モ妊娠後四五月ノ後ニ至リ稍々人體ヲ爲シ人ノ之ヲ葬祭スルノ程度ニ達スルモノナリトスレハ別ニ生理上出生ノ事實ナシト雖モ死體トシテ尊敬セサルヘカラス(岡田博士講義 一七二頁)
- 四 胎兒ハ未タ人類ト謂フコトヲ得ス出生後始メテ人類ト謂フコトヲ得ヘシ從テ胎内ニ於テ既ニ死亡シタル者ハ死體中ニ包含セス(小崎學士各論 五〇二頁)
- 五 妊娠四個月以上ノ死産兒ヲ毀棄シタル者ハ刑法第二百六十四條(舊刑法)ヲ以テ問フヘキナリ(法曹會決議法 曹記事一三號)

◎遺骨遺髮ノ意義

- 一 遺骨トハ墳墓ニ安置セラルヘキ人ノ骸骨骨片ヲ謂フ遺髮トハ墳墓ニ安置セラレ若クハ葬祭ノ目的タルヘキ人ノ毛髮ヲ謂フ(大場博士各論 下五二二頁)
- 二 遺骨遺髮トハ其未タ宗教の觀念ヲ消失セサルモノタルコトヲ要ス故ニ博物館ニ陳列シタル遺骨又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル遺骨遺髮ノ如キハ本罪ノ物體タラス(山岡ドクトル 六一四頁)

◎損壞遺棄領得ノ意義

- 一 損壞トハ物質的ニ之ヲ破壞スルヲ謂ヒ遺棄トハ是等ノ物件ニ對シ放置スルノ意思ヲ以テ法令又ハ慣習上爲スヘキ行爲ヲ爲ササルヲ謂ヒ之ヲ自己ヨリ離隔シ或ハ自ラ離隔スルハ勿論埋葬火葬ヲ爲サスシテ放置スル場合ヲ包含ス領得トハ自己ノ所持ニ收ムルノ謂ナリ(牧野博士二二 版二八六頁)
- 二 損壞ハ信教上ノ良俗ニ反シテ損壞スル場合ニ限り罪トナル遺棄ハ之ヲ他ニ移シテ棄アタル場合ハ勿論葬祭ヲ爲サスシテ放置スル行爲ヲ含ム又領得トハ物ニ對シ經濟上ノ利益ヲ行ハントスル行爲ナリ(大場博士各論 下五二二頁)
- 三 損壞トハ物質的ニ破壞スルコトヲ謂ヒ遺棄ハ場所的離隔ナリ領得トハ自己ノ處分ニ任スル意思ヲ以テ目的物ノ所持ヲ取得スルコトヲ謂フ(山岡ドクトル 六一六頁)

【判決例】

◎遺骨ノ意義 第九十條ニ所謂遺骨タルニハ死者ノ祭祀又ハ紀念ノ爲メ之ヲ保存シ又ハ保存スヘキモノタルコトヲ要シ死者ノ遺族其他遺骨ヲ處分スルノ權限ヲ有スル者カ風俗慣習ニ從ヒ正當ニ之ヲ處分シタルモノハ此性質ヲ有セサルヲ以テ之ヲ領有スルモ同條ノ犯罪ヲ構成スルコトナシ(大審院判決詳明治 四三年一六一頁)

◎死體遺棄ト殺人罪トノ關係

一 死體遺棄ノ行爲ハ殺人罪ヨリ生スル當然ノ結果ニ非サルヲ以テ第五十四條ニ依リ一罪トシテ處分スヘキモノニ非ス(同上明治四三 年一八一八頁)



二 死體遺棄ノ行爲ハ常ニ殺人罪ニ伴フモノニ非サレハ人ヲ殺シタル後死體ヲ燒燬シテ之ヲ遺棄スルニ於テハ殺人罪ト死體遺棄罪トノ併合罪ナリ(大審院判決錄明治四十四年一三八九頁)

◎死體ノ意義 第九十條ニハ單ニ死體トアリテ何等區別ヲ爲ササルノミナラス同條ノ目的ハ人ノ尊敬シテ以テ相當ノ葬式ヲ執行スヘキ死屍ヲ遺棄、損壞、若クハ領得シタル者ヲ處罰スルニ在リテ明治十七年内務省乙第四十號達ニ依レハ妊娠四個月以上ノ死胎モ亦之ヲ死屍ト認メ區戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬スルヲ得サルカ故ニ人ノ形體ヲ備ヘタル死屍ナルニ於テハ死胎モ亦之ヲ死體ナリト稱セサルヲ得ス(同上明治四十四年一七五五頁)

◎誤テ發掘シタル死體遺骨ノ損壞 第九十條ノ犯罪ノ目的物ハ第九十一條ノ規定スルモノヲ除外シタル死體遺骨等ヲ指稱スルモノトス而シテ適法ニ墳墓ヲ發掘シ又ハ墓地ノ域内ヲ掘鑿スルニ因リ過テ棺槨ヲ破壞シ發見シタル死體遺骨等ヲ損壞シタル場合ニ於テハ第九十條ニ依リ處分スヘキモノトス(同上大正三年二〇〇頁)

◎死體遺骨損壞罪ノ法益 第九十條及ヒ第九十一條ノ目的ハ公序良俗ノ保護ニ存シ財產上ノ權利ニ關スル一個人ノ利益ノ保護ニ存セス從テ其領得物ハ贓物ニ非ス(同上大正四年八八八頁)

第九十一條 第九十條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

【學說】

◎死體ノ意義(第九十條(學說)ノ部參照)

◎遺骨遺髮ノ意義(同上)

◎損壞遺棄領得ノ意義(同上)

【判決例】

◎遺骨ノ意義(第九十條(判例)ノ部參照)

◎死體遺棄ト殺人罪トノ關係(同上)

◎死體ノ意義(同上)

◎誤テ發掘シタル死體遺骨ノ損壞(同上)

◎死體遺骨損壞罪ノ法益(同上)

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

【關係法令】

◎行政警察規則(明治八年太政官達第二十九號)

第二十條 道路河渠ニ死屍アルトキハ其模樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ

◎變死屍體檢査上解剖手續(明治十年太政官布告第二十二號)

第二編 第二十四章 第九十一條 判決例 第九十二條 關係法令



變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ検査(檢事派出ナキ地)ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得

●官廳内官有工場及艦船等ニ於ケル變死者檢視手續(明治十三年太政官達第十四號)

官廳内竝ニ官有ノ工場及ヒ艦船等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ハ報知シ檢死ヲ受クハシ但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

●墓地及埋葬取締規則(明治十七年太政官布達第二十五號)

第一條 墓地及火葬場ハ管轄官廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但シ別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但シ改葬ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲サシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

●同上違犯者處分ノ件(明治十七年太政官達第八十二號)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スル者ハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相違候事

【學說】

●變死者ノ意義

- 一 變死者トハ急病ニ因リテ醫師ノ治療ヲ受クルノ遑ナクシテ死亡シタルカ若クハ自殺、毒殺、殺人其他不當ノ災害ニ因リ死亡シタル者ヲ謂フ(大場博士各論下五二四頁)
- 二 變死者トハ醫師ノ治療ヲ受クル遑ナク疾病其他ノ原因ニ因リ突然死亡シタル者ヲ謂フ(山岡博士六頁)
- 三 變死者トハ醫師ノ治療ヲ受クル暇ナク突然ノ發病其他ノ原因ニ因リ死亡シタル者ヲ謂フ(泉二博士七三一頁)

【判決例】

●變死者ノ意義 第九十二條ニ所謂變死者トハ他殺ニ係ル者他殺自殺ノ不明ナル者若クハ醫師ノ治療ヲ待タスシテ死亡シタル自殺人ハ勿論犯罪ニ因リ生シ得ヘキ死因ノ爲メ死ヲ遂ケタル者ヲ謂フ(長崎控訴院明治四二年一月一三日判決)

第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス



【關係法令】

- 憲法(第九十四條(關係法令)ノ部参照)
- 刑事訴訟法(同上)

【學說】

- 公務員ノ意義(第七條(學說)ノ部参照)
- 職權濫用ノ意義
  - 一 公務員カ職權本來ノ使命ヲ逸脱シテ職權ノ行使ヲ爲ストキ之ヲ濫用ト謂フ(牧野博士二一)
  - 二 職權濫用トハ公務員カ其有スル職務上ノ權能ヲ行使スルニ外ナラサレトモ權能ノ行使ヲ爲スヘキ法定ノ條件ヲ具備セサルニモ拘ハラズ之ヲ行使スルヲ謂フ(大場博士各論下六七〇頁)
  - 三 職權濫用トハ職務ヲ不法ニ行使スルコト換言スレハ公務員カ其資格ニ於テ存スル職務ヲ行フニ當リ法律又ハ職務規律ニ於テ定マル條件ニ違背シ權限ヲ超脱スルヲ謂フ(山岡ドクトル六五九頁)
  - 四 職權濫用トハ職權ヲ不法ニ利用スルコトヲ意味ス(泉二博士七三二頁)

【判決例】

- 通信事務員ノ性質(第七條(判決例)ノ部参照)

- 執達吏代理ノ性質(同上)
- 蠶病豫防吏員ノ性質(同上)
- 水利組合員選舉員ノ性質(同上)
- 市事務員及ヒ技手ノ性質(同上)
- 司法省工手ノ性質(同上)
- 町村組合管理者ノ性質(同上)
- 町村吏員ノ性質(同上)
- 郡吏員ノ性質(同上)
- 北海道土功組合役員ノ性質(同上)
- 雇員ノ性質(同上)

【判決例】

- 非現行犯人ノ不法逮捕 巡查カ犯罪人ト認メタル者ノ居所ニ出張シ非現行犯タルニ拘ハラズ令狀ヲ待タスシテ逮捕シタル所爲ハ不法逮捕罪ニ該當ス(大審院判決錄明治三十四年一巻一頁)
- 職權濫用ト犯罪ノ強制 第九十三條ハ公務員カ他人ヲ強制シ其人ノ義務ニ屬セサル行爲ヲ爲サシメ若クハ當然行フヘキ權利ノ行使ヲ妨害スル行爲ヲ處罰スル規定ニシテ公務員カ職權ヲ濫用シ他人ヲシテ犯罪行爲ヲ實行セシメタル場合ニ該當セス(同上大正元年一五九三頁)



第九十四條 裁判、檢察、警察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

【關係法令】

●憲法(明治二十二年二月十一日發布)

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

●刑事訴訟法(明治二十三年法律第九十六號)

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

【學說】

●職權濫用ノ意義(第九十三條(學說)ノ部參照)

●逮捕監禁罪ノ客體(第二百二十條(學說)ノ部參照)

●逮捕監禁ノ意義及ヒ其區別(同上)

【判決例】

●非現行犯人ノ不法逮捕(第九十三條(判例)ノ部參照)

●職權濫用ト犯罪ノ強制(同上)

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

【關係法令】

●刑事訴訟法(第九十四條(關係法令)ノ部參照)

【學說】

●法令ニ因リ拘禁セラレタル者ノ意義(第九十九條(學說)ノ部參照)

●暴行陵虐ノ意義

一 暴行トハ身體又ハ財産ニ對シテ加フル腕力ノ意味ナリ陵虐トハ其他一般ニ苛酷ノ所爲ヲ爲スヲ謂フ必シモ罪狀ヲ陳述セシムル爲ニ爲ス所ノ行爲ニ限ラス(牧野博士二二版二八九頁)



- 二 暴行トハ身體ニ對スル暴行ノミヲ指稱シ物ニ對スル暴行ヲ包含セス陵虐ノ所爲トハ暴行以外ノ所爲ヲ以テスル人ニ對スル苛酷ノ所爲ト解スヘシ(大場博士各論 下六七六頁)
- 三 陵虐ハ清律陵虐罪囚ノ條ノ註釋ニ凡以非理之事、加干罪囚、皆陵虐、有所侵犯曰陵、有所殘害曰虐、陵虐所指者廣而毆傷則陵虐之其者也トアリテ猶殘虐若クハ苛酷ノ所爲ト謂フカ如シ(勝本博士析義 上八〇七頁)
- 四 陵虐トハ殘虐又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スノ義ナリ(小崎學士各論 五三三六頁)
- 五 陵虐ハ陵辱苛虐ナリ例ヘハ飲食物又ハ衣服ヲ屏去シ脅迫ヲ爲シ婦女ニ醜辱ヲ加フルカ如キハ其著シキモノナリ(泉二博士 七三四頁)

【判決例】

◎暴行陵虐ノ意義

- 一 看守カ監獄内ノ規律ニ違犯セル囚人ニ對シ當然背後ヨリ其衣服ヲ摑ミ強カヲ用ヒテ之ヲ引倒シ負傷セシメタルトキハ苛酷ノ所爲ニ該當ス(大審院判決錄明治四〇年九二八頁)
  - 二 第九十五條ニ所謂陵虐トハ陵辱苛虐ノ行爲ヲ指稱シ其實質カ猥褻及ヒ姦淫ノ行爲タルトキト雖モ同時ニ之ヲ陵虐ノ行爲ト認ムルヲ妨ケス(同上大正四年七二〇頁)
- 第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【學說】

- ◎殺人行爲(第九十九條 學說ノ部參照)
- ◎傷害ノ意義(第二百四條 學說ノ部參照)

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

【關係法令】

- ◎民事訴訟法(明治二十三年 法律第二十九號)  
第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス
- 第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス
- ◎飲食物取締ニ關スル件(明治三十三年 法律第十五號)  
第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ



重禁錮ニ處ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法  
第二百八十四條(舊刑)ノ例ニ照シテ處斷ス

●土地收用法(明治三十三年  
法律第二十九號)

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス其賄  
賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

●精神病者監護法(明治三十三年  
法律第三十八號)

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル  
者ハ刑法第二百八十六條(舊刑)ノ例ニ照ラシテ處斷ス

●商業會議所法(明治三十五年  
法律第三十一號)

第七條(抜抄) 商業會議所ノ事務權限左ノ如シ

七 關係人ノ請求ニ因リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

【學 說】

●公務員ノ意義(第七條(學說)  
ノ部參照)

●仲裁人ノ意義

一 仲裁人トハ當事者ニ和解ヲ爲シ得ル權利關係ノ爭議ニ付キ判斷ヲ爲ス爲メ民事訴訟法ノ規定  
ニ從ヒ職務ヲ行フ者ナリ(泉二博士  
七三六頁)

二 仲裁人トハ例ヘハ當事者ノ爭ヲ判斷スル爲メ仲裁手續ニ從ヒ職務ヲ執ル者又ハ商業會議所カ  
商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スル場合ニ於テ其職務ヲ犯ス者ノ如シ(牧野博士二二  
版二九〇頁)

●將來ノ職務ト收賄

一 苟モ公務員タル以上ハ其職務ノ執行カ期限若クハ未必的ナル將來ノ出來事ニ繋リ賄賂授受ノ  
當時ニ在テハ未タ之ヲ執行スルコトヲ得ルノ地位ニ在ラサリシ場合ト雖モ尙收賄罪ヲ成立ス  
(牧野博士二二  
版二九二頁)

二 收賄行爲ハ公務員ノ職務ニ屬スル行爲ノ實行前ナルト實行中ナルト又ハ實行後ナルトハ之ヲ  
問ハサルナリ然レトモ一般收賄罪ニ對シテハ賄賂ノ收受、要求若クハ約束ノ當時行爲者カ公務  
員ニ非サルトキハ此罪ヲ構成セス(大場博士各  
論六四五頁)

三 職務行爲カ賄賂ノ約束ニ起因スルト將タ之ニ先ツトニ依リテ收賄罪ノ成立ニ影響ナシ(泉二博  
士七  
頁七)

●過去ノ職務ト收賄 官吏カ轉職後ニ至リ前職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シタルトキハ賄賂罪ヲ構成ス  
ルモ休職後ニ之ヲ收受シタルトキハ同罪ヲ構成セス(林檢事法學新報  
大正四年五號)

●賄賂ノ目的物

一 賄賂罪ノ客體タル利益(給付)ハ獨リ財産上ノ利益ニ止マラス各種ノ物質的又ハ精神的ノ利益  
ヲ含ム(大場博士各論  
下六三八頁)

二 賄賂トハ財物タルコトヲ要ス財物トハ受賄者ノ財産上ノ地位ヲ増進セシムヘキ條件ノ利益タ  
ル



ルコトヲ必要トセス一時ノ饗應ニ供スル食物モ賄賂ナリ然レトモ勞力又ハ淫行上ノ快樂ヲ含  
マス(泉二博士  
七三四頁)

三 賄賂ノ目的物ハ必シモ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ有形ノ物件タルコトヲ要セス單ニ利益タル  
ノミヲ以テ十分ナリ故ニ人ノ行爲若クハ勞力ト雖モ本罪ノ目的トナルヘシ(勝本博士析義  
上八二二頁)

四 金錢ニ見積ルコトヲ得ル行爲例ヘハ建築彫刻揮毫等ノ勞力ハ勿論金錢ニ見積ルコトヲ得サル  
勞力ト雖モ賄賂ノ目的物中ニ包含ス(岡田博士講  
義一九六頁)

五 賄賂トハ職務上ノ報酬タル不法ノ利益ヲ謂ヒ金錢ニ見積リ得ヘキモノタルト否トヲ問ハス有  
形ノモノタル以上ハ一時的ノ利益モ之ヲ包含ス例ヘハ交接、饗應ノ如シ(小崎學士各  
論五四一頁)

六 賄賂ノ本體ハ物質的利益ナリ而シテ物質的利益タル以上ハ財産的利益タルト否トヲ問ハス故  
ニ徽章稱號其他各種ノ物質の快樂ヲ滿タスニ足ルモノヲ包括ス(山岡博士各  
論六六六頁)

◎共同收賄ト追徴 追徴ハ沒收刑ノ執行ヲ受クヘキ者ニ對シ爲スヘキモノニシテ沒收刑ノ執行ヲ受  
クヘカラサル者ニ對シ之ヲ爲スヘキモノニ非ス故ニ三名ノ共犯者アリテ千圓ノ賄賂ヲ各自分配シ  
タル後各自其一部ヲ費消シタルトキハ其殘額ニ付キ各自別々ニ現實ノ費消額ヲ追徴セラルヘキモ  
ノトス(大場博士各論  
下六六三頁)

### 【判決例】

◎通信事務員ノ性質(第七條判決  
例ノ部参照)

◎執達吏代理ノ性質(同上)

◎蠶病豫防吏員ノ性質(同上)

◎水利組合員選舉員ノ性質(同上)

◎市事務員及ヒ技手ノ性質(同上)

◎司法省工手ノ性質(同上)

◎町村組合管理者ノ性質(同上)

◎町村吏員ノ性質(同上)

◎郡吏員ノ性質(同上)

◎北海道土功組合役員ノ性質(同上)

◎雇員ノ性質(同上)

◎將來ノ職務執行ニ關スル賄賂罪

一 官吏收賄罪ハ官吏ノ管掌ニ係ル職ニ關シテ收賄スルニ因リ成立シ其職務トハ現ニ其職權ヲ以  
テ處理シ得ヘキ狀態ニ在ル事務ノ執行ヲ指稱スルモノトス(大審院判決錄明治  
三十九年一三五三頁)

二 贈賄者カ將來ノ利益ヲ期待シタルニ過キササル場合ト雖モ苟モ公務員カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收  
受シタル以上ハ收賄罪ノ成立ヲ妨ケス(同上大正三  
年四〇八頁)

三 苟モ吏員ノ管掌ニ屬スル職務ニ關シ賄賂ヲ授受シタル以上ハ其職務ノ執行カ期限若クハ未必  
的ナル將來ノ出來事ニ繫リ直ニ之ヲ執行スルノ地位ニアラサリシトスルモ同罪ノ成立ヲ妨ケス



(大審院判決明治四三年一四一六頁)

四 第九十七條第一項ノ罪ハ財物收受ノ當時公務員又ハ仲裁人タル資格ヲ有セサルニ於テハ構成スルコトナシト雖モ其職務ノ執行カ右資格ノ發生ニ伴フ場合ニ於テハ其職務ノ執行ヲ豫期シテ收賄ヲ爲シタル以上同條ノ罪ヲ構成スルモノトス(同上明治四三年一六七七頁)

五 公務員又ハ仲裁人ニ對シ其職務ニ關シテ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル事實アルニ於テハ賄賂罪ハ直ニ成立スヘク請託ノ事實アリヤ否ヤハ本罪成否ニ必要ナル事實ニ非ス(同上明治四四年一八八一頁、同年一二五頁)

六 凡ソ收賄罪ハ利益ト職務行爲トノ間ニ給付ト反對給付トノ關係アルヲ以テ足り公務員カ職務ニ關シ關係者ノ請託ヲ容レタルコトヲ要スルモノニ非ス(同上大正三年五八四頁)

七 公務員ノ職務執行ノ目的事項未タ存在セサルカ若クハ職務ノ分配未定ノ爲メ特定事件ノ擔任未必ノ狀態ニ在ル場合ト雖モ事件發生後之ヲ分擔處理シ得ヘキ地位ニ在ル公務員カ將來ノ利益ヲ期待スル贈賄者ノ意思ヲ諒シテ賄賂ヲ受ケタル以上ハ收賄罪ヲ構成ス(同上大正五年八八八頁)

◎條件附賄賂ノ罪數 公務員カ條件附賄賂ノ約束ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ到來スルト否トニ依リ或ハ贈賄者ト爲リ或ハ受賄者ト爲ルヘキトキハ其行爲ハ一個ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(同上明治四二年一九九頁)

◎賄賂收受ト聽許トノ關係 賄賂收受ノ罪ト賄賂聽許ノ罪トハ既遂罪ト未遂罪トニ於ケル關係ト同シク犯罪行爲ノ程度ヲ異ニスルニ止マリ其性質ニ至リテハ彼此同一ナルヲ以テ一個ノ犯罪中ニ右

ノ二行爲ヲ包含シ得ルモノトス(同上明治四二年一四八三頁)

◎職務執行後ノ賄賂罪

- 一 收賄罪ハ常ニ必シモ將來ニ於ケル職務違犯ヲ以テ目的ト爲スコトヲ要セス公務員カ或職務ノ執行後正當ノ理由ナク其報酬トシテ財物ノ收受ヲ爲シタルトキハ同罪ヲ成立ス(同上明治四二年一八四三頁)
- 二 賄賂ノ收受若クハ聽許カ職務執行後ニ在リタルコトハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ(同上明治四四年一六八頁)
- 三 苟モ職務執行ニ關シ賄賂ヲ收受シタル以上ハ其收受カ職務ノ執行前ナルト執行後ナルトヲ問ハス之ヲ處罰スルモノトス(同上大正二年一四二五頁)

◎町村助役ノ請負工事ニ關スル收賄 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スヘキ職責ヲ有スルカ故ニ町村長ト等シク町村ノ營造物ヲ管理スルノ職權アルモノトス從テ小學校建築工事ノ請負ニ關シ收賄シタルトキハ收賄罪トシテ處分スヘキモノナリ(同上明治四三年八七五頁)

◎村長ノ里道變更工事ニ關スル收賄 村ノ設置ニ係ル里道ハ一ノ營造物ニシテ村長カ之ヲ管理若クハ監督スルノ權アルコトハ町村制第六十八條第二號ノ明文ニ照シ明確ナリ故ニ村長カ里道ノ變更工事ニ關シ他人ニ金員ヲ要求シタルトキハ賄賂要求罪ヲ構成スルハ勿論ナリ(同上明治四四年一〇七頁)

◎賄賂罪ト請託關係

一 賄賂罪ノ成立ニ必要ナル請託關係ニ付テハ其請託者カ事項ヲ特定シテ囑託スルト之ヲ特定スルコトナク請託ヲ受クル公務員ノ見込ニ依リ請託ノ趣旨ニ應スヘキ方法ニ於テ隨時取計ヲ爲スヘキコトヲ囑託スルトニ區別ナク均シク同罪ノ請託アリト謂フヘシ(同上明治四三年一三七九頁)



- 二 賄賂授受ノ際ニ於テ公務員カ請託ノ趣旨ニ從ヒ職務ノ執行ヲ爲スノ意思不確定ニシテ請託ニ因リ始メテ其意思ヲ決定スルニ至リタルコトハ同罪成立ノ要件ニ非ス故ニ請託ナシトスルモ請託者ノ素思カ貫徹セラレ得ル狀況ニ在リタル場合ニ於テモ同罪ノ成立ヲ妨ケス(大審院判決錄明治四三年一八六四頁)
- 三 收賄罪ノ成立ニハ必シモ人ノ請託ヲ受クル事實アルコトヲ要スルモノニ非スト雖モ請負工事ノ監督ヲ寬ニセラレンコトヲ囑スルカ如キ請託其モノカ公務員ノ職務上ノ事ヲ目的トスル場合ニ於テ公務員其請託ヲ受クルハ即チ其職務ニ關スルモノニシテ收賄罪ノ成立ヲ認ムル爲メ必要缺クヘカラサル事實ナリ(同上明治四四年一〇六六頁)

●賄賂ノ目的物

- 一 賄賂ノ目的物ハ其有形ナルト無形ナルトヲ問ハス苟モ人ノ需要若クハ其慾望ヲ充タスニ足ルヘキ一切ノ利益ヲ包含スヘキモノナルヲ以テ藝妓ノ演藝ノ如キモ亦之ニ包含スルモノトス(同上明治四三年二二四六頁)
- 二 賄賂ノ目的ハ獨リ有體物タルノミナラス有形ト無形トヲ問ハス一切ノ利益ハ皆其目的ト爲ルコトヲ得ヘシ故ニ費用ヲ負擔セスシテ貸座敷ニ於ケル遊興ヲ爲スカ如キモ亦一種ノ利益ニ外ナラサルモノトス(同上明治四四年八八二頁、一八七八頁)
- 三 賄賂ノ目的物ハ有形無形ヲ問ハス汎ク人ノ需要若クハ慾望ヲ満足セシムヘキ生活利益ヲ指稱スルモノナレハ金錢ノ贈與ヲ受ケサルモ消費貸借ニ依リテ需要ヲ満足セシムル以上ハ之レ亦賄賂ノ目的タルヲ得ヘシ(同上大正三年一四七九頁)

- 四 賄賂ノ目的ハ人ノ需要若クハ慾望ヲ満足セシムヘキ一切ノ有形無形ノ利益ヲ包含シ經濟上ノ價額ヲ有スルコトヲ必要トセス(同上大正三年一九九二頁)
  - 五 他人ニ對シ一定ノ地位ヲ供與スヘキ旨ヲ約束シタル行爲ハ所謂賄賂ノ約束ニ該當ス(同上大正一年一頁)
  - 六 異性間ノ情交ハ賄賂ノ目的タルコトヲ得ルモノトス(同上大正四年九九〇頁)
- 贓物收受ト賄賂收受トノ關係 被告カ盜贓品タル情ヲ知リナカラ之ヲ賄賂トシテ收受シタルトキハ一個ノ行爲ニシテ收賄及ヒ贓物收受ノ二個ノ罪名ニ觸レタルモノトス(同上明治四四年四八一頁)

●縣會議員ノ職務ト收賄

- 一 縣會議員カ議場ニ出席ヲ爲スハ其職務ノ執行タルコト勿論ナレハ賄賂ヲ收受シ因テ議場ニ出席セサルトキハ第九十七條第一項後段ニ所謂相當ノ行爲ヲ爲ササルモノニ該當スルモノトス(同上明治四四年一三〇頁)
- 二 縣會議員ハ豫算案ヲ議決スヘキ職務ヲ帶有スルカ故ニ或豫算案ノ可決ニ盡力スヘキ條件ヲ以テ賄賂ヲ約束スルニ於テハ現ニ同豫算案カ縣會ニ提出セラレ居ルト否トニ論ナク又後日提出セラレタルト否トヲ問ハス右約束ノ當時直ニ收賄罪ハ成立スルモノトス(同上明治四五年五九頁)
- 三 縣會議員ノ資格ハ當選ノ效力ニ依リ取得スルモノニシテ其承諾ニ依リ其任期カ始マルモノニ非ス唯之ヲ辭シ又ハ之ヲ辭シタリト看做スヘキ場合ニ當選ハ其效力ヲ解除セラルルニ過キス故ニ其當選者カ承諾又ハ辭退ノ未定ナル時期ニ於テ縣會議員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ於テ



ハ第九十七條ノ犯罪ヲ構成ス(大審院判決録明治四五年五六五頁)

◎**戸籍吏ノ不法届出受理ト收賄** 身分ニ關スル届書ニハ届出人ノ署名ヲ要シ又署名トハ本人ノ自署ヲ指稱スルカ故ニ戸籍吏ハ届出人ノ記名ヲ自署ニ非スト認メタルトキハ之ヲ受理セサルヲ當然トス然ルニ戸籍吏カ賄賂ヲ收受シ因テ之ヲ自署ナリトシテ受理シタルハ即チ不正ノ處分ヲ爲シタルモノトス(同上明治四五五年五二四頁)

◎**收賄ト背任トノ關係** 公務員カ新築工事請負人ノ依頼ニ因リ報酬ヲ得テ右工事ノ監督ヲ寬ニシ國ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ收賄罪ヲ構成スルト同時ニ背任罪ヲ構成シ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(同上明治四五五年五七二頁)

◎**郡吏員ノ里道工事ニ關スル收賄** 郡吏員ハ郡制第七十七條ニ依リ郡長ノ命ヲ受ケ事務ニ從事スルモノニシテ郡長ハ町村ノ里道工事ニ付テモ監督權ヲ有スルカ故ニ郡吏員カ郡長ノ命ニ依リ里道改修工事ノ測量及ヒ監督ノ任務ニ從事スルハ法令ニ依ル職務ナルコト明カナリ故ニ之ニ關シ賄賂ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス(同上大正二年二〇六頁)

◎**煙草販賣官吏ノ職務ト收賄** 煙草販賣官署ノ長ハ元賣捌人指定ノ申請ニ適否ノ意見ヲ付シ之ヲ專賣局長官ニ進達スヘキ職責ヲ有スルカ故ニ之ニ關シ賄賂ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス(同上五年六二四頁)

◎**賄賂罪ト職務行爲トノ關係** 收賄罪又ハ贈賄罪ハ公務員又ハ仲裁人ノ職務ニ關スルコトヲ要スルモ收賄贈賄ノ原因タル行爲カ公務員又ハ仲裁人ノ職務自體ナルコトヲ要セス其職務ニ關涉スレハ

足ルカ故ニ其職務執行タル行爲ニ屬セサルモ職務執行ト密接ノ關係ヲ有スル以上ハ收賄又ハ贈賄ノ行爲アリト謂フヲ妨ケス(同上大正二年一四〇一頁)

◎**郡技手ノ土木ニ關スル收賄** 郡技手トシテ個々ノ土木工事ニ付キ郡長ノ命令ヲ俟チ職務ヲ執行スヘキモノトスルモ其職務ノ執行ヲ豫期シ之ニ關シ不正ノ利益ヲ要求又ハ收受シタルトキハ第九十七條ノ犯罪ヲ構成ス(同上大正三年四〇六頁)

◎**北海道土功組合評議員ノ職務ト收賄** 北海道土功組合法ニ依ル組合ノ評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ業務執行及ヒ財産ノ狀況ヲ監査スル職責アルモノナレハ其業務執行ニ關シ賄賂ヲ收受シタル以上ハ收賄罪ヲ構成ス(同上大正三年五四七頁)

◎**村長ノ公金預入ト收賄** 村長カ銀行員ヨリ公金預入ノ請託ヲ受ケ金員ヲ收受シタルトキハ即チ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノトス(同上大正三年二四八頁)

◎**購買入札擔當吏ノ職務ト收賄** 購買入札ヲ擔任スル官吏カ賄賂ヲ收受シ他人ノ入札價格ヲ内示シテ賄賂者ニ落札セシメタルトキハ不正ノ行爲ヲ爲シタルモノナリ(同上大正三年二四一六頁)

◎**轉職後ノ賄賂收受** 公務員カ其職務ニ關シ賄賂ヲ約束シ後轉シテ他ノ職務ヲ執ルニ至リ曩日ノ約束ニ基キ金品ヲ收受シタルトキハ賄賂約束罪ヲ成立スルモ收受罪ヲ構成セス(同上大正四年一〇二六頁)

◎**仲裁人ノ意義** 仲裁人トハ法規ニ基キ仲裁人ノ職ニ在ル者ノ謂ニシテ自ラ進ンテ紛議ノ示談和解ヲ斡旋盡力スル者ノ如キハ之ニ包含セス(同上大正五年三八頁)

◎**債務證書ノ收賄ト追徵額** 官吏職務ニ關シ自己ノ差入レタル債務證書ノ返付ヲ得タル所爲ハ賄賂



收受罪ヲ構成シ其證書面ノ金額ハ之ヲ追徴スヘキモノトス(大審院判決録明治三〇年一一卷八二頁)

●收賄教唆者及ヒ從犯ト追徴

- 一 官吏收賄罪ノ教唆者又ハ從犯ニシテ賄賂ノ幾分ヲ費消シタリトスルモ之ニ對シ追徴ヲ爲スコトヲ得ス實行正犯者ニ於テ全部ノ責任ヲ負フヘキモノトス(同上明治三三年一〇卷四九頁)
- 二 檢事ノ收賄ヲ幫助シ之ヲ容易ナラシメタル者ハ縱令其賄賂ニ付キ現實幾分ノ利益ヲ受クルモ直接賄賂ヲ利得セルモノニ非サレハ沒收又ハ追徴ヲ受クヘキモノニ非ス(同上明治四〇年三九二頁)

●數人共同收賄ト追徴額

- 一 數人共謀シテ一團體トナリ賄賂ヲ收受シタル上ハ現存セサル賄賂ハ其團體ニ於テ費用シタルモノト認メサルヘカラス從テ共犯者ハ賄賂ノ全部ニ付キ共同ノ責任ヲ負フモノニシテ各自分配ノ部分ノミニ付キ責任ヲ負フモノニ非ス(同上明治三五年三卷八九頁)
- 二 數人共同シテ一團ト爲リ賄賂ヲ收受セル場合ニ於テハ其分配ヲ受ケタル金額如何ニ拘ハラズ各自賄賂ノ全部ニ付キ追徴ヲ受クル責任アルモノトス(同上明治三七年五九七頁)
- 三 數人共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テ其費消シタル賄賂ヲ追徴スルニハ共犯人各自ノ分配額如何ニ拘ハラズ平等ニ分割シテ之ヲ負擔スヘキモノトス(同上明治四四年一四一頁)
- 四 數人共同シテ賄賂ヲ收受シタル事件ニ於テ費消シタル賄賂ヲ追徴スル場合ニハ共犯人各自ノ分配額如何ニ拘ハラズ常ニ平等ニ分割シテ負擔セシムヘキモノトス(同上明治四五年八八七頁)

●收賄金ノ混淆ト追徴

- 一 賄賂トシテ收受シタル金錢ヲ自己ノ所持金ト混同シ判別不能ニ至ラシメタルハ之ヲ費消シタルト同シカラサルモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ追徴スルヲ至當トス(同上明治四五年五六六頁)
- 二 沒收又ハ追徴ハ不法ニ收受シタル金額ニ付キ之ヲ爲スヘキモノニシテ其以外ニ及ホスヘキモノニ非サルカ故ニ一定金額中ニ官費ト報酬トカ包含セラレ二者ヲ分別スルコト能ハサルトキハ全然沒收又ハ追徴スヘキモノニ非ス(同上大正四年一六九八頁)

●追徴ノ性質

- 一 追徴ハ財産刑ナリ(同上明治三〇年三卷六一頁)
- 二 賄賂ノ沒收及ヒ追徴ハ共ニ收賄罪ニ對スル附加刑ナルヲ以テ一旦收賄罪ノ成立シタル以上ハ其後ニ至リ賄賂ヲ被害者ニ返還スルモ之カ追徴ヲ免レ得ヘキニ非ス(同上明治四五年五七五頁)

●賄賂響應ト追徴額

- 一 賄賂ノ目的ヲ以テ人ヲ響應スル場合ニ於テハ收賄者ノ利益ハ惟リ自ラ口腹ニ充テタル酒食ニ止マラス其款待ニ因ル精神の満足ヲモ含ムヲ以テ從テ其響應ニ要シタル費用ヲ以テ賄賂ノ價額ト認ムルヲ相當トス(同上大正元年一四八二頁)
- 二 甲乙カ贈賄ノ目的ヲ以テ丙ヲ響應シタルトキハ其追徴スヘキ賄賂ノ價額ハ收賄者丙ノ爲メニ要シタル部分ノミニナリ(同上大正四年三〇〇頁)

●賄賂返還ト追徴

賄賂ノ沒收ハ收賄者ノミニ對スル附加刑ニシテ贈賄者ニ之ヲ科スルヲ得ス故ニ收賄者カ之ヲ贈賄者ニ返還シタル場合ニ於テモ收賄者ニ對シ之カ追徴ヲ命スヘキモノトス(同上大正三年)



◎沒收ノ不可能ト追徴 追徴ハ本來沒收スルコトヲ得ヘクシテ而カモ或事由ニ依リ沒收スルコト能ハサル場合ニ限り之ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルニ非スシテ性質上沒收シ得ヘカラサルカ爲メ沒收ノ不可能ナル場合ニ於テハ其價額ヲ追徴スヘキ趣旨ナリ(大審院判決錄大正四年七〇四頁)

◎退職轉職後ノ收受ト沒收及ヒ追徴 公務員其職務ニ關シ賄賂ノ要求又ハ約束ヲ爲シ退職又ハ轉職後其要求若クハ約束ニ基キ收受シタル財物ハ之ヲ沒收又ハ追徴スヘキモノニ非ス(同上大正四年一〇三一頁)

◎厘以下ノ追徴金 公私人ノ取引上厘以下ノ端數ハ之ヲ切捨ツルヲ一般ノ慣習トス故ニ追徴金額ニ付テモ厘以下ヲ切捨ツヘキモノトス(同上大正四年一五六四頁)

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二  
年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ  
得

【關係法令】

- ◎飲食物取締ニ關スル件(第九十七條(關係法令)ノ部參照)
- ◎土地收用法(同上)

- ◎精神病者監護法(同上)
- ◎民事訴訟法(同上)
- ◎商業會議所法(同上)

【學說】

- ◎公務服ノ意義(第七條(學說)ノ部參照)
- ◎自首及ヒ首服ノ意義(第四十二條(學說)ノ部參照)
- ◎仲裁人ノ意義(第九十七條(學說)ノ部參照)
- ◎將來ノ職務ト賄賂(同上)
- ◎過去ノ職務ト賄賂(同上)
- ◎賄賂ノ目的物(同上)

【判決例】

- ◎通信事務員ノ性質(第七條(判決例)ノ部參照)
- ◎執達吏代理ノ性質(同上)
- ◎蠶病豫防吏員ノ性質(同上)
- ◎水利組合員選舉員ノ性質(同上)



- ◎市事務員及ヒ技手ノ性質(同上)
- ◎司法省工手ノ性質(同上)
- ◎町村組合管理者ノ性質(同上)
- ◎町村吏員ノ性質(同上)
- ◎郡吏員ノ性質(同上)
- ◎北海道土功組合役員ノ性質(同上)
- ◎雇員ノ性質(同上)
- ◎刑ノ免除ノ意義(第七十條(判例)ノ部参照)
- ◎將來ノ職務執行ニ關スル賄賂罪(第九十七條(判例)ノ部参照)
- ◎條件附賄賂ノ罪數(同上)
- ◎賄賂收受ト聽許トノ關係(同上)
- ◎職務執行後ノ賄賂罪(同上)
- ◎町村助役ノ請負工事ニ關スル收賄(同上)
- ◎村長ノ里道變更工事ニ關スル收賄(同上)
- ◎賄賂罪ト請託關係(同上)
- ◎賄賂ノ目的物(同上)
- ◎贓物收受ト賄賂收受トノ關係(同上)

- ◎縣會議員ノ職務ト收賄(同上)
- ◎戶籍吏ノ不法届出受理ト收賄(同上)
- ◎收賄ト背任トノ關係(同上)
- ◎郡吏員ノ里道工事ニ關スル收賄(同上)
- ◎煙草販賣官吏ノ職務ト收賄(同上)
- ◎賄賂罪ト職務行為トノ關係(同上)
- ◎郡技手ノ土木ニ關スル收賄(同上)
- ◎北海道土功組合評議員ノ職務ト收賄(同上)
- ◎村長ノ公金預入ト收賄(同上)
- ◎購買入札擔當吏ノ職務ト收賄(同上)
- ◎轉職後ノ賄賂收受(同上)
- ◎仲裁人ノ意義(同上)
- ◎賄賂提供ノ方法 公務員ニ直接賄賂ヲ提供セザリシトスルモ之ニ提供スヘキ趣旨ヲ以テ其妻ニ差出シタル以上ハ第九十八條ノ賄賂提供ニ該當ス(大審院判決錄明治四五年二二五頁)

### 第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處



ス

【學 說】

◎胎兒ト人トノ區別

- 一 殺人罪ハ生命アル人ニ對スルモノナラサルヘカラス而シテ人間ノ始期ニ關シテ陣痛說、一部露出說、全部露出說及ヒ獨立呼吸說ノ四說アリト雖モ刑法上ニ於テハ外部ヨリ損傷ヲ與ヘ得ル時期即チ一部露出說ヲ正當トス(牧野博士二二版二九六頁)
- 二 分娩ノ爲メ母體カ陣痛ヲ感スルトキハ分娩ノ開始アルモノナルカ故ニ此時ヲ以テ胎兒ト人間トヲ區別ス(勝本博士析義下六七頁、各論講義二六章)
- 三 刑法上ノ觀念トシテハ全部露出說ニ依ルヲ要セス苟モ母體ニ關係ナク外部ヨリ傷害スルコトヲ得ル状態ニ達スルトキハ之ヲ人ト認ムヘシ(泉二博士七四三頁)
- 四 胎兒カ自己ノ肺ヲ以テ母體ヨリ獨立シテ呼吸作用ヲ爲シ得ル状態ニ達シタルトキヲ以テ人間ト稱ス(小崎學士各論五三三頁)
- 五 胎兒ノ獨立呼吸ハ嬰兒カ母體ヲ離レテ外界即チ母體外ニ於テ獨立生活ヲ始ムル起點ナレハ此時ヨリ獨立ノ存在ヲ認ムヘシ(大場博士各論上四五頁、岡田博士各論四〇一頁)
- 六 胎兒ハ獨立呼吸ニ依リ母體ト分離シタル生活ヲ始ムルモノナルヲ以テ獨立呼吸說ヲ可トス(山岡博士各論三三一頁)

◎畸形兒

- 一 吾人人類異性間ノ結合ヨリ生出シタル者ハ之ヲ人ト認メ形ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ畸形兒ノ如キモ人ナリ(勝本博士析義下六頁、岡田博士各論四〇一頁)
- 二 現在ノ法理ニ於テハ苟モ人間カ懷妊シ人間カ分娩シ生活機關ヲ有スル者ハ畸形ノ程度如何ヲ問ハス之ヲ人間ト認メ羅馬法ノ如キ化物ヲ認メス(岡田博士各論講義六一頁)
- 三 苟モ人間ノ母體ヨリ分娩セラレタル嬰兒ハ其形體ノ如何ニ拘ハラズ等シク之ヲ刑法上人ト稱スヘク從テ畸形兒ト稱スル普通人間ノ形體ヲ備ヘサルモノト雖モ殺人罪ノ目的體タルコトヲ得(小崎學士各論五六四頁)
- 四 出生兒ニシテ苟モ生活機關ヲ有スル以上ハ縱令畸形ノ者ト雖モ仍ホ法理上ノ人ナリ併シ所謂鬼胎ナルモノハ生活機關ナキヲ以テ人ニ非ス(山岡博士各論三三二頁)
- 五 畸形兒例ヘハ半人半獸ノ如キ畸形ノモノカ人類ナリヤ否ヤハ動物學上ノ問題ナリ動物學上ノ人類ニ非サレハ法律上人類トシテ保護ヲ受クルコト能ハス(大場博士各論上五〇頁)

◎殺人行爲

- 一 人ヲ殺スノ所爲トハ人ノ生活機能ヲ喪失セシムルノ所爲ニシテ人ノ死亡ナル結果ニ對シ其原因ヲ與ヘタル所爲ヲ謂フ其方法ノ如何ヲ問ハス(大場博士各論上五二頁)
- 二 生命ヲ絶ツノ結果ヲ生スル以上ハ殺人ノ方法ノ如何即チ有形的的方法(傷害)タルト無形的的方法(精神ノ懊惱)タルトヲ問ハス(牧野博士一八版三三八頁)



- 三 人ヲ殺ストハ生命ヲ奪フヲ謂ヒ其行爲ノ積極、消極、有形、無形ヲ問ハス(岡田ドクトル四〇三頁 勝本博士各論講義三章)
- 四 殺人トハ故意ニ自己以外ノ自然人ノ生命ヲ絶ツ行爲ナリ豫謀ナルト偶意ナルトヲ問ハス毒物ヲ用ユルト支解折細其他慘酷ナル手段ヲ用キタルト銃殺斬殺縊殺溺殺陷殺等凡ソ人ノ生命ヲ絶チ得ヘキ手段ハ悉ク殺人行爲タルヲ得ヘク又間接ノ方法ヲ用ユルコトヲ妨ケス(泉二博士 七四四頁)
- 五 他人ヲ殺サンコトヲ圖リ世界一週旅行ヲ勸メ長途ノ旅中災厄ニ因リ死亡スヘキコトヲ豫想シタルニ果シテ汽船ノ難破ニ因リ死亡スルニ至リタルトキハ殺人行爲ノ實行ニシテ殺人罪ヲ構成ス(牧野博士法學志 林大正五年六號)

●誤殺

- 一 苟モ犯人ノ行爲ニ因リ生命ヲ破壊セラレタル者カ人タルニ於テハ縱令犯人ノ殺サント欲シタル所ノ人ニ非サルモ犯罪ノ構成ヲ妨クルコトナシ法律ハ廣ク人ヲ殺シタル者ト規定シ其誰タルヤヲ問ハサルカ故ニ人違ノ殺人モ亦罪トナル(勝本博士折義下八 頁各論講義二六章)
- 二 自己ノ希望スル人ヲ殺サント欲シ誤テ他人ヲ殺スヲ誤殺ト謂フ誤殺ハ故意ニ依ル殺人罪ナリ然レトモ殺人實行ノ際行爲者カ全然觀念セサリシ人ノ死亡ヲ來タシタル場合ハ罪ト爲ラス(大島各論上 六〇頁)
- 三 殺人ノ故意ハ人ノ死ノ認識ナリ人タルコトヲ要スルカ故ニ人ニ非スト思惟シタルトキハ故意ヲ存セス但法律ハ人タルコトノ認識ヲ以テ充分トスルカ故ニ甲ヲ乙ナリト誤ルモ殺人罪ノ成立ヲ妨ケス(山岡ドクトル 三三四頁)

- 四 打撃ノ齟齬ハ結果カ意思活動ノ對象ト爲ラス且犯人ノ觀念セサリシ客體ノ上ニ發生シタル場合ヲ謂ヒ客體ニ關スル錯誤ト共ニ故意ヲ阻却セス(泉二博士 二五五頁)
- 五 誤殺ニ二個ノ場合アリ一ハ目的物ノ同一(目的物其モノ)ヲ誤ル場合他ハ目的物ノ性質ヲ誤ル場合ナリ前者ハ目的物其モノヲ誤ルノ類ニシテ例ヘハ甲ナル者ニ向テ發砲シタルニ其傍ナル乙ニ命中シタリト謂フカ如シ之ヲ打撃或ハ方法ノ錯誤ト稱ス後者ハ例ヘハ偶、歩行シツツアル所ノ某ヲ以テ甲某ナリト信シ之ニ發砲シ命中シタル後之ヲ檢スルニ乙某ナリシト謂フカ如シ後者ノ場合ニ殺人既遂ノ責任アルコトハ異論ナシ前者ノ場合ニハ議論アリ專ラ一般ノ學理ニ依テ決セサルヘカラス(牧野博士刑法講義 各論一二〇頁)

【判決例】

- 殺人罪ノ罪數 殺人罪ハ單一ノ決意ヲ以テ之ヲ行フモ被害者毎ニ一個ノ殺人罪ヲ構成ス(大審院判 四二年七 九四頁)
- 殺人罪ノ刑ノ種類 第九十九條ニ於ケル二個以上ノ主刑ハ其間ニ輕重アリト雖モ全然刑ノ種類ヲ異ニスルカ故ニ最モ重キ刑ヲ以テ最上限ト爲シ最モ輕キ刑ヲ以テ最下限ト爲シタル一個ノ刑ノ範圍ヲ構成スルモノト謂フヲ得ス(同上明治四三 年五九一頁)
- 殺人罪ノ客體 殺人罪ノ客體タル人ハ犯罪當時生活機能ヲ保有シタルヲ以テ足り其健康狀態カ善良ニシテ犯罪ニ因リ侵害セラレサリシナラハ相當ノ天壽ヲ享ケ得ヘカリシモノナルコトヲ要セス



(大審院判決錄明治四三年八五八頁)

●殺人罪ト家宅侵入トノ關係 一個ノ殺人罪及ヒ三個ノ殺人未遂罪ヲ行フ手段トシテ一個ノ家宅侵入罪ヲ犯シタルトキハ各行爲ハ第五十四條第一項後段ニ依リ牽聯罪トシテ重キ殺人罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘキ一罪ヲ構成シ從テ輕キ家宅侵入及ヒ各殺人未遂ノ行爲ハ獨立シテ累犯加重ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス(同上明治四五年三八七頁)

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

〔學說〕

●胎兒ト人トノ區別(第九十九條(學說)ノ部參照)

●畸形兒(同上)

●殺人行爲(同上)

●誤殺(同上)

●配偶者及ヒ直系尊屬ノ意義

一 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬トハ自己ノ父母若クハ祖父母其他ノ尊屬及ヒ配偶者ノ父母若クハ祖父母其他ノ直系尊屬ヲ謂フ又血族ニ因ル直系尊屬ト卑屬トノ關係ハ事實上ノ關係ニ依ルヘキモノニシテ戶籍面ノ關係ニ依ルヘキモノニ非ス之ニ反シ緣組ニ因ル直系尊屬ト卑屬トノ關係ハ

戶籍面ニ依ルヘキモノトス何トナレハ緣組ハ届出ニ依テ其效力ヲ生スレハナリ(大場博士各論上八二頁)

二 本條ノ精神ハ法律上ノ直系尊屬ヲ特ニ重ク保護セントスルニ在ルヲ以テ私生子ノ事實上直系尊屬ノ如キハ之ニ包含セス(泉二博士七四五頁)

三 配偶者タル地位又ハ直系尊屬タル地位ハ民法ノ規定ニ依リ定マルヘキ法律上ノ關係ナリ故ニ俗稱ノ内縁夫婦ハ法律上ノ配偶者タラス又私生子ノ事實上ノ父ノ如キ法律上ノ直系尊屬ニ非ス(山岡博士三三六頁岡田博士四〇二頁)

〔判決例〕

●殺人罪ノ罪數(第九十九條(判例)ノ部參照)

●殺人罪ノ刑ノ種類(同上)

●殺人罪ノ客體(同上)

●殺人罪ト家宅侵入トノ關係(同上)

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

〔學說〕

●着手ト豫備トノ區別(第四十三條(學說)ノ部參照)

第二編 第二十六章 第二百條 判決例 第二百一條 學說



●陰謀罪豫備罪ノ中止犯(同上)

●殺人豫備行爲 殺人ノ豫備トハ殺人罪ヲ犯ス爲メノ準備行爲ヲ謂フ例ヘハ刀劍ヲ研キ短銃ヲ買入  
レ毒藥ヲ準備スルカ如シ(大場博士各論上八四頁) (岡田博士各論上四〇八頁)

【判決例】

●豫備行爲ノ意義(第四十三條(判例)ノ部参照)

●豫備行爲ト實行行爲トノ關係(同上)

●刑ノ免除ノ意義(第七十條(判例)ノ部参照)

●條件附殺意ト豫備 苟モ殺害ノ意思ヲ確定シ之カ豫備ヲ爲シタル以上ハ其殺害ノ條件附ナルト否  
トニ論ナク第二百一條ノ犯罪ヲ構成ス(大審院判決明治四二年七六九頁)

●住宅侵入ト殺人ノ豫備 他人ヲ殺害スル目的ヲ以テ兇器ヲ携ヘ其住宅ニ侵入シタル所爲ハ殺人豫  
備罪ニ該當ス(同上明治四四年三二九頁)

●殺人豫備行爲著手後ノ中止 一旦殺人ノ豫備行爲ニ著手シ其幾分ヲ爲シタルトキハ縱令其後ニ至  
リ任意ニ之ヲ中止スルモ第二百一條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス(同上大正五年六八七頁)

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ  
若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮  
ニ處ス

【學說】

●教唆ノ方法(第六十一條(學說)ノ部参照)

●教唆ト實行トノ齟齬(同上)

●幫助行爲ノ意義(第六十二條(學說)ノ部参照)

●自殺罪ト殺人罪トノ區別

一 自殺トハ自殺ノ何タルヤヲ解スヘキ能力者カ自己ノ自由ナル判斷ニ出ツルノ行爲ナルヲ要ス  
故ニ意思能力ナキ者ニ對スルトキ又ハ意思ノ自由ヲ拘束スヘキ程度ノ脅迫ヲ以テシタルトキハ  
普通ノ殺人トナル(牧野博士二二  
版二九八頁)

二 自殺干與罪タルニハ自殺者又ハ被殺者カ自殺ノ何タルヤヲ理解スル能力アルコトヲ要ス且教  
唆ノ場合ニハ自殺ノ意思ヲ決シタルコトヲ要ス(泉二博士  
七四六頁)

三 自殺ノ決意ナキ者ヲシテ自殺ノ決意ヲ爲サシメ以テ自殺ヲ實行セシムルヲ自殺教唆ト謂フ其  
手段ハ權威、迷信ノ濫用、誘惑、激勵、暴行、脅迫及ヒ詭計等其如何ヲ問ハサルモノトス然レ  
トモ意思能力ナキ者ヲ教唆シテ自殺セシメタルトキハ自殺教唆罪ニ非スシテ殺人罪ノ間接正犯  
タリ(大場博士各論上九九頁  
小崎博士各論六四九頁)

●自殺幫助行爲

一 自殺幫助罪ハ自殺實行ニ干與スルコトナク其他ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シ自殺ヲ容易ナラシム



ルヲ謂フ自殺ノ器具ヲ貸與シ毒物ヲ調合シ又ハ自殺ノ方法ヲ教示スルカ如シ(大場博士各論 上一〇三頁)

二 自殺ノ幫助トハ自殺行爲ヲ容易ナラシムルヲ謂フ有形的ト無形的トヲ問ハス然レトモ介錯ナルモノハ自殺ノ幫助ニ非ス囑託又ハ承諾ニ依ル殺人ナリ(岡田ドクトル 四一〇頁)

●囑託及ヒ承諾ニ因ル殺人行爲

一 囑託ニ因ル殺人ハ既ニ自殺ノ意ヲ決シ其實行ヲ囑託シタルニ因リ所爲者カ之ニ基キ手ヲ下シ殺害スルヲ謂フ(大場博士各論 上一〇三頁)

二 囑託トハ被殺者ノ依頼ヲ受クルヲ謂ヒ承諾トハ他人ノ承諾ヲ經ルヲ謂フ囑託又ハ承諾ハ眞意ニ出テ且眞面目ナルヲ要ス(岡田ドクトル 四一〇頁)

三 囑託ハ自ら進ンテ自己ノ殺害ヲ依頼シ要求スルナリ承諾ハ自己ヲ殺害セントスル他人ノ申込ヲ容ルルナリ(泉二博士 七四七頁)

●囑託ニ因ル殺人未遂ト教唆 被害者ノ囑託ニ因ル殺人カ未遂ニ終リタル場合ニ於テモ被害者ハ囑託ニ因ル殺人未遂ノ教唆罪トナルコトナシ(山岡ドクトル法學 新報大正五年六號)

【判決例】

●教唆行爲ニ干與セサル教唆共謀者ノ責任(第六十一條(判例)ノ部參照)

●實行ニ加功シタル教唆者ノ責任(同上)

●教唆者ノ目的(同上)

●教唆ノ方法(同上)

●教唆罪ノ罪數(同上)

●正犯ノ實行者手後ニ於ケル幫助(第六十二條(判例)ノ部參照)

●正犯ノ決意以前ニ於ケル幫助(同上)

●精神的幫助行爲(同上)

●不必要ナル幫助行爲(同上)

●自殺教唆罪ノ既遂未遂 自殺教唆罪ハ被教唆者カ自殺ヲ遂クルニ因リテ完成ス故ニ被教唆者カ自殺セントシテ遂ケサルトキハ其未遂犯ヲ構成ス(大審院判決録明治三十七年二六九頁)

●囑託ノ誤認ト殺人未遂ノ責任 被害者カ戲ニ自己ノ殺害ヲ囑託シ加害者カ之ヲ誤信シテ殺害セントシテ遂ケサリシトキハ第三十八條ニ依リ輕キ第二百二條第二百三條ニ依リ處斷スヘキモノトス(同上明治四三年七六四頁)

●同死ノ合意ト自殺干與罪ノ責任 第二百二條ノ罪ハ自殺者又ハ被殺者タル本人ト犯人トノ間ニ同死スル合意アリタリトスルモ之カ爲メ其成立ヲ妨ケス(同上大正四年四八九頁)

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【學說】



●未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部參照)

●殺人未遂ト傷害ノ責任 殺人行爲ニ著手シ中止シタルトキハ殺人未遂罪カ成立ス故ニ縱令創傷ノ結果ヲ生スルモ別ニ傷害罪ヲ成立セス(法曹會決議法曹記(事明治四三年一號))

【判決例】

●未遂既遂ノ區別(第四十三條(判例)ノ部參照)

●不能犯ト未遂犯トノ區別(同上)

●毒藥ノ少量ト毒殺未遂

一 殺意ヲ以テ他人ニ毒藥ヲ施用シタル以上ハ少量ニシテ人ヲ殺スニ足ラサルモ之カ爲メ未遂犯ノ成立ヲ妨ケス(大審院判決錄明治三〇年六卷五七頁)

二 人ヲ殺ス意思ヲ以テ毒藥ヲ施用シタル以上ハ縱令少量ノ爲メ人ヲ殺スニ至ラサルモ犯人以外ノ介錯ニ外ナラサレハ未遂罪ヲ構成ス(同上明治三七年一四〇三頁)

●毒殺ノ著手 他人ヲ毒殺スル意思ヲ以テ毒藥ヲ交付スルモ未タ毒殺ノ實行ニ著手シタルモノニ非ス現ニ之ヲ服用セシメ又ハ服用スヘキ狀況ニ毒藥ヲ供シタルトキ始メテ實行ノ著手アルモノトス(同上明治三六年一四九頁)

●殺人中止ト殺人豫備トノ關係 殺人行爲ノ實行ニ著手シタル後任意ニ之ヲ中止シタルトキハ第九十九條又ハ第二百條ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルニ止マリ其豫備行爲ニ對シ別ニ第二百一條ノ刑ヲ

科スヘキモノニ非ス(同上大正五年六八七頁)

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

【關係法令】

●徵兵令(明治二十二年法律第一號)

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用キタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

●決闘罰則(明治二十二年法律第三十四號)

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ



第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

●船員法(明治三十一年法律第四十七號)

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上

三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リ處斷ス

【學 說】

◎暴行ノ意義(第二百八條(學)說)ノ部参照

◎傷害罪ノ客體

- 一 傷害罪ノ客體ヲ大別シ(一)人ノ身體(二)人ノ健康ト爲ス身體ノ内部若クハ組織ニ損傷ヲ與フルカ如キハ(一)ニ屬シ内部若クハ外部ノ組織ニ對シテハ損傷ヲ與ヘサルモ其健康狀態ニ對シ傷害ヲ加フルカ如キハ(二)ニ屬ス(大場博士各論 上一九〇頁)
- 二 本罪ノ目的物ハ人ノ身體ナリ身體トハ(一)物理的的身體(二)生理的的身體ナリ物理的的身體ハ即チ物質トシテ人ノ身體ヲ謂フ故ニ頭髮鬚髯モ亦身體ノ一部ナリ生理的的身體トハ生理機能ヲ有スル物體トシテ人ノ身體ヲ謂フ人ノ精神モ亦此範圍ニ屬ス(岡田博士各論 上四一四頁)

- 三 身體トハ生活機能ヲ有スル人類ノ體軀ナリ體軀ハ結締質、上皮組織、血液、淋巴液、神經組織ヨリ成ル毛髮爪甲モ亦其一部ニ屬ス(山岡博士各論 上三四二頁)

◎傷害ノ意思

- 一 傷害罪ハ暴行其他人ノ身體ニ侵害ヲ試ムル意思アルヲ以テ足り必シモ傷害ノ結果ニ付キ豫見アルコトヲ必要トセス(牧野博士二一版二九九頁、大場博士各論 上一四九頁、勝本博士折義上五六頁)
- 二 故意ニ暴行ヲ加ヘタル場合ニ關シ傷害ノ觀念ノ有無ニ拘ハラズ其結果ヲ生シタルト否トニ依リ其適用ヲ異ニスヘキモノト解ス(泉二博士 七五一頁)
- 三 創傷ニ對シ豫見アルコトヲ要ス別ニ本罪ニ付キ何等ノ除外例ナキ以上ハ豫見セサル結果ノ責任ヲ負フコトナシ(岡田博士講義 義二三二頁)
- 四 本罪ノ故意ハ生活アル人ノ身體ノ一部ヲ毀損スルノ結果ヲ豫見シタルコトヲ要ス全然身體ヲ毀損スルノ意思アルトキハ殺人ノ犯意アリト謂ハサルヘカラス(小崎學士各論 六〇〇頁)
- 五 暴行ニ依ル傷害ノ場合ニ於テハ暴行ニ付キ認識ヲ要シ其結果タル傷害ニ付テハ何等認識ヲ要セス之ニ反シ暴行以外ノ方法ニ因ル傷害ハ第二百八條ノ如キ規定ナキカ故ニ原則ニ立戻リ傷害ニ付キ認識ナカルヘナラス(岡田博士各論 上四二二頁)
- 六 傷害罪ハ結果犯ナリ結果犯ニハ過失ヲ必要トセサルモ之カ爲メニ結果犯ニ全然主觀的方面ヲ無視ス可シト云フハ早計ニ失ス予ハ結果犯ノ制度ヲ以テ法律上過失ヲ推定シタルモノナリト爲サントス(牧野博士各論講義 義錄一二六頁)



七 本罪ノ故意ノ内容ハ(一)物體カ他人ノ身體タルコトノ認識(二)舉動ノ認識(三)舉動カ物體ニ對スル關係ヲ認識スルコトヲ包含ス(山岡ドクトル三四五頁)

◎傷害ノ意義

- 一 傷害トハ人ノ身體ノ一部ヲ傷スルカ若クハ人ノ健康ヲ害スルヲ謂フ詳言スレハ或ハ表見的ニ形體ヲ傷スルコトアリ不表見的ニ内部ノ機能ヲ傷スルコトアリ或ハ人ノ健康状態ニ變更ヲ加ヘ病的状態ニ移ラシメ若クハ其病的状態ヲ助長セシムルコトアリ(大場博士各論上一四三頁)
- 二 創傷ナル文字ハ表面ニ表ハレタル開口創傷、詳言セハ切り、剝キ、刺シタル等ニ因テ生シタル表見的ノモノノミヲ意味シ表面ニ現ハレサル創傷即チ骨内又ハ内臓ニ生シタル不表見的ノ損傷ハ之ヲ含マス(勝本博士析義下四九頁)
- 三 創傷トハ人ノ肉體ニ對シ表見的ニ其外部ヲ毀損スルト不表見的ニ内部ノ機能ヲ毀損シテ健康ヲ害スルトヲ問ハス(小崎學士各論五五九頁)
- 四 創傷トハ身體ノ外部又ハ内部ノ状態ヲ不良ニ變更スルノ意義ナリ(泉二博士七五〇頁)
- 五 傷害トハ物質トシテノ人ノ身體ヲ毀損シ又ハ其生理機能ヲ不良ニ變更スルヲ謂フ故ニ肉體機關ノ毀損ハ勿論生理作用ノ不順、病毒ノ感染、精神状態ノ異常等之ニ包含ス其大小輕重ヲ問ハサルカ故ニ神經衰弱、失神、痲痺、擦過傷、腫脹、充血等悉ク傷害ナリ(岡田ドクトル四一六頁)
- 六 傷害ハ人ノ身體ニ對シ生理的ノ毀損ヲ加フルノ義ナリ有形的ノ方法ナルコトヲ要セス無形的方法トハ精神上ニ痛苦ヲ感セシメ延テ身體上ノ毀損ヲ與フルノ謂ナリ(牧野博士二二版二九九頁)

七 傷害ハ身體ノ一部ヲ害シタルト外部ヲ害シタルトヲ問ハス又侵害ハ體軀ノ一部ヲ害スルヲ以テ充分トス(山岡ドクトル三四三頁)

◎眉毛頭髮鬚髯ノ切斷ト傷害

- 一 人ノ身體ノ一部ヲ傷スルノ行爲ハ人ノ健康ヲ害スル行爲ト共ニ傷害罪ノ觀念中ニ包含スルヲ以テ眉毛頭髮及ヒ鬚髯ヲ切斷スル如キハ傷害罪ナリト解ス(大場博士各論上一四五頁) (法學新報明治四三年一號)
- 二 創傷ハ身體ノ安全ヲ侵害スル生理的現象ナレハ黒痣、出血、腐爛等ヲ含ムト雖モ其毛髮指甲等ヲ切害スルモ創傷ニ非ス(江本博士二一三頁)
- 三 毛髮鬚髯ヲ切斷スル如キハ傷害ナリ(岡田ドクトル四一四頁)
- 四 毛髮鬚髯ヲ斷ツハ身體筋肉ヲ以テ圍繞セラレタル部分ニ影響ヲ及ホササルカ故ニ暴行ニ非ス(泉二博士七四九頁)
- 五 傷害トハ有形無形共ニ人ノ身體ニ損害ヲ與フルヲ謂フ損害トハ精神又ハ肉體ニ生活上ノ變更ヲ與フルコト必要ナリ而シテ身體ニ苦痛ヲ感セシムル必要ナキカ故ニ斷髮爪切斷ノ如キモ亦傷害ナリ(勝本博士各論講義二七章)
- 六 毛髮爪甲ヲ切斷シタル如キ場合ハ之ヲ以テ傷害ノ結果ヲ生シタルモノト爲スヲ得ス(山岡ドクトル三四三頁)
- 七 髮ハ身體ノ一部ナレトモ之ヲ切斷スルハ傷害罪ニ非スシテ暴行罪ナリ(法曹會決議法曹記) (明治四二年二號)



【判決例】

◎傷害罪ノ客體ノ錯誤 人ヲ毆打スルノ意思ヲ以テ暴行ヲ加ヘタル以上ハ縱令傷害ノ結果カ犯人ノ觀察セサリシ客體ノ上ニ發生スルモ毆打創傷罪ノ制裁ヲ免レス(大審院判決錄明治四十二年二二七頁)

◎傷害罪ノ故意

- 一 苟モ故意ヲ以テ他人ノ身體ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ傷害ヲ豫期スルト否トニ論ナク其結果ニ付キ責任ヲ負ハサルヘカラス(同上明治四二年四三八頁)
  - 二 傷害罪ノ構成ニハ犯人ニ於テ其原因タルヘキ行爲ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足り其結果ニ對スル故意アルコトヲ要セス(同上明治四三年三九五頁)
  - 三 傷害罪ノ成立ニ必要ナル犯意ハ犯人ニ於テ人ニ對シ暴行即チ不法ノ體力ヲ加フルコトヲ認識スルヲ以テ足り其暴行ニ因リ傷害ノ生スルコトヲ認識スルノ要ナシ(同上明治四三年二一五二頁)
- ◎職務執行妨害ト傷害トノ關係 公務員カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ暴行ヲ加ヘ傷害シタルトキハ一個ノ行爲ニシテ傷害罪ニモ觸ルルモノトス(同上明治四二年九一〇頁、同年一三一六頁)

◎腫張ト傷害

- 一 正當ノ理由ナクシテ他人ノ身體ニ不良ノ變更ヲ生セシメタルトキハ器具ノ如何ニ拘ハラス傷害罪ヲ構成ス而シテ血腫張ハ傷害ノ一種ナリトス(同上明治四二年一七四九頁)
- 二 傷害ハ身體ノ生理的機能ヲ毀損スルノ謂ニシテ身體ニ於ケル生理狀態ヲ不良ニ變更スルコト

ヲ汎稱スルモノニ外ナラサレハ其不良ノ狀態カ身體ノ内部ニ發生スルト其外部ニ發生スルトヲ問ハサルモノトス故ニ腫張ノ如キハ身體ノ内部ニ於ケル筋肉組織ニ不良ノ變更ヲ發生シタルモノナレハ縱令醫學上ノ所謂創傷ニ該當セストスルモ法律上之ヲ創傷ト謂フヲ妨ケス(同上明治四三年五一七頁)

三 傷害罪ハ暴行ニ因リテ他人ノ生活機能ヲ毀損スルノ謂ナレハ暴行ノ方法程度竝ニ兇器ノ有無及ヒ其種類ノ如キハ傷害罪ノ成立上毫モ問フ所ニ非ス故ニ他人ニ對シテ暴行ヲ爲シ其身體ニ腫張ヲ生セシメタル以上ハ同罪ノ責ヲ免レス(同上明治四四年三三七頁)

◎正當ノ逮捕ト傷害トノ關係 被告カ權利ノ實行トシテ他人ヲ逮捕引致セントスルモ被告カ暴行ノ結果其者ヲ傷害シタルトキハ之ヲ權利ノ實行ト視ルヘカラサルカ故ニ第二百四條ノ傷害罪ヲ構成スルモノトス(同上明治四三年八二〇頁)

◎傷害ノ意義 傷害トハ人ノ肉體ニ於ケル生活機能ヲ毀損スルヲ謂ヒ其結果タル傷害ノ程度ニ付テハ法律上何等ノ制限アルコトナシ故ニ傷害ノ大小輕重ハ固ヨリ其一時的ナルト永久ナルトハ傷害罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ(同上明治四三年一八〇七頁)

◎毛髮鬚髯爪端ノ切斷ト傷害

一 傷害罪ハ他人ノ身體ニ對スル暴行ニ因リ其生活機能ノ毀損即チ健康狀態ノ不良變更ヲ惹起スルニ因リ成立スルモノニシテ毛髮鬚髯ノ如キハ毛根ヲ身體ノ内部ニ寄託シ其外表ニ叢生シ以テ其保護裝飾ノ作用ヲ爲シ身體一部分トシテ法ノ保護スルモノナリト雖モ不法ニ之ヲ截斷シ若クハ剃去スル行爲ハ直ニ健康狀態ノ不良變更ヲ來タシタルモノト謂フヲ得ス故ニ第二百八條ノ暴行



罪ヲ以テ處斷スルヲ相當トス(大審院判決錄明治四五年八九八頁)

二 毛髮鬚髯爪端ノ如キ之ヲ切斷剪除スルモ生活機能ニ何等ノ障礙ヲ來ササルカ故ニ傷害ニ非サルモ處女膜ノ裂傷ハ傷害ナリ(同上大正三年一四〇九頁)

◎間接暴行ニ因ル傷害ノ責任 小兒ヲ脊負ヒタル者ヲ突飛ハス行爲ハ其小兒ニ對シテモ又暴行ナリトス從テ之カ爲メ小兒ニ負傷セシメタルトキハ傷害罪ノ責ヲ免レス(同上大正三年二一六七頁)

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

### 【學說】

◎傷害致死ト殺人及ヒ過失殺トノ區別

- 一 傷害致死ハ結果犯ナリ即チ其死ノ結果ニ付キ豫見ナカリシ場合ニ限ル若シ豫見アラハ殺人罪ニ入ル其死ナル結果ノ發生ニ對シテハ過失ヲ要セストスルヲ通説トス(牧野博士一八版三四二頁)
- 二 人ノ身體ノ一部ヲ傷シ又ハ人ノ健康ヲ害スルニ因リ人ヲ死ニ致スノ所爲ヲ傷害致死ト謂フ此故意ハ死亡ナル結果ヲ豫見スルコトナリ單ニ暴行ヲ加フル意思又ハ死ノ結果ヲ生スルコトナク

傷害ヲ加フルカ又ハ暴行ヲ加フルノ意思ナリ(大場博士各論上二三〇頁)

三 暴行ヲ加フル意思アルコトヲ要スル點ニ於テ過失殺ト異リ致死ノ故意ナキコトヲ要スル點ニ於テ殺人ト異ル(泉二博士七五一頁)

### 【判決例】

◎雇人ノ凍死ト傷害致死 雇人ヲ懲戒スル爲メ裸體ト爲シ屋外ニ立タシメタル上凍死セシメタル所爲ハ毆打致死罪ヲ構成ス(大審院判決錄明治三二年一〇卷四二頁)

◎傷害ニ基ク衰弱致死ノ責任 死亡ノ結果カ直接ニ身體ノ衰弱ヨリ生シタリトスルモ苟モ其衰弱カ傷害ニ基因シタル以上ハ傷害ハ死亡ニ原因ヲ與ヘタルモノト謂フヘク從テ傷害ヲ以テ直ニ死亡ノ原因ト判斷スルモ失當ニ非ス(同上明治四三年一五九〇頁)

◎尊屬致死罪ノ法條適用 第二百五條第二項ハ犯罪事實ヲ承ケタル法文ナルヲ以テ第二項ヲ適用スルニ於テハ第一項ヲ適用スルノ要ナシ(同上大正元年一四六一頁)

◎傷害ト死期遲速ノ關係 傷害致死罪ヲ斷スルニハ犯人カ傷害シ被害者ノ死期ヲ早カラシメタル事實ヲ確定スルヲ以テ足り早メラレタル死期ノ遲速ノ程度ノ如キハ刑ノ量定ニ影響ヲ及ホスヘキ事情ニ過キス(同上大正三年三頁)

◎傷害ニ基ク膿毒症ト致死ノ責任 傷害ノ結果被害者ニ膿毒症ヲ生セシメ之カ爲メ死亡シタルトキト雖モ傷害致死ノ罪責ヲ免レス(同上大正三年一五八二頁)



第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

【學 說】

◎現場助勢ノ意義

- 一 現場助勢ハ單純ナル聲援ナリ自ラ暴行ヲ爲シタルトキハ共犯例又ハ第二百七條ノ適用ヲ受クヘク助勢以外ノ幫助ハ從犯タルヘシ(泉二博士 七五二頁)
- 二 助勢トハ傷害罪及ヒ傷害致死罪ノ現ニ犯サルルニ當リ實行行爲若クハ豫備ノ所爲ニ加ハラスシテ其他ノ行爲ヲ以テ之ヲ助勢スルヲ謂フ實行行爲ヲ以テ之ニ干與シタルトキハ正犯ナリ豫備ノ所爲ヲ以テ幫助シ容易ナラシメタルトキハ從犯ナリ助勢トハ斯ル行爲ヲ除キタル他ノ行爲ヲ以テ右ノ二罪ノ犯サルルニ當リ其勢ヲ助クルモノナリ(大場博士各論 上二三三頁)
- 三 助勢者トハ傷害罪又ハ傷害致死罪アルニ當リ其現場ニ於テ行爲者ニ勢援ヲ與フルモノヲ謂フ(岡田ドクトル 四二〇頁)
- 四 此規定ハ助勢者即チ所謂喧嘩ノ彌次馬ニ關スル特別規定ニシテ其以外ノ者ニ對シテハ共犯ノ一般ノ理論ニ從テ處斷ス(牧野博士各論講義 卷一三二頁)

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

【學 說】

◎非共同傷害ト特別共犯

- 一 共同者ニ在リテハ傷ヲ爲スノ輕重明ニ又傷ヲ生セシメタル者明ナル場合ト雖モ尙第六十條以下ノ共犯ニ關スル規定ニ依ルハ勿論ナリ(牧野博士二版三〇一頁 大場博士各論上一七四頁)
- 二 法文ニ共同者ニ非スト雖モト言フハ意思ノ共通アリテ共同者タルヘキ場合ニハ總則ノ共犯例ニ依ルヘキコト勿論ナルニ因ル(泉二博士 七五三頁)
- 三 第二百七條ハ共犯規定ニ非スシテ彌次馬ヲ罪スルモノナリ(勝本博士各論 講義二七章)
- 四 第二百七條ハ二人以上カ共同ノ認識ナクシテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ヲ規定シタルモノナリ(山岡ドクハ 頁トル三四)

【判決例】

◎非共同傷害ト特別共犯



- 一 一個ノ創傷ト雖モ二人以上共謀シテ負傷セシメ共犯人中何人ノ行爲ナルヤヲ知ル能ハサルトキハ即チ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノトス(大審院判決錄明治四一年七二三頁)
  - 二 第二百七條ハ二人以上共謀シテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニハ其適用ナキモノトス(同上四三年一八四四頁)
  - 三 第二百七條ハ共同者ニ非スシテ二人以上暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ノ規定ナルカ故ニ二人以上共同シテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ在リテハ同條ヲ適用スルノ要ナキモノトス(同上明治四四年二四九頁)
  - 四 第二百七條ニ二人以上ノ者カ共同的行爲ニ非スシテ各別ニ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シ而カモ傷害ノ輕重又ハ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ對スル規定ニ屬シ共同的犯行ノ場合ニハ苟モ暴行ヲ爲シタル以上ハ傷害ヲ生セシメタルト否ト又傷害ノ輕重ヲ問ハス總テ普通ノ共犯例ニ依ルヘキモノニシテ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス(同上明治四四年三四八頁、大正二年一四二頁)
  - 五 數名カ一個ノ決闘行爲ヲ共謀實行シ相手方數名ニ傷害ノ結果ヲ生セシメタルトキハ傷害ヲ生セシメサル者ト雖モ第六十條ニ依リ其ノ責ヲ負フヘク第二百七條ヲ適用スヘキニ非サルナリ(同上大正二年二六六頁)
  - 六 第二百七條ハ暴行者間ニ意思ノ連絡ヲ缺ク場合ニ關スル者ニシテ其意思ノ連絡アルトキハ當然第六十條ヲ適用スヘキモノトス(同上大正三年一五一六頁)
- 第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ

懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

【學 說】

●傷害ノ意義(第二百四條(學說)ノ部參照)

●暴行ノ意義

- 一 暴行トハ有形的不法ノ攻撃ヲ謂フ人ノ反抗ヲ抑壓スル程度ノ攻撃ハ勿論單ニ人ヲ侮辱スルカ如キ狀態ニ於テ發現スルモノヲ含ム故ニ例ヘハ髮ヲ引クカ如キ行爲又ハ水ヲ掛クルカ如キ衣服ヲ奪去スルカ如キ行爲モ暴行ナリ(岡田ドクトル四二六頁)
- 二 暴行ハ廣義ニシテ身體ノ安全ヲ害スル一切ノ慘行ヲ謂フ故ニ身體ノ安全ニ影響ナキ脅迫恐喝ノ如キ無形的攻撃ハ此ニ屬ス(山岡ドクトル三三七頁)
- 三 暴行トハ人ノ身體ニ對スル不法ノ處置ナリ別言スレハ人ノ身體ニ對スル不法ナル攻撃ナリ一ハ積極的行爲ニシテ一ハ消極的行爲即チ不行爲ナリ(大場博士各論上一四一頁)
- 四 精神ノミニ及ホス不法ナル犯罪(脅迫其他ノ威嚇)ハ之ヲ無形ノ暴行ト稱スルモ法律ノ意味ニ於ケル暴行ニ非ス之ニ反シテ物質的ノ攻撃ナル以上ハ暴行タルニ別段ノ制限存セス(泉二博士七四九頁)
- 五 暴行ハ有刑ノ慘行ニ限ル單ニ冷遇又ハ侮辱ノ如キ無形的精神上ノ手段ヲ含マス(岡田博士講義二二三頁)



【判決例】

◎暴行ノ方法(第九十五條(判例)ノ部参照)

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

【學說】

◎過失ノ意義(第三十八條(學說)ノ部参照)

◎注意ノ程度

- 一 注意ノ義務ハ原則トシテ客觀的ナルヲ要シ善良ナル管理者タルノ注意ヲ爲スニ在ルモ場合ニ依リテハ主觀的ノ注意ヲ以テ足ルコトアリ然レトモ刑法ニ於テハ客觀說ヲ相當トス(牧野博士二版九九頁)
- 二 過失トハ豫見セザリシ犯罪ノ要件ニ對スル事項ニ關シ行爲者ニ屬スル罪責ヲ謂フ而シテ法則又ハ慣習ニ依リ定メラレタル一般ノ注意ヲ怠リタル場合ニ非サレハ刑事上ノ責任ナシ行爲者ノ

注意力ノ深淺ハ之ヲ問フノ要ナシ(大場博士各論一三九頁)

- 三 過失ハ客觀的ニ要求セラルル注意ニシテ而カモ行爲者ニ於テ主觀的ニ注意能力アルニ拘ハラス意思ノ實行ニ關聯スル結果ノ豫見セサルヲ謂フ(小嶋學士各論六四二頁)
- 四 過失ノ有無ニ付キ本人ノ主觀的方面ヲ離レテ刑事上ノ責任ヲ定メントスルハ根本的誤謬ナリ刑法學上ニ於テハ本人ノ主觀的方面即チ智慮經驗ヲ標準トシテ本問ヲ決スヘシ(泉二博士二六四頁)
- 五 注意不注意ノ問題ハ一方ニ於テ法例又ハ慣習ニ照査シテ決定スヘキモノタルト同時ニ他ノ一方ニ於テ所爲者其人ノ能力如何ニ關スル個人的問題ナリ(勝本博士析義下三三三頁)
- 六 凡ソ刑事責任ハ個人的ノモノナルカ故ニ他人ノ之ヲ爲シ得ルト否トヲ以テ本人ニ不注意アリ從テ責任アリト爲スヲ得ス故ニ主觀說ニ依ルノ外ナシ(岡田博士講義一三九頁)

【判決例】

◎過失傷害ノ因果關係

- 一 過失傷害罪ハ其傷害ト過失トノ間ニ因果ノ關係存スル以上ハ常ニ成立スルモノニシテ其過失カ傷害ノ直接原因タルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ(大審院判決錄明治四三年二九八頁)
- 二 過失傷害犯人ノ過失カ其傷害ノ唯一ノ原因ノ一部分ヲ成セル以上ハ過失傷害罪ヲ成立ス(同上四年三九九頁)

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス



【學說】

- ◎過失ノ意義(第三十八條(學說)ノ部參照)
- ◎殺人行爲(第九十九條(學說)ノ部參照)
- ◎注意ノ程度(第九十九條(學說)ノ部參照)
- ◎競合過失ニ因ル致死ノ責任 數人ノ競合過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタルトキハ過失致死罪ヲ構成ス(原檢事法學志林(大正四年五號))

【判決例】

- ◎過失傷害ノ因果關係(第二百九條(判決)ノ部參照)
- ◎過失致死ノ因果關係
  - 一 過失致死罪ハ自己ノ過失ニ因リ他人ニ死ノ結果ヲ與フルニ因リ成立シ苟モ自己ノ過失ト他人ノ死亡トノ間ニ因果關係ノ存在スル以上ハ其直接タルト否トハ何等ノ影響ナシ(大審院判決錄明(治四三年一八頁))
  - 二 自己ノ過失カ他人ノ死亡ナル結果ニ對シテ一ノ條件ヲ與ヘタル以上ハ其過失カ他人ノ死亡ナル結果ニ對シテ唯一ノ原因ヲ與ヘタルト將タ他人ノ過失カ其中間ニ介在シ之ト相俟テ共同的原因ヲ與ヘタルトヲ問ハス等シク過失致死ノ責任ヲ負ハサルヘカラス(同上明治四三年一五八四頁)
- ◎第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三

年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

【關係法令】

- ◎船員法(明治三十二年法律第四十七條) 第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
- ◎水先法(明治三十二年法律第六十三號) 第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス 水先人ニ非サル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

【學說】

◎業務ノ意義

- 一 業務トハ官職、職業、營業等ニシテ自ラ選擇シタル吾人ノ生活ニ於ケル他位ヲ謂ヒ業務上ノ行爲トハ業務ノ執行ニ直接且主要ナル行爲ノミヲ指稱シ業務執行ニ間接ニシテ且從屬スル行爲ヲ包含セス(大場博士各論(上一四六頁))
- 二 業務トハ公務タルト將タ職業タルト營業タルトヲ問ハス苟モ一定ノ業務タル以上總テ之ヲ包



括ス且ツ其業務ハ自ら選擇シタルモノタルヲ要ス從テ後見人後見監督人ノ如キ地位ハ此ニ屬セ  
ス乍併官職ノ如キハ屢々自選的タラサル場合アルヘシ仍ホ之ヲ以テ任意選擇ノモノト認ムヘキ  
ナリ(山岡ドクト  
ル三五二頁)

◎業務上注意ノ程度

- 一 業務上必要ナル注意トハ人ノ生命身體ニ對シ特ニ危險アルノ業務通常高度ノ注意ヲ必要トス  
ルノ業務ニ關スル注意ナリ(牧野博士二二  
版三〇二頁)
- 二 各人各個ノ注意ヲ以テ充分トセス業務ノ性質上定マルヘキ一般の注意ヲ必要トス該業務ニ從  
事スル者ハ正ニ爲ササル可カラサル注意ヲ業務ニ必要ナル注意トス(山岡ドクト  
ル三五四頁)
- 三 業務上必要ナル義務ハ法令若クハ慣習ニ依リ定マルモノトス(大場博士各論  
上一三三頁)
- 四 注意ノ程度ハ業務ノ性質ニ照シ客觀的ニ判斷セサルヘカラス一般ノ場合ニ於ケル過失ノ標準  
ト異ル(泉二博士  
七五五頁)

◎醫師ノ過失責任

- 一 醫師ノ診察カ誤謬ニ陷ルコトハ豫考シ得ルモノニ非サレハ不注意ヲ以テ論スヘカラス故ニ過  
失罪ヲ構成セス(藤根常吉氏法律新聞  
明治三八年二五八號)
  - 二 醫師ハ業務上ニ於ケル過失ニ付キ責任ヲ有ス(山岡ドクトル法學  
新報大正二年六號)
- ◎電車車掌ノ過失責任 電車ノ車掌カ電氣鐵道取締規則違反タル過失ニ依リ傷害ノ結果ヲ生シタル  
トキハ第二百一十一條ノ適用アルニ過キス(牧野博士法學志  
林大正三年九號)

【判決例】

- ◎過失傷害ノ因果關係(第二百九條(判  
決例)ノ部參照)
- ◎過失致死ノ因果關係(第二百十條(判  
決例)ノ部參照)
- ◎電車運轉手ノ注意義務
  - 一 進行中ノ電車ノ前路ニ於テ線路ヲ橫斷セントスル場合ニハ其電車ノ通過ヲ待テ其線路ニ入ル  
ヘク運轉手ハ其電車ヲ停止シ通行人ノ通過ヲ待テ電車ノ進行ヲ繼續スル義務ナシ(大審院判決錄大  
正三年二八〇頁)
  - 二 運轉手カ電車ヲ操縦スルニ當リテハ常ニ其前方ヲ警戒シ危害ヲ豫防スヘキ注意ヲ爲スコトヲ  
要スルハ業務上ノ義務ナリ故ニ通行人カ電車ノ進行ニ介意セスシテ線路ヲ橫斷スルノ危險アリ  
ト信スヘキ理由アルトキハ通行人ニ過失アルト否トニ拘ハラヌ衝突ヲ避クルニ必要ナル注意ヲ  
爲スノ責アリ(同上大正三  
年二八一頁)
  - 三 電氣鐵道取締規則中運轉手ノ業務ニ關シ特別ノ規定アルモノトスルモ之カ爲メ業務上必要ナ  
ル注意ヲ怠リ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ刑法上ノ責任ニ消長ヲ來タスコトナシ(同上大正三  
年五七九頁)
  - 四 行政上ノ取締規則ハ普通ニ危險發生ノ虞アル行爲ヲ取締マルニ過キスシテ此外業務執行者ヲ  
シテ法律上若クハ慣習上必要ナル一般ノ注意義務ヲ嚴守セシムヘキコトハ勿論ニシテ特ニ明文  
ヲ要セス故ニ行政上ノ取締規則ノ命スル注意義務ノミヲ履行スルモ業務上一切ノ責任ヲ盡シタ  
リト謂フヘカラス(同上大正三  
年六二九頁)



- 五 運轉手カ電車ノ前方ニ於テ線路ヲ橫斷セントスル通行人ヲ認メタル場合ト雖モ警鈴其他危險注意ヲ與フル方法ヲ執リテ前進スルコトヲ妨ケス故ニ萬一通行人カ危險ヲ冒シ線路ヲ橫斷スルニ因リ電車ニ觸接シ傷害ヲ受クルモ之ヲ運轉手ノ過失ニ歸スルヲ得ス(大審院判決錄大正三年一〇一四頁)
- ◎船長ノ注意義務 甲乙二船カ接近スルノ際甲船ニ過失アルモ乙船ノ注意ニ因リ衝突ヲ避ケ得ヘカリシニ其注意ヲ缺キタル時ハ乙船ノ操縦者ハ自己ノ過失ノ結果ニ對シ罪責ヲ免レス(同上大正三年)
- ◎業務ノ意義 第二百十一條ニ所謂業務トハ常ニ必シモ法令ニ基キタル職務ノミヲ指示スルニ非スシテ契約其他ノ慣例等ニ從ヒ或業務ニ從事スルモノヲ包含ス(同上大正四年四五頁)

### 第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

#### 【學 說】

##### ◎墮胎ノ意義

- 一 墮胎罪トハ違法且有責ニ胎兒ヲ母體內ニ於テ殺害シ又ハ早産ヲ爲サシムルヲ謂ヒ胎兒ノ生命ヲ害シ又ハ危險ヲ及ホスヲ以テ要件トス(大場博士各論上一二頁 岡田博士各論上四三〇頁)

- 二 墮胎トハ自然分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ排出スル行爲ナリ胎内ニテ殺シタル上排出セシムルト活キタル儘排出シテ死亡スルト又排出後生活能力ヲ有スルトヲ問ハス(泉二博士七五六頁)
  - 三 墮胎行爲ヲ解スルニ二說アリ一ハ自然ノ分娩期ニ先チ人工ヲ以テ胎兒又ハ胚胎ヲ母體外ニ驅逐スル總テノ場合ヲ謂フトシ他ハ母體外ニ驅逐スル方法ヲ以テ胎兒又ハ胚胎ノ死ヲ生セシムルヲ謂フトス然レトモ其雙方ノ場合ヲ包含スルモノト解セサルヘカラス(岡田博士講義二五八頁)
  - 四 墮胎行爲ニ因テ母體外ニ分離セシメラレタル生兒カ幸ニシテ其生ヲ保ツ場合ト雖モ墮胎罪ヲ構成ス(勝本博士析義下一七四頁)
  - 五 墮胎行爲ハ胚胎若クハ胎兒ヲ殺スニ依リ成立シ必シモ母體中ヨリ分離スルヲ要セスト雖モ胚胎ノ場合ハ概ネ之ヲ墮胎スルヲ通常トス(江木博士二七七頁)
  - 六 墮胎ノ行爲ハ自然ノ出生時期ニ先チ胎兒ヲ母體ヨリ分離スルニ因リ胎兒ヲ殺ス場合及ヒ母ノ胎内ニ於テ胎兒ヲ殺ス場合ノ二アリ何レモ胎兒ノ死亡時期ヲ以テ犯罪ノ既遂トス(小崎學七各論六六九頁)
- ◎墮胎ノ既遂未遂
- 一 胎兒カ母體內ニ於テ死亡スルトキハ其時ヲ以テ既遂トシ又生命ヲ保持スルモ母體ト分離スルトキハ其時ヲ以テ既遂トス(牧野博士二一三頁 版三〇三頁)
  - 二 胎兒カ母體外ニ排出セラレタルトキヲ既遂トス從テ胎内ニ於テ之ヲ殺スモ未タ母體外ニ流出セサル限りハ既遂罪ヲ構成セス但實際上胎兒殺害ノ行爲アリタルトキハ間モナク死胎ハ母體ト分離スルヲ常トス(山岡博士三六〇頁)



●妊婦ノ自殺ト墮胎罪

- 一 墮胎罪ノ成立ニハ故意ヲ要ス故ニ妊婦カ其懷胎ヲ自覺シ且自殺行為ノ瞬間ニ於テ胎兒ノ死亡ノ事モ亦念頭ニ在リシトキハ自殺ノ實行ト共ニ墮胎ノ故意アルモノトス(大場博士各論 上一二〇頁)
- 二 胎兒ノ生命ハ母體ノ生命ト相關聯シ獨立シテ存在シ得ルモノニ非サルカ故ニ懷胎ノ婦女カ自殺未遂ノ結果胎兒ヲ殺スモ本罪ヲ構成セス(小崎學士各論 論六七〇頁)

【判決例】

◎墮胎ノ意義

- 一 墮胎トハ藥物其他ノ方法ヲ以テ胎内ニ在ル胎兒ヲ殺シ之ヲ胎外ニ排出セシムルノ謂ニシテ其分娩ニ至リシト否トハ之ヲ問ハサルモノトス從テ胎兒カ産門ヨリ其顛頂部ヲ露ハシ將ニ出產セントスル際兩手ヲ産門ニ挿入シ胎兒ノ鼻口ヲ壓迫シテ死ニ致シ其頭部ヲ擡ミ引出シタル所爲ハ墮胎罪ナリトス(大審院判決錄明治三六年一三九頁)
  - 二 墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ胎兒ヲ分娩セシムルニ因リ成立シ其胎兒カ死亡スルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホサス(同上明治四二年一四二〇頁)
  - 三 墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシムルニ因リテ成立シ其結果トシテ胎兒カ死亡スルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ(同上明治四四年二一八四頁)
- ◎墮胎ノ手段方法ノ認定 墮胎罪ノ正犯カ他人ノ手術ヲ受ケテ墮胎シタルトキ具體的ニ其手術方法ヲ認定スルコトヲ要ス其手術方法明カナラサレハ墮胎カ其手術ニ原因スルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサレハナリ(同上大正三年六五一頁)

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

【學說】

- 殺人行爲(第九十九條)  
(學說ノ部參照)
- 傷害ノ意義(同上)
- 墮胎ノ意義(第二百十二條)  
(學說ノ部參照)
- 墮胎ノ既遂未遂(同上)
- 妊婦ノ自殺ト墮胎罪(同上)
- 他人ニ墮胎セシメタル婦女ノ責任
  - 一 他人ヲ教唆シ又ハ幫助シテ自己ノ胎兒ヲ墮胎セシメタルトキハ墮胎罪ノ教唆又ハ從犯トシテ論セサルヘカラス(小崎學士各論 論六七頁)
  - 二 法律ハ直接ニ自ら手ヲ下スト他人ニ依頼シテ手段ヲ施ストヲ區別セサルモ後ノ場合ニ於テハ



婦女ハ前條ニ依リ其他人ハ本條ニ依リ處分スヘキモノトス(泉二博士 七五八頁)

三 墮胎ハ妊婦自ラ墮胎ノ方法ヲ實行スルト他人ニ囑託シテ墮胎ヲ爲サシムルトハ之ヲ問ハス妊婦ノ墮胎ト妊婦ノ囑託ニ因ル他人ノ墮胎トハ犯人ノ身分ニ依ル刑ノ輕重アルモノト解ス然レトモ妊婦カ實行行爲ニ干與セス單ニ他人ノ爲ス墮胎行爲ヲ忍容シタルニ止マルトキハ墮胎罪ノ從犯ナリ(大場博士各論上九〇頁)

四 婦女ノ囑託又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル場合ニ其囑託又ハ承諾ヲ爲シタル婦女ハ第二百十二條ニ依リ處斷スヘシ(勝本博士各論 講義二九章)

五 懷胎ノ婦女他人ニ承諾ヲ與ヘテ自己ヲ墮胎セシメタルトキハ自ラ墮胎シタル場合ト同シク第二百十二條ニ依リ處斷スヘキモノトス(草野學士法學志 林大正五年三號)

●墮胎死傷罪ト結果ノ豫見 墮胎死傷罪ハ死傷ノ結果ニ付キ豫見ナキ場合タルコトヲ要ス若シ其豫見アリタルトキハ殺人又ハ傷害罪ト墮胎罪トノ想像上ノ數罪トナルヘシ(牧野博士二二 版二〇五頁)

【判決例】

●墮胎ノ意義(第二百十二條「判例」ノ部參照)

●墮胎ノ手段方法ノ認定(同上)

●墮胎未遂ト墮胎致死罪ノ成立 墮胎致死罪ハ墮胎ノ既遂未遂ヲ問ハス墮胎ノ手段ニ著手シ爲メニ婦女ヲ死ニ致シタル場合ニ成立ス(大審院判決錄明治三〇年九卷九八頁)

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【學說】

●殺人行爲(第九十九條「學說」ノ部參照)

●傷害ノ意義(第二百四條「學說」ノ部參照)

●墮胎ノ意義(「學說」ノ部參照)

●墮胎ノ既遂未遂(同上)

●他人ニ墮胎セシメタル婦女ノ責任(第二百十三條「學說」ノ部參照)

●墮胎死傷罪ト結果ノ豫見(同上)

【判決例】

●墮胎ノ意義(第二百十二條「判例」ノ部參照)

●墮胎ノ手段方法ノ認定(同上)

●墮胎未遂ト墮胎致死罪ノ成立(同上)



●墮胎ト生理學上ノ作用 第二百十四條前段ニ規定セル墮胎罪ノ事實ヲ判示スルニ當リテハ被告カ同條列記ノ身分ヲ有シ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ現實ノ墮胎ニ一ノ原因ヲ與ヘタル具體的事實ヲ指摘スルヲ以テ足レトシ其原因カ生理學上如何ナル作用ニ依リ墮胎ノ結果ヲ生スルニ至リタルヤノ理由ヲ說示スルノ要ナシ(大審院判決錄明治四三年七一六頁)

第二百五十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【學說】

- 未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部参照)
- 墮胎ノ意義(第二百十二條(學說)ノ部参照)
- 墮胎ノ既遂未遂(同上)

【判決例】

- 墮胎ノ意義(第二百十二條(判決例)ノ部参照)
- 墮胎ノ手段方法ノ認定(同上)

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【學說】

- 殺人行爲(第九十九條(學說)ノ部参照)
- 墮胎死傷罪ト結果トノ豫見(第二百十三條(學說)ノ部参照)

【判決例】

- 墮胎未遂ト墮胎致死罪ノ成立(第二百十二條(判決例)ノ部参照)

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

【學說】

- 保護ノ責任ナキ者ノ遺棄



- 一 何人ト雖モ扶助スル法律上ノ義務ナキ者ハ勿論事實上何等ノ義務ヲ有セサル者ト雖モ此罪ノ主體タルコトヲ得例ヘハ未聞未見ノ人カ偶、道路ニ遊戯シ居ル幼兒ヲ欺瞞シ寥聞無人ノ山野ニ伴ヒ之ヲ遺棄スルカ如キ場合ハ本罪ヲ構成ス(大場博士各論 上一六三頁)
- 二 法令又ハ契約ニ基ク保護ノ義務ナキ者ノ遺棄ニ關シテハ二箇ノ區別アリ一ハ同居同行等ノ場合ノ如ク一定ノ場所ニ共同シテ居住シ又ハ現在スル場合ニ於テ一人カ他人ヲ遺棄スルナリ二ハ詐欺脅迫其他ノ手段ヲ以テ保護者ト被保護者トヲ隔離スル場合ナリ保母ノ不注意ヲ利用シテ其監督ニ依ル小兒ヲ他ノ場所ニ誘ヒ又ハ保母ヲ他ノ場所ニ誘フカ如キ場合ナリ(牧野博士二二 版三〇七頁)
- 三 遺棄ハ遺棄者ト被遺棄者トノ間ニ於ケル特別ノ扶助可能状態ヲ場所ノ隔離ニ因テ變更スルヲ條件トスルカ故ニ同居同行等ノ關係アリタル場合ニ非サレハ本罪ノ成立ヲ認ムルコトヲ得ス(泉二博士 七六一頁)
- 四 何人ト雖モ遺棄罪ノ主體タルコトヲ得ヘク必シモ幼者又ハ老疾者ヲ保養スル義務アル者ニ限ラス他人ノ保養スル幼者ヲ掠奪シテ遺棄スルコトヲ得ヘシ(江木博士 三〇二頁)

◎扶助ヲ要ス可キ者ノ意義

- 一 扶助ヲ要スヘキモノトハ獨立シテ生活ヲ爲シ能ハサル者及ヒ他ノ力ヲ藉ルニ非サレハ起居動靜ヲ爲ス能ハサル者ヲ謂フ(岡田博士 四四〇頁)
- 二 扶助ヲ要ス可キ者トハ本人自身又ハ第三者ノ保護ニ依リ其生活ヲ維持スルコト能ハサルノ處アル状態ニ在ル者ヲ謂フ(泉二博士 七五九頁)

- 三 扶助ヲ要スヘキ者トハ身體精神ノ不完全ナルカ爲メニ生活ヲ維持スルニ必要ナル日常ノ動作ヲ爲ス能ハサルノ謂ナリ故ニ老者ト雖モ單ニ貧窮ニシテ生活ニ困難スト謂フカ如キハ本條ニ入ラス(牧野博士二二 版三〇六頁)
- 四 老幼不具又ハ疾病ノ爲メニ扶助ヲ要スヘキモノタルコトヲ要ス扶助ヲ要スヘキモノトハ獨立シテ生存スルコト能ハサル者ヲ謂フ(大場博士各論 上一六三頁)
- 五 扶助ヲ要スヘキ者トハ生活ヲ維持スル能ハサルヘキ状態ニ在ルヲ謂フ換言スレハ自己ヲ救助スル能力ナキ場合ヲ意味ス(山岡博士 三六二頁)

◎遺棄ノ意義

- 一 遺棄ハ場所的ノ隔離ナリ從來ノ生活上ノ場所ヨリ他ノ場所ニ被害者ヲ移スニ因リ之ヲ隔離スル場合及ヒ被害者ヲ從來ノ場所ニ留メ犯人カ其場所ヲ去ルニ因テ隔離スル場合共ニ遺棄タリ必シモ被害者カ第三者ノ保護ヲ受クルノ希望ナキ状態ニ置カレタルコトヲ要セスト雖モ被害者ノ生命身體ニ對シ何等ノ危険状態ヲ生セサルトキハ遺棄罪ノ觀念ヲ具備セス(泉二博士 七六〇頁)
- 二 假令現在ノ狀況ヲ變スルモ被移轉者カ第三者ニ依テ救助セラレヘシトノ行爲者ノ希望カ保證セラレ得ル場合ハ遺棄ト云フヲ得ス然レトモ單ニ第三者ノ救助ヲ得ルナラントノ希望アルニ止マルノミニテハ遺棄タルヲ妨ケス(小崎學士各論 六七九頁)
- 三 遺棄トハ扶助ヲ要スヘキ者ヲ其從來保護セラレ居リタル場所ヨリ他ノ場所ニ移スノ行爲ヲ謂フ單ニ扶助ヲ要スル者ヲ差置キ立チ去ル行爲即チ抛置ハ遺棄ニ非ス然レトモ何等生命ニ危険ヲ



- 生スルコトナキ場合ニ於テハ此限ニ在ラス(大場博士各論 上一六八頁)
- 四 遺棄トハ被害者ノ傍ヲ離レテ保護若クハ養育ヲ脱スルヲ謂フ(岡田博士各論 講義五八四頁)
- 五 遺棄罪ハ被保護者ヲ他ノ場所ニ運搬スル場合ノミナラス被保護者ヲ置キ去リニスル場合ニシテ他ヨリ扶助ヲ受クルコト確實ナル場合ニ於テモ尙成立ス(牧野博士二版三〇六頁、勝本博士各論 講義三〇三章、岡田博士各論四四三頁)
- 六 遺棄トハ場所的離隔ニテ或ハ被害者ヲ一定ノ場所ヨリ他ノ場所ニ轉置シ又ハ被害者ヲ一定ノ場所ニ置キタル儘行爲者其場ヲ去ルニ依リ成立ス而シテ生命若クハ身體ニ危險ヲ生スル虞アル状態ノ發生ヲ必要トス(山岡博士各論 三六三頁)

【判決例】

- ◎病者ノ遺棄 疾病ノ爲メ他人ノ扶養ヲ受クルニ非サレハ生存スルコト能ハサル者カ同一住所ニ起臥スル以上ハ縦シヤ法令若クハ契約ニ基ク扶養ノ義務ナシトスルモ之ヲ扶養セスシテ遺棄スルカ如キハ第二百七十七條ニ該當ス(大審院判決録明治四五年一〇八六頁)
- ◎殺意ニ依ル遺棄 第二百十八條第二百十九條ハ殺意ナキ場合ニ限ルモノニシテ殺意ニ基キ生存ニ必要ナル食物ヲ給與セサル如キハ第九十九條ノ殺人罪ニ該當ス(同上大正四年九三頁)
- ◎遺棄ト生命身體ノ危險 第二百十七條ノ罪ハ扶養ヲ要スヘキ老者、幼者、不具者、又ハ病者ヲ遺棄スルニ因リ直ニ成立シ其行爲ノ結果現實ニ生命身體ニ對スル危險ノ發生シタルト否トニ關係ナシ(同上大正四年六七〇頁)

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【關係法令】

- ◎民法(明治二十九年法律第八十九號 明治三十一年法律第九號)
  - 第六百九十七條(抜抄) 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス
  - 第七百條(抜抄) 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス
  - 第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シ扶養ノ義務ヲ負フ
  - 第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ
  - 第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ
  - 第九百二十一條(抜抄) 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス



第九百二十二條(抜抄) 禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲカムルコトヲ要ス

第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十九條(抜抄) 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサル

トキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

●感化法(明治三十三年法律第三十七號)

第八條(抜抄) 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シ親權ヲ行フ

在院者ノ父母又ハ後見人ハ在院者及假退院者ニ對シ親權又ハ後見ヲ行フコトヲ得ス

●精神病者監護法(明治三十三年法律第三十八號)

第一條(抜抄) 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ

【學說】

●配偶者及ヒ直系尊屬ノ意義(第二百條(學說)ノ部参照)

●保護ノ責任ナキ者ノ遺棄(第二百十七條(學說)ノ部参照)

●扶助ヲ要ス可キ者ノ意義(同上)

●遺棄ノ意義(同上)

●保護責任ノ原因

一 保護ノ義務ハ(一)行爲者ト被害者トノ關係ヨリ生スルコトアリ例へハ親屬關係ノ如シ(二)行爲者

ト被害者トノ明意若クハ包意ノ契約ニ基クコトアリ例へハ看護婦ノ如シ(三)保護若クハ扶助ヲ事實上引受クルニ因リ其責任ヲ生スルコトアリ例へハ同行者又ハ棄兒ヲ拾上ケタル者ノ如シ(大場各論上二) 三三頁)

二 保護ノ責任ハ法令又ハ契約ニ因リ發生スルヲ通例トス然レトモ此ノ如キ法律上ノ義務ヲ負擔セサル者カ任意ニ特別ノ扶助關係ヲ設定シタルトキハ尙法律上ノ保護責任ヲ生ス例へハ棄兒發見者カ養育ノ意思ヲ以テ自家ニ引取リタル場合ノ如シ(泉二博士 七六一頁)

三 保護義務ハ法律ノ規定ヨリ當然發スルモノナルト(例へハ親權者、後見人ノ保護義務ノ如シ)契約ヨリ生スルモノナルト(保姆看護人ノ場合ニ之ヲ見ル)又有償ナルト無償ナルトヲ區別セス(牧野博士二二) 版二〇八頁)

四 特ニ法律上保護スル責任ナクトモ保護ヲ要スル位置ニ立テル者モ犯罪ノ主體タルコトヲ得例へハ父母戸主病者ノ保護者其他下宿旅館ノ主人ノ如シ(勝本博士各論) 講義三〇章)

五 保護ノ責任ハ法令契約事務管理ニ因リテ生ス事務管理ノ場合ハ例へハ道路ニ遺棄セラレタル嬰兒ヲ拾ヒ取り之ヲ保育スルカ如シ(岡田博士) 四三七頁)

六 保護ノ責任ハ法令契約其他遺棄ニ先立ツ行爲ニ因リテ生ス例へハ民法ノ扶養義務者、他人ノ依頼ヲ受ケ病者ヲ看護スル者又ハ棄兒ヲ拾取シテ養育ヲ始メタル者ノ如シ(山岡博士) 三六五頁)

【判決例】



● 病者ノ遺棄(第二百十七條(判例)ノ部参照)

● 殺意ニ因ル遺棄(同上)

● 遺棄ト生命身體ノ危険(同上)

● 遺棄ト被棄者ノ飢餓 缺奉養罪ノ構成ニハ祖父母父母ノ飢餓ニ迫リタル事實ヲ必要トセス(大審院判決 明治三二年 七卷一頁)

● 扶養ヲ要スル者ノ意義 扶養ヲ要スヘキ者トハ老幼不具又ハ疾病ニ因リテ精神上又ハ身體上ノ缺陷ヲ生シ他人ノ扶持助力ヲ待ツニ非サレハ自ラ日常ノ生活ヲ營ムヘキ動作ヲ爲ス能ハサル者ヲ總稱ス其生活資料ヲ自給シ得ルト否トニ關係ナキモノトス(同正大正四 年六七三頁)

● 保護責任者ノ意義 幼者老者其他ノ者ヲ保護スヘキ責任アル者トハ必シモ法令上扶養ノ義務ヲ負擔セル者ノミニ限ラス契約其他ノ事由ニ因リ之ヲ保護スヘキ責任アル者ヲ包含ス(同上大正五 年一三五頁)

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【學 說】

● 殺人行爲(第九十九條(學說)ノ部参照)

● 傷害ノ意義(第二百四條(學說)ノ部参照)

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法二人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【關係法令】

● 憲 法(第九十四條(關係法令)ノ部参照)

● 刑事訴訟法(第三十五條(關係法令)ノ部参照)

● 民法(同上)

● 感化法(同上)

● 精神病者監護法(同上)

● 鐵道營業法(同上)

【學 說】



◎配偶者及直系尊屬ノ意義(第二百條學說ノ部參照)

◎逮捕監禁罪ノ客體

- 一 場所ノ移轉ニ付テノ意思活動ノ自由ハ本罪ニ依リ害セラレル法益ナレハ意思ヲ有スルモノト認ムル能ハサル者ニ對シテハ本罪ハ成立セス即チ生レテ間モナキ嬰兒知覺ヲ失ヒタル泥酔者ノ如シ(大場博士各論上二七五頁)
  - 二 嬰兒泥酔者ノ如キ人ニ對シテモ本罪成立ス(岡田ドクトル四五〇頁)
  - 三 本罪ノ客體ハ單ニ自己運動ノ能力アル者者クハ自己運動ヲ認識シ得ヘキ能力アルノミニ止マラスシテ其居所ヲ自ラ定メ得ヘキ能力アル人ヲ包括ス(山岡ドクトル三六八頁)
  - 四 逮捕監禁ト謂フハ共ニ場所ニ關スル人ノ肉體運動ノ自由ヲ一時的タルト永續的タルトヲ問ハス全ク防止スル行爲ナルカ故ニ其所爲ノ客體タルヘキ人ハ自己ノ意思又ハ他ノ力ニ依テ肉體運動ノ自由能力ヲ有スルモノナラサルヘカラス(小崎學士各論六五八頁)
- ◎逮捕監禁ノ意義及ヒ其區別
- 一 逮捕監禁ハ人ノ身體ニ對シ有形ノ自由ヲ剝奪スルノ謂ナリ逮捕ハ直接ニ身體其モノノ自由ヲ拘束スルコト其方法ハ有形的方法ヲ用フルコトヲ一般トスト雖モ無形的方法ヲ用キル場合例ヘハ脅迫等ノ方法ヲ以テ自由ヲ制限スルモ亦此中ニ入ル監禁トハ一定ノ區劃ノ外ニ出ツル能ハサラシムルノ意味ナリ(牧野博士二一版三〇九頁) (法學志林明治四三年三號)
  - 二 逮捕監禁トハ一般ニ場所ノ移轉ニ關スル人ノ意思活動ノ自由即チ空間的意思活動ノ自由(進

- 退行止ノ自由又ハ運動ノ自由)ヲ侵害スルノ行爲ナリ逮捕ノ手段ハ有形の無形のノモノタルヲ得監禁トハ必シモ一定ノ區劃内ニ人ヲ有形のニ拘禁スル行爲ノミニ限ラス苟モ人ノ空間的意思活動ノ自由ヲ害スル以上ハ其手段カ有形のナルト無形のナルトヲ問ハス(大場博士各論上二七七頁)
- 三 逮捕監禁ハ住居ノ選定權ヲ廢滅スルノ行爲ヲ謂フ毫モ身體ニ對スルモノニ非ス行止進退ノ自由ヲ含ム此等ノ所爲ハ必シモ直接ナルヲ要セス例ヘハ詐欺ノ令狀ヲ發シテ人ヲ引致シ又ハ脅迫威嚇ヲ以テスルカ如キハ之ヲ間接ニ出テタルモノトス(江本博士二二四頁)
- 四 逮捕監禁ハ共ニ有形の自由ノ剝奪ナリ逮捕ハ直接ニ身體ノ上ニ物質力ヲ加ヘテ實行スルヲ常トス監禁ハ一定ノ區劃ノ外ニ出ツルノ自由ヲ剝奪スルモノニシテ交通遮斷ナリ(岡田博士各論講義二五四頁)
- 五 逮捕監禁ハ共ニ人ノ行爲ノ自由ヲ剝奪スルモノニシテ唯其手段ヲ異ニスルノミ逮捕ハ身體ニ直接ノ物質力ヲ加フルモノニシテ監禁ハ一定ノ區劃サレタル場所ヨリ外部ニ出ツルコトヲ得サラシムル方法ナリ(泉二博士七六三頁)
- 六 逮捕監禁ハ身體ノ自由ヲ拘束スル行爲ナルモ逮捕ハ一定ノ區劃ヲ定メス自由ヲ拘束スル行爲ヲ謂ヒ監禁トハ一定ノ區劃内ニ於テ自由ヲ拘束スル行爲ヲ謂フ(岡田ドクトル四五〇頁)
- 七 監禁ハ區劃セラレタル一定ノ場所ニ留置シ外部ニ出ツル能ハサラシムル方法ニ依リ身體運動ノ自由ヲ剝奪スルヲ謂ヒ逮捕ハ其以外ノ方法ニ依リ運動ノ自由ヲ制御スルヲ謂フ(山岡ドクトル三六九頁)
- 八 逮捕監禁ノ行爲ハ共ニ往來居住ノ自由ヲ妨ケタルコトニシテ一定ノ時一定ノ場所ニ止メ置クヤ否ヤニ依リテ分ル其區別曖昧ナリ逮捕セラレテ永ケレハ監禁トナリ一時ナルトキハ逮捕トナ



九 逮捕監禁ハ居所ノ選擇ニ關スル自由意思ノ實行ヲ全ク妨止スル行爲ヲ指シ體力ニ依ルト無形ノ精神作用ニ依ルトヲ問ハス(小崎學士各論六五七頁)

●偽造勾引狀ニ依ル同行 偽造ノ勾引狀ヲ示シテ他人ヲ欺キ同行スルトキハ不法逮捕罪ヲ構成ス(法曹會決議法曹記事  
明治四五年一一號)

【判決例】

●工場ノ閉鎖ト職工監禁 契約ニ因リ工場主ノ爲メニ一定ノ勞務ニ服スル職工ト雖モ一切ノ自由ヲ奪ハルヘキモノニ非サルハ勿論一定ノ時限中不法ニ其場所ト外部トノ交通ヲ遮斷スルカ爲メ出入口ノ戸ニ外部ヨリ鎖鑰ヲ施シ外出ヲ禁止シ因テ職工ノ自由ヲ奪フカ如キハ第二百十條第一項ノ罪ヲ構成ス(大審院判決錄大正四年一八九五頁)

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【學說】

●殺人行爲(第九十九條  
學說ノ部參照)

●傷害ノ意義(第二百四條  
學說ノ部參照)

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

【關係法令】

●船員法(明治三十二年  
法律第四十七號)  
第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ  
刑法第三百二十九條(舊刑法  
ナリ)ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

【學說】

●脅迫ノ意義

一 脅迫トハ一定ノ害惡ヲ加フヘキコトノ告知ニ依リ他人ヲ威嚇スル行爲ナリ(泉二博士  
七六五頁)  
第二編 第三十二章 第二百二十二條 關係法令 學說 六八九



- 二 脅迫トハ人ニ畏怖心ヲ生セシムル目的ヲ以テ害惡ヲ通知スルヲ謂フ但畏怖心ヲ生シタルコトヲ必要トセス又人ノ意思ノ自由ヲ抑制スル程度タルヲ必要トセス單ニ恐喝ニ屬スル程度ノモノト雖モ尙脅迫トス但第三者カ危害ヲ加フヘキ旨ヲ通告スルモ脅迫ニ非ス(牧野博士二版三一一年四) 頁法學志林明治四三
- 三 脅迫トハ人ノ生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ不法ニ侵害ヲ加フヘキ旨ノ通知ナリ被害者ニ畏怖ノ念ヲ生セシムルコトヲ必要トセス(大場博士各論上三七八頁) 岡田博士各論講義二五六頁
- 四 被害者ニ於テ危害ヲ受クヘキコトヲ信シ爲メニ權利ノ安全ニ關スル不安ノ觀念(懸念)ヲ惹起スルヲ以テ足レリトス其一時タルト否トヲ問ハス(小崎學士各論六六五頁)
- 五 脅迫ノ所爲即チ人ヲシテ安全ナル生活ヲ爲スコト能ハサラシムル所爲ハ之ニ依リ被害者カ安全ナル生活ヲ營ムコト能ハサルノ位地ニ在ラスンハ犯罪ヲ構成セス換言スレハ被害者ニ於テ畏怖ノ念ヲ惹起スルニ非スンハ成立セス(勝本博士析義) 下一六六頁
- 六 脅迫トハ他人ニ一定ノ害惡ヲ加フヘキコトヲ通知シ依テ其者ヲ畏怖セシムルヲ謂フ行爲者ニ於テ實際害惡ヲ加フルノ意思アルコトヲ必要トス(山岡ドクト) 三三七三頁

【行政實例】

◎死者ノ名譽ニ關スル脅迫 死亡シタル親族ノ名譽ニ關シテ害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トシ間接ニ被害者ノ名譽ニ關シ脅迫シタルモノナルトキハ第二百二十二條第一項ノ犯罪ヲ構成ス(司法省) 同答法

曹記事明治  
四一年八號

【判決例】

◎恐喝罪ト脅迫トノ關係 恐喝罪ノ手段トシテ用ヒタル脅迫ハ恐喝罪ノ實行行爲ニ屬シ同罪ノ構成要件ナレハ別ニ脅迫罪ヲ成立セス(大審院判決錄明治) 四三年二七七頁

◎脅迫ノ意義

- 一 第二百二十二條ニ規定セル脅迫罪ハ同條列記ノ法益ニ對シテ危害ノ至ルヘキコトヲ不法ニ通告スルニ因リ成立シ必シモ被通告者ニ於テ畏怖ノ念ヲ起シ又ハ意思ノ決定ニ付キ選擇ノ自由ヲ缺キタルコトヲ要セス又虛無人ノ名義ヲ用ヒテ其通告ヲ爲シタルトキト雖モ同罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ(同上明治四三) 年一九三八頁
- 二 脅迫罪ハ他人ヲシテ畏怖心ヲ生セシムヘキコトヲ認識シテ脅迫行爲ヲ實行スルニ依リ成立シ其最終ノ目的カ被害者ヲ畏怖セシムル以外ニ存スルモ之カ爲メ同罪ノ成立ニ影響ナシ(同上大正) 三年一頁(三)
- 三 誣告ヲ受ケタル者カ眞ニ誣告ノ告訴ヲ爲ス意思ナキニ拘ハラヌ誣告者ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ該告訴ヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルトキハ脅迫罪ヲ構成ス(同上大正三年) 二三〇六頁
- 四 脅迫トハ人ヲ畏怖セシメ其自由ヲ抑壓スル目的ヲ以テ之ニ對シ害惡ヲ到來セシムヘキ旨ノ通告ヲ爲ス行爲ヲ謂フ而シテ脅迫罪ノ成立ニハ人ヲ畏怖セシムル目的アルコトヲ要スト雖モ必シ



モ通告ノ結果トシテ被通告者カ恐怖シタルコトヲ要セス(大審院判決録大正四年九五七頁)

五 巡查ニ對シ取締ヲ嚴重ニスルナラハ一家ヲ慶殺スヘシト通告スルハ脅迫ニシテ被通告者カ害惡ノ發生ヲ信シタルト否ト畏怖ノ念ヲ生シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ消長ナシ(同上大正五年五五九頁)

◎絶交ノ通告ト脅迫

一 一定ノ地域ニ於ケル住民カ一定ノ制裁ヲ以テ團結シ其一部ノ人ニ對シテ絶交ヲ宣言スル行爲ハ是レ寔ニ其個人ヲ社交團結外ニ排斥シ其人格ヲ蔑如スルノ結果ヲ生シ人ノ社交的價值タル名譽ヲ毀損スルモノトス故ニ他人ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ斯ル絶交ノ宣言ヲ爲スヘキコトヲ通告シタルトキハ第二百二十二條ノ犯罪ヲ構成ス(同上明治四四年一五三三頁)

二 多數ノ部落民ト共ニ同部落ノ一人ニ對シ絶交ノ決議ヲ爲シ之ヲ其者ニ通知シタル行爲ハ之ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ害惡ヲ通知シタルモノニ外ナラス故ニ脅迫罪ヲ構成ス(同上大正二年一四九頁)

三 多衆共同シテ爲シタル絶交ハ縱シ被絶交者ノ人格ヲ傷ケ之ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムルモ其絶交カ違法性ヲ有スル場合ニ非サレハ脅迫罪ヲ構成スルコトナシ故ニ被絶交者ノ背德又ハ破廉恥ノ行爲ニ對スル社交上道徳上ノ制裁トシテ絶交スルコトハ一般ニ認メラルル所ナレハ之ヲ救濟スルノ必要ナク只絶交者カ被絶交者ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シ又ハ絶交カ正當ナル理由ナキトキ始メテ違法性ヲ有スルヲ以テ茲ニ脅迫罪ヲ構成スルモノトス(同上大正二年一三五三頁)

◎暴行罪ト脅迫トノ關係 板片ヲ以テ他人ヲ毆打シ然ル後「ビストル」ヲ差向ケ擊殺スヘシト脅迫シ

タルトキハ暴行罪ト脅迫罪トノ二罪ヲ構成ス(同上明治四四年一八八一頁)

◎名譽毀損ノ通告ト脅迫 第二百二十二條第二百二十三條ノ名譽ニ對スル脅迫罪ハ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ摘發シテ名譽ヲ侵害スヘキコトヲ通告スルヲ以テ足り名譽毀損ノ具體的事實ヲ通告スルコトヲ必要トセス(同上大正元年一四四九頁)

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【關係法令】

◎船員法(第二百二十二條(關係法令)ノ部参照)

◎皇室親族令(第二百四十四條(關係法令)ノ部参照)

第二編 第三十二章 第二百二十三條 關係法令



- ◎民法(同上)
- ◎民事訴訟法(同上)

### 【學說】

- ◎未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部参照)
- ◎暴行脅迫ノ意義(第九十五條、第二百八條、第二百三十六條(學說)ノ部参照)
- ◎脅迫ノ意義(第二百二十二條(學說)ノ部参照)
- ◎強制罪ノ暴行 暴行トハ不正ノ腕力ニシテ人ニ對スルト物ニ對スルトヲ問ハスト雖モ本罪ノ暴行ハ被害者ニ對スルコトヲ要ス故ニ物ニ對スル暴行ハ人ニ對シ間接ナル暴行即チ心理的ニ感知シ得ヘキ程度ノモノタル場合ニ限り本罪ノ手段タリ得ヘシ(山岡ドクトル三三七三頁)
- ◎權利妨害行為ノ種類 行フヘキ權利ヲ妨害スルノ所爲ハ二種アリ一、被害者ヲシテ其行ヒ得ヘキ行為ヲ思ヒ止マリ之ヲ爲ササラシムルモノ即チ被害者ノ意思ニ反シ不行爲ヲ強要スルモノニ、被害者ノ欲セサル事項ヲ行爲者カ爲スコトヲ認容セシムルモノ例ヘハ醫師カ研究ノ爲メ患者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ其手術ヲ受クヘキコトヲ認容セシムルカ如シ之ヲ認容ノ強要ト謂フ(大場博士各論上三三四頁)
- ◎暴行脅迫ニ依ル義務ノ強要
  - 一 暴行脅迫ニ依テ義務ノ履行ヲ強制スルハ第二百八條又ハ第二百二十二條ノ罪ヲ構成スルコトアルモ本條ノ罪ト爲ラス(泉二博士七六七頁、岡田ドクトル四六三頁)

二 若シ強要者カ被強要者ヲシテ爲サシメ得ヘキ權利アルトキハ之ヲ爲サシムルノ手段トシテ暴行脅迫ヲ使用スルモ強要罪トナラス(大場博士各論上三三四頁)

### 【判決例】

- ◎未遂既遂ノ區別(第四十三條(判例)ノ部参照)
- ◎不能犯ト未遂犯トノ區別(同上)
- ◎暴行ノ方法(第九十五條(判例)ノ部参照)
- ◎脅迫ノ意義(第二百二十二條(判決例)ノ部参照)
- ◎絶交ノ通告ト脅迫(同上)
- ◎名譽毀損ノ通告ト脅迫(同上)
- ◎強要罪ノ罪數 第二百二十三條ノ罪ハ單ニ其所定法益ノ一個ニ對スル脅迫ニ依ルモ將タ同時ニ其一個以上ノ法益ニ對スル脅迫ニ依ルモ他人ヲ強制シテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨ケタル罪ノ成立ニ付キ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ故ニ身體ニ對スル害惡ト財產ニ對スル害惡トヲ同時ニ通告スルモ同罪ノ數ヲ増加スルコトナシ(大審院判決録明治四四年一三二九頁)
- ◎強要罪ト一部ノ權利實行 苟モ暴行脅迫ニ因リ強要シタル行為ノ一部中他人ノ義務ニ屬セサル事項アル以上ハ縱令其他ノ部分ニ義務ニ屬スル事項アリトスルモ之カ爲メ第二百二十三條ノ犯罪ノ成立ヲ妨ケス(同上大正二年五二八頁)



### 第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

#### 【學 說】

##### ◎ 拐取罪ノ主體

- 一 父母後見人ト雖モ誘拐者トナリ得ル場合アリ例ヘハ感化院ニ入院セル幼者ヲ誘拐セルトキノ如シ自身ノ監督權ハ剝奪サレ居レハナリ(勝本博士各論講義三三章 岡田博士各論四六六頁)
- 二 父母ト雖モ既ニ親權喪失其他ノ理由ニ依リ監護懲戒ノ權利ヲ有セサルニ至リタルトキハ尙本罪ノ主體ナリ(大場博士各論 上三〇二頁)

##### ◎ 拐取罪ノ客體

- 一 未成年者ニ對スル略取誘拐罪ハ其監督者ノ監督ヲ侵害スルコトアリ其雙方ヲ侵害スルコトアリ故ニ未成年者ニ對スル拐取罪ハ必シモ監督者アル場合ノミニ限ルコトナシ(牧野博士一八 版三五九頁)
- 二 本罪ノ客體ハ未成年者ナリ父母後見人アルトキハ此者ハ監護懲戒ヲ爲スノ權利ヲ有スルカ故ニ同時ニ父母後見人ノ有スル監護懲戒ノ權利ヲ侵害ス從テ未成年者ニ父母後見人アル場合ニ於

テハ未成年者ノ同意アルモ本罪ノ成立ヲ妨ケス(大場博士各論 上二九九頁)

- 三 被拐取者カ本罪ノ被害者タルコト勿論ナルモ未成年ニ對スル拐取行為ニ付テハ親權者若クハ後見人ノ如キ保護監督ノ責任アル者モ亦被害者タルヲ通説トス余ハ其他ノ意思能力ナキ者ノ保護監督者ニ付テモ之ヲ被害者ナリト曰ハント欲ス(山岡博士 三三六頁)
- 四 監督者ノ下ニ在ル未成年者ニ對シテハ其監督者ノ意思ニ依ラス又ハ其瑕疵アル意思ニ依リ不法ノ實力關係ヲ取得スルニ非サレハ本罪ハ成立セス(泉二博士 七七〇頁)
- 五 假令事實上監督者ノ監督ヲ脱出スト雖モ法律上幼者ハ常ニ監督者ノ監督ニ屬スルモノナルカ故ニ之ヲ拐取スル行為ハ常ニ其監督ヲ犯シタルモノトス(勝本博士各論 講義五九一頁)
- 六 監督者ノ不明ナル浮浪ノ少年ヲ或目的ヲ以テ拐取シタル行為ハ刑法上罪トナル蓋監督者ノ有無ハ本罪ノ成立ニ無關係ナレハナリ(岡田博士講 義二六五頁)
- 七 略取罪ノ法理ハ監督權者ニ限り之ヲ處分スルコトヲ得ルカ故ニ其承諾ヲ得タルトキハ假令被監督者タル未成年者ニ對シテ此法益ヲ害スルモ本罪ヲ構成セス(小崎學士法學新報 明治四二年八號)

##### ◎ 略取誘拐ノ意義及ヒ其區別

- 一 略取トハ暴行又ハ脅迫ニ依リ人ニ對スル實力の支配ヲ獲得スルヲ謂ヒ誘拐トハ詭計又ハ誘惑ニ依リ人ニ對スル實力の支配ヲ獲得スルヲ謂フ兩者ノ區別ハ拐取セラレタル者ノ承諾アリタルヤ否ヤニ依リ之ヲ定ム(大場博士各論 上二一〇頁)
- 二 略取トハ暴行又ハ脅迫ニ出テタル奪取ノ所爲ヲ謂フ(岡田博士講義二六二頁、勝本博士析 義下二〇二頁、江木博士二三三頁)



- 三 略取ハ被害者ノ意思ニ依ラスシテ之ヲ自己ノ實力の支配ノ下ニ移ス行爲ニシテ必シモ暴行又ハ脅迫ヲ用ユルコトヲ必要トセス意思無能力者ニ對シテハ常ニ略取行爲存スヘシ(泉二博士 七六八頁)
- 四 略取誘拐トハ不法ニ他人ヲ自己ノ支配内ニ移シ以テ其自由ヲ侵害スル行爲ナリ略取ハ暴行脅迫ニ因リ被略取者ノ上ニ實力の支配ヲ加フルモノナルニ反シ誘拐ハ單ニ詭計詐術ニ因ル誘惑手段ヲ以テ被誘拐者ノ上ニ支配ヲ行フモノナルニアリ(山岡ドクトル三三六頁 牧野博士二一版三一二頁)
- 五 略取トハ暴行脅迫等ノ手段ニ依リ反抗力ヲ抑壓又ハ制限シテ人ヲ自己ノ實力支配内ニ移シ又ハ之ヲ奪取スルヲ謂ヒ誘拐トハ欺罔誘惑等ノ方法ニ依リ被害者ノ主觀的觀察ニ依リ瑕疵ナキ承諾ヲ得テ之ヲ自己ノ實力支配ニ移スヲ謂フ(岡田ドクトル 四六七頁)

### 【判決例】

- ◎誘拐ノ手段ト被害者 誘拐罪ノ手段タル僞計其他人ヲ錯誤ニ陥ラシムル行爲ハ必シモ被誘拐者ニ對シテノミ之ヲ行ヒタルコトヲ要セス其監督者ニ對シテ之ヲ施シタル場合ト雖モ亦同罪ヲ構成ス(大審院判決錄明治四一年七七六頁)
- ◎略取ノ意義 第二百二十四條ニ所謂未成年者ノ略取罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ幼者ヲ不法ニ自己ノ實力内ニ移シ一方ニ於テ監督者ノ監督權ヲ侵害スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ幼者ノ自由ヲ拘束スルノ行爲ヲ謂フモノトス(同上明治四三年一五七〇頁)
- 第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル

者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

### 【學說】

- ◎拐取罪ノ主體(第二百二十四條「學說」ノ部參照)
- ◎拐取罪ノ客體(同上)
- ◎略取誘拐ノ意義及ヒ其區別(同上)
- ◎略取誘拐ノ目的 第二百二十五條ニ掲ケタル目的ハ直接ニ被拐取者ヲ利用スルニ因リ遂ケラルヘキ場合ノミヲ謂フ(宮本學七法學志 林大正三年三號)

### 【判決例】

- ◎誘拐ノ手段ト被害者(第二百二十四條「判決例」ノ部參照)
- ◎略取ノ意義(同上)
- ◎營利拐取ト未成年者拐取トノ關係
  - 一 實際上意思能力アル未成年者ト雖モ苟モ之ヲ欺罔シテ他所ニ誘致シ自己ノ支配内ニ置ク以上ハ誘拐罪ヲ構成スヘク營利ノ目的ヲ以テ誘拐シタルトキハ未成年者ナルト否トヲ問ハス(大審院判決錄明治四四年四九八頁)
  - 二 第二百二十五條ハ被誘拐者ノ成年者タル場合ト未成年者ナル場合トヲ共ニ包括スルカ故ニ其



未成年者ナル場合ト雖モ單一ナル同條ノ犯罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ第二百二十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス(大審院判決録明治四四年二七〇頁)

◎營利ノ意義 第二百二十五條ニ營利ノ目的トハ略取誘拐ノ行為ニ因リ利益ヲ取得スルコトヲ目的トスルノ謂ニシテ營利的ニ利益ヲ取得スルコトヲ必要トセス(同上明治四四年二〇〇九頁)

◎營利誘拐ノ既遂未遂 誘拐罪ハ他人ヲ誘引シテ自己ノ實力の支配内ニ措キタルトキ既遂トナリ被誘拐者カ犯人ノ支配ヨリ脱出シタルニ因リ犯人カ營利其他ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシ場合ト雖モ同罪ノ未遂ニ問擬スヘキモノニ非ス(同上大正三年五六一頁)

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

【關係法令】

◎移民保護法(明治二十九年法律第七十號)

第二十六條ノ一 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

【學說】

◎拐取罪ノ主體(第二百二十四條(學說)ノ部参照)

◎拐取罪ノ客體(同上)

◎略取誘拐ノ意義及ヒ其區別(同上)

◎有夫ノ婦ノ誘拐 帝國外ニ在ル者帝國內ニ在ル名義上ノ有夫ノ婦ヲ其利益ノ爲メ帝國外ニ在ル者ニ婚嫁セシムル目的ヲ以テ本人及ヒ現ニ本人ヲ監督スル其實父母ノ承諾ヲ得テ之ヲ帝國外ニ誘致シタルトキハ誘拐罪ハ成立セス(法曹會議議決法曹記事大正四年第七號)

【判決例】

◎誘拐ノ手段ト被害者(第二百二十四條(判決例)ノ部参照)

◎略取ノ意義(同上)

◎營利拐取ト未成年者拐取トノ關係(第二百二十五條(判決例)ノ部参照)

◎營利誘拐ノ既遂未遂(同上)

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以



下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【學說】

- ◎ 幫助行爲ノ意義(第六十二條(學說)ノ部参照)
- ◎ 藏匿隱避ノ意義(第三百三條(學說)ノ部参照)

【判決例】

- ◎ 誘拐ノ手段ト被害者(第二百二十四條(判決例)ノ部参照)
- ◎ 略取ノ意義(同上)
- ◎ 營利拐取ト未成年者拐取トノ關係(第二百五條(判決例)ノ部参照)
- ◎ 營利ノ意義(同上)
- ◎ 營利拐取ノ既遂未遂(同上)
- ◎ 被拐取者藏匿ノ意義 第二百二十七條ニ所謂藏匿トハ被誘拐者ニ其發見ヲ妨クヘキ場所ヲ供給スルコトヲ指稱スルモノトス故ニ被誘拐者ナルコトヲ知リナカラ其者ヲ旅館ニ滞在セシメ投宿人名簿ニ住所氏名年齡等ヲ偽リ記入シタル所爲ハ即チ被誘拐者ノ發見ヲ妨クル爲メ詐欺ノ手段ヲ用ヒ

之ニ一定ノ場所ヲ供給シタルモノニシテ其行爲ハ同條第一項ノ犯罪ヲ構成スルヤ固ヨリ論ナシ

(大審院判決錄明治四四年一四八一頁)

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【學說】

- ◎ 未遂罪ノ意義(第四十三條(學說)ノ部参照)

【判決例】

- ◎ 未遂既遂ノ區別(第四十三條(判決例)ノ部参照)
  - ◎ 不能犯ト未遂犯トノ區別(同上)
- 第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

【關係法令】



【學說】

●拐取罪ノ告訴權者

- 一 被拐取者又ハ被賣者ハ行爲者トノ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴スル能ハス協議ノ離婚ヲ爲シタル場合若クハ成年者タル婚姻者ノ一方カ死亡シタル場合ハ何人モ告訴ヲ爲ス能ハサルモノノ如シ(大場博士各論(上三二〇頁))
- 二 協議上ノ離婚後ニ於ケル告訴ハ有效ナリヤ苟モ婚姻ノ解消アリタル後ハ告訴ノ效アリト論スルコトヲ得ルニ似タリト雖モ解釋トシテハ否定セサル可カラス(泉二博士(七七三頁))
- 三 告訴人タルヘキ被害者ハ第一ハ被拐取者又ハ被賣者ナリ第二ハ未成年ノ監督者ナリ何トナレハ略取誘拐ハ監督者ノ監督ヲ害スルモノナレハナリ(牧野博士二(版三一六頁))

第二十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

【關係法令】

●出版法(明治二十六年法律第十五號)

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其犯行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若クハ證明シタルトキハ其罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

●新聞紙法(明治四十二年法律第四十一號)

第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若クハ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

【學說】

●公然ノ意義(第七十四條(學說)ノ部参照)

●事實摘示ノ意義

一 事實ノ摘示トハ具體的ニ一定ノ事實ヲ告知スルノ所爲ヲ謂フ獨リ未タ公知セラレサル事實ヲ摘發スル場合ノミナラス既ニ公知セラレタル事實ト雖モ人ニ對シ之ヲ告知スルトキハ摘示アルモノト解セサルヲ得ス(大場博士各論(上四七四頁))



- 二 事實ノ摘示トハ一定ノ事實ヲ開示スル義ナリ單ニ人ヲ批評スルカ如キハ事實ノ摘示ニ非ス(山岡ドクトル 三九八頁)
- 三 事實ノ摘示トハ具體的ニ一定ノ事實ヲ社會ニ知ラセシムルコトヲ要ス其方法ノ如何ヲ問ハス而シテ第三者ニ知ラセラレタルトキヲ以テ既遂トス(牧野博士二二 版三一七頁)
- 四 事實ノ摘示トハ事實ヲ表示スルノ意味ニ外ナラス事實ハ人ノ名譽ヲ毀損スルニ足ルヘキ一切ノ事實ヲ包含シ其事實ノ有無ハ之ヲ問ハス又表示ノ方法及ヒ體様ノ如何ヲ問ハス(泉二博士 七八五頁)

◎名譽ノ意義

- 一 名譽ハ人ノ社會上ノ價值ナリ世人ノ判斷ニ依テ認メラルル人ノ社會的地位ナリ法律上人ハ其社會上ノ價值ニ關シ他人ニ貶侮セラレサル權利ヲ有ス是即チ名譽權ナリ幼者狂者モ本罪ノ被害者タルコトヲ得ルナリ(泉二博士 七八二頁)
- 二 本罪ハ單ニ名譽即チ社會上ノ地位ニ危害ヲ與フルニ因リテ成立ス社會ノ毀譽ニ上ルヘキ幼者(商店ノ小僧)ニ對シテモ犯罪ノ成立ヲ認メサルヘカラス(岡田博士各論 講義二七六頁)
- 三 名譽トハ社會ニ於ケル人類ノ價值ナリ小供ト雖モ或義務ヲ負擔スヘキ階級ニ進ミ且其義務ヲ了解スルニ至リタルトキハ名譽ノ主體タルコトヲ得ヘシ精神病者モ過去ニ於ケル健全ナル精神ノ狀況及ヒ現在ニ於ケル一部不完全ナル精神ノ狀況ニ於テ亦名譽ノ主體タルコトヲ得ヘシ(小崎各論七 四〇頁)
- 四 名譽トハ人ノ眞價其モノヲ稱スルニ非スシテ社會一般人カ特定人ニ對シ與フル聲譽ヲ謂フ聲譽ニニアリ一ハ人カ生ルルト同時ニ獲得スルモノニシテ之ヲ人ノ人タル名譽又ハ人格ト謂ヒ一ハ本人ノ地位、財産、智能、才幹等ト社會一般カ與フル判斷トニ依リ成立スルモノニシテ之ヲ社會上ノ名譽又ハ國民的ノ名譽ト謂フ此兩者共ニ名譽ニ對スル罪ノ法益ナリ而シテ被害者ニ意思能力アルト否トヲ問ハス(大場博士各論 上四五頁)
- 五 本罪ノ物體タルヲ得ヘキ名譽ハ人ノ社交的品格即チ個人カ共同生存ニ於テ取得シタル社會上ノ品位ナリ(山岡ドクトル 三九八頁)
- 六 名譽トハ人ノ聲價ヲ謂フ聲價トハ人トシテノ聲價ハ勿論人ノ社會上ノ地位ニ對スル價值中相對的價值及ヒ客觀的價值ヲ謂ヒ人トシテノ聲價ハ何人モ有スルカ故ニ嬰兒又ハ精神病者ト雖モ之ヲ有ス(岡田ドクトル 四九八頁)

◎死者ニ對スル誹毀

- 一 死者ニ對スル誹毀罪ノ法益ハ遺族ニ對スル名譽ヲ保護スルニ在ルモノト解ス故ニ其相續人ヲ以テ被害者ナリトス(牧野博士二二 版三一七頁 山岡ドクトル四〇一頁)
- 二 死者ニ對スル誹毀ヲ認ムルハ死者其者ノ名譽ヲ保護スルニ非ス又生存セル親族ノ各個人ヲ保護スルニ非ス生存シタル死者ノ親族全體ノ名譽ヲ保護スルニ在リ(小崎學士各論 七四一頁)
- 三 死者其者ニハ人格ナキカ故ニ被害者タルヲ得ス此規定ハ間接ニ遺族ノ名譽ヲ保護スルモノト解スヘキナリ(泉二博士 七八三頁)
- 四 法律ハ死者ノ名譽ヲ毀損スルヲ禁シ以テ其保護セントスル法益ハ死者ノ名譽其モノニ非スシ



ヲ生存者ノ法益ナリトス(大場博士各論上四七八頁)

五 死者誹毀ハ遺族ニ對スル間接誹毀ト爲スヲ以テ適當トス(江本博士二四一頁)

六 余ハ死者ハ法ノ效力ニ依リ名譽權ノ主體トナリタルモノト信ス此名譽ヲ侵害スルハ即チ死者ノ名譽ヲ侵害スルモノニシテ遺族ノ名譽ヲ侵害スルモノニ非ス又其崇敬ノ感覺ヲ侵害スルモノニモ非ス(岡田博士各論上五〇一頁)

◎法人ニ對スル誹毀

一 法人モ亦名譽罪ノ被害者タルコトヲ得(岡田博士各論講義二七八頁、法學志林一六號)

二 人類ノ團體ニシテ別ニ一個ノ人格ヲ有スル者ハ其人格ニ於テ享有スル利益ノ範圍内ニ於テ亦名譽ノ主體タルコトヲ得ヘシ即チ社團法人ノ如シ(小崎學士各論七四二頁)

三 法人ト雖モ人格ヲ有シ社會的活動ヲ認メラレタル範圍内ニ於テハ其人格ニ付テ社會上ノ價値ヲ有スルヤ疑ナク法律上之ヲ保護セサル理由ナキカ故ニ法人モ亦本罪ノ被害能力ヲ有スルモノト解ス(泉二博士七八四頁)

四 法人モ亦名譽罪ノ被害者タルコトヲ得ト解スルヲ相當トス(大場博士各論上四六〇頁、牧野博士二一版三一十頁)

◎名譽毀損ノ意義

- 一 誹毀ハ人ノ名譽ニ對スル侵害ナリ故ニ被害者カ之ヲ了知スルコトヲ要セス又被害者カ名譽ヲ侵害セラレタリト感得スルコトヲ要セス但常ニ第三者ノ介在ヲ必要トス(牧野博士二一版三一六頁)
- 二 名譽ヲ毀損スト云フハ名譽權侵害ノ意ナリ苟モ人ノ社會的價値ヲ貶スルノ虞アル事實ヲ公然

表示シ第三者ニ認知セラレタル以上ハ當然本罪ヲ構成シ其人カ被害者ニ對シ不利益ナル判斷ヲ爲スニ至リタル事實アルコトヲ要セス(泉二博士七八六頁)

◎法廷ニ於ケル防禦方法トシテ名譽毀損 被告カ公開ノ民事法廷ニ於テ正當ノ防禦方法トシテ原告ノ惡事醜行ヲ摘示スルモ名譽毀損罪ヲ構成セス(法曹會決議法曹記事明治四三年三號)

【判決例】

◎名譽毀損ト信用毀損トノ區別(第二百三十三條)(判決例ノ部参照)

◎信用毀損ト財産權侵害(同上)

◎法人ニ對スル誹毀 誹毀罪ノ被害者ハ唯有形人ノミナラス無形人ヲモ包含スルモノトス故ニ各人ノ集合ヨリ團結スル會社等ヲ誹毀スルニ於テハ同罪ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス(大審院判決錄明治二五年一巻九九頁)

◎前科者ト惡事ノ摘發 破廉恥罪ノ前科者ナル文詞ハ人ヲシテ竊盜、詐欺取財等ノ犯行ヲ爲シテ處刑ヲ受ケタルモノナルコトヲ知得セシムルヲ以テ惡事ノ摘發ニシテ罵詈ニ非ス(東京控訴院判決法曹記事明治四〇年一號)

◎枝葉記事ト名譽毀損 文書記載事項ノ主眼タルト枝葉タルトヲ問ハス人ノ名譽ヲ毀損シタルトキハ誹毀罪ヲ構成ス(同控訴院判決法曹記事明治四〇年一號)

◎特定人ニ對スル通信ト名譽毀損 特定人ニ對シ郵便葉書ニ依リ通信スルハ公衆ニ知覺セシムヘキ性質ニ非サルヲ以テ依然秘密ニシテ公然ニ非ス(同控訴院判決法曹記事明治四四年五號)

◎新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ幫助 通信員又ハ投書者カ人ノ名譽ヲ毀損スヘキ記事ノ材料ヲ編輯人ニ



與へ編輯人カ之ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ其通信員又ハ投書者ハ即チ名譽毀損行爲ヲ幫助シタルモノナリ(大審院判決錄明治四年三三四頁)

●妻ノ姦通ト夫ノ名譽毀損 書面ヲ流布シテ人ノ妻カ他人ト姦通シタル事實ヲ世ニ公ニスルハ直接ニ本夫ノ名譽ヲ毀損スルモノニ非サルヲ以テ之ニ對スル名譽毀損罪ヲ構成スルコトナシ(同上明治四年一〇〇頁五)

●風聞ノ掲載ト事實ノ摘示 風聞モ亦事實ニ外ナラス而シテ惡事醜行ノ風聞アルコトヲ新聞紙ニ掲載スルハ未タ風聞アルコトヲ知ラサル他人ニ公然之ヲ傳播シテ知覺セシムルモノナレハ第二百三十條ニ所謂公然事實ヲ摘示シタルモノナリ(同上明治四年一四八七頁)

●新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ共同正犯 數人順次ニ犯意ヲ共通シ新聞紙編輯人ノ手ヲ藉リ公然事實ヲ新聞紙ニ摘示セシメ以テ人ノ名譽ヲ毀損シタルトキハ是等ノ者ハ其編輯人ト共ニ第二百三十條第一項ノ罪ノ共同正犯トシテ處分スヘキモノトス(同上明治四年一八〇八頁)

●公刊物ニ依ル名譽毀損ノ既遂未遂 新聞雜誌ノ如キ公刊ノ文書ニ依リ他人ノ名譽ヲ毀損スル罪ハ名譽毀損ノ記事ヲ掲載發行シ公衆ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ措クニ因リテ成立シ右記事カ公衆ノ閱覽ヲ經タルコトヲ必要トセス(同上明治四年九三三頁)

●毎日發行ノ新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ罪數 包括的ニ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ一個又ハ數個ノ事實ヲ新聞紙ニ掲載シ之ヲ毎日發行シタルトキハ一個ノ名譽毀損罪ヲ構成スルニ過キスシテ其掲載日數ノ多少ハ何等ノ消長ヲ來スコトナシ(同上明治四年九三四頁)

●公人ノ論評ト名譽毀損 中學校長タル者ニ對スル論評ハ公人ニ對スル論評ナリトスルモ其論評ニシテ苟モ刑法上ノ名譽毀損罪ニ觸ルルニ於テハ其罪責ヲ免ルヘカラス而シテ之レ言論自由ノ範圍ニ屬セス(同上大正二年三一二頁)

●法廷ノ陳述ト名譽毀損 公判廷ニ於テ他人ト私通妊娠シタル旨陳述スルモ實際私通關係アルニ於テハ情夫ノ名譽ヲ害シタルモノト謂フヲ得ス(東京控訴院大正二年十一月十一日判決)

●被害者ノ暗示ト名譽毀損 新聞雜誌ニ掲ケタル名譽毀損ノ事實中被害者ノ氏名、容貌、異名若クハ親族等ヲ直ニ知り得ヘキ文詞ナシト雖モ他ノ事情ト綜合シテ其何人ナルカヲ推知シ得ル以上ハ名譽毀損ノ事實アルモノトス(大審院判決錄大正三年二五八六頁)

●犯人ト名譽ノ存在 犯罪其他ノ違法行爲ヲ爲シタル者ト雖モ名譽即チ利益ナル批判ヲ受クヘキ社會上ノ地位ヲ有ス從テ公然事實ヲ摘示シ其名譽ヲ毀損シタルトキハ第二百三十條ノ犯罪ヲ構成ス(大正三年二二三三頁)

●選舉區民ニ對スル印刷物ノ配布ト名譽毀損 府會議員候補者ノ名譽ヲ毀損スヘキ記事ヲ印刷シ郵便ニ依リ該書面ヲ選舉區民ニ配布シタル所爲ハ公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタルモノトス(同上大正五年八一九頁)

●名譽毀損ノ法益 名譽ハ一般ニ法律ノ保護ニ依リ自己ノ有スル社會上ノ地位又ハ價值ヲ侵害セラレサルコトヲ得ルモノナリ故ニ他人カ之ヲ侵害シタルトキハ名譽毀損ニ外ナラス(同上大正五年八二〇頁)

●借財ノ公表ト名譽毀損 新聞紙上ニ甲者カ乙者ヨリ巨萬ノ借財ヲ有シ居ルコトハ丙者ニ於テ之ヲ



熟知セル旨ヲ掲載セルモ其記事ハ未タ甲者ノ破産ニ瀕セルコトヲ意味スル程度ニ達セサレハ名譽毀損罪ヲ構成スルモノト謂フヲ得ス(大審院判決錄大正五年八五七頁)

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

【關係法令】

● 刑事訴訟法(第百八十條(關係法令)ノ部參照)

【學說】

● 公然ノ意義(第百七十四條(學說)ノ部參照)

● 事實摘示ノ意義(第百三十條(學說)ノ部參照)

● 名譽ノ意義(同上)

● 死者ニ對スル誹毀(同上)

● 法人ニ對スル誹毀(同上)

● 侮辱ノ意義(第九十條(學說)ノ部參照)

一 侮辱トハ人ノ地位ニ對シ輕蔑ノ意ヲ表示スル行爲ナリ(牧野博士各論講義一四九頁)

二 侮辱トハ罵言嘲弄其他輕蔑ノ意味ヲ包含スル一切ノ行爲ヲ謂フ一般的人格ノ輕視ナルカ故ニ

他人ノ個々ノ言論行爲ヲ批評シ其誤謬ヲ主張スル如キハ侮辱ニ非ス(泉二博士七八九頁)

三 侮辱トハ他人ニ對シ人ノ人タル名譽又ハ人ノ社會上ノ名譽ニ對スル輕蔑ノ表示ヲ爲スヲ謂フ例ヘハ懶怠、痴呆、盜賊等ノ言ヲ以テ罵言シ(前者)又ハ官吏ニ對シ技能ナシト言フ(後者)カ如シ(大場博士各論上四六二頁)

四 侮辱ハ他人ノ品位ヲ蹂躪スル行爲ヲ謂フ品位蹂躪ハ他人ニ對シ尊敬ヲ缺ク念慮表彰ノ舉動換言スレハ罵言嘲弄其他ノ行爲ニ依リ人ヲ輕蔑スルヲ謂フ(山岡博士各論四〇三頁岡田博士各論五〇五頁)

五 侮辱トハ他人ヲ輕侮スルノ行爲換言スレハ犯人カ被害者ノ有スル地位品格ヲ蹂躪スル行爲即チ犯人カ被害者ニ對スル一般若クハ特別ノ敬禮ヲ缺クノ意思アル行爲ニシテ且之ヲ表示スル行爲アルコトヲ要ス(勝本博士各論下二五四頁)

【判決例】

● 法人ニ對スル誹毀(第百三十一條(判決例)ノ部參照)

● 前科者ト惡事ノ摘發(同上)

● 枝葉記事ト名譽毀損(同上)

● 特定人ニ對スル通信ト名譽毀損(同上)

● 新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ幫助(同上)

● 妻ノ姦通ト夫ノ名譽毀損(同上)



- ◎ 風聞ノ掲載ト事實ノ摘示(同上)
- ◎ 新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ共同正犯(同上)
- ◎ 公刊物ニ依ル名譽毀損ノ既遂未遂(同上)
- ◎ 毎日發行ノ新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ罪數(同上)
- ◎ 公人ノ論評ト名譽毀損(同上)
- ◎ 法廷ノ陳述ト名譽毀損(同上)
- ◎ 被害者ノ暗示ト名譽毀損(同上)
- ◎ 犯人ト名譽存在(同上)
- ◎ 選舉區民ニ對スル印刷物ノ配布ト名譽毀損(同上)
- ◎ 名譽毀損ノ法益(同上)

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

【學說】

- ◎ 死者ノ名譽毀損罪ノ告訴權者
  - 一 死者ノ名譽ヲ毀損シタル場合ニ於ケル被害者ハ其遺族ナリ遺族トハ如何ナル範圍ヲ謂フヤ明瞭ナラサルモ死者ノ親族ニ相當スル遺族ニ限ルモノト解ス(大場博士各論上三四七頁)
  - 二 死者ノ名譽ヲ毀損スル罪ニ付テハ將來刑事訴訟法ノ改正ニ際シ舊刑法第三百六十一條ノ如キ

規定ヲ設クルニ非サレハ之ヲ訴追スルコトヲ得ス死者ノ親族ヲ以テ當然被害者ナリトスルハ不適當ナリ(泉二博士七九一頁)

【判決例】

- ◎ 共同被告人ノ一人ニ對スル告訴ノ效力
  - 一 名譽毀損事件ニ於ケル共同被告人ノ一名ニ對スル告訴ノ效力ハ他ノ共同被告人ニ及フモノナレハ從テ其一名ニ對スル告訴取下ノ效力モ亦他ノ共同被告人ニ及フヘキモノナリトス(大審院判元年一三一頁一二頁)
  - 二 告訴ハ犯罪ニ對シテ爲シ犯人ニ對シテ成立スルモノニ非ス故ニ被害者ヨリ犯罪事實ヲ申告シタル以上ハ縱シヤ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ處罰ヲ求ムルモ告訴ノ效力ハ共犯人全體ニ及フヘク同時ニ告訴取下ノ效力モ亦共犯人全體ニ及フモノトス(同上大正元年一五七四頁)

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス



### 【關係法令】

●警察犯處罰令(第二百三十四條〔關  
係法令〕ノ部參照)

### 【學 說】

◎虛偽ノ風説流布

- 一 虚偽ノ風説ヲ流布スト云フハ事實無限ノ捏造説ヲ多數ノ間ニ傳播セシムルナリ(泉二博士 七九三頁)
- 二 虚偽ノ風説ヲ流布スルハ偽計ノ一場合ナリ(牧野博士二一 版三二〇頁)

◎偽計ノ觀念

- 一 偽計ノ概念ニ關シテハ之ヲ詐欺ノ意ナリトスル説ト廣ク人心ヲ眩惑スル場合ヲ包含スルモノトスル説トアリ予ハ後説ヲ採ル故ニ他人ノ雇人ニ利ヲ啗ハシテ主家ノ業務ヲ抛擲セシムル如キ亦偽計ナリ(牧野博士二一 版三二〇頁)
- 二 偽計トハ詐欺ノ計略ハ勿論苟モ人心ヲ誘惑スルニ足ル術策ハ總テ之ヲ包含ス單純ナル詐言ハ偽計ナリトスルヲ得サルト同時ニ詐欺ノ概念ニ屬セサル贈與、約束等ノ如キ方法モ亦人ヲ眩惑スルモノタル限り偽計ノ一種ナリト謂フヲ得(山岡ドクト 版四〇八頁)
- 三 偽計トハ他人ヲ害スル目的ニ出テタル權謀術數ヲ謂フ單純ナル詐言ヲ包含セス例ヘハ會社支配人ニ贈與ヲ爲シ又ハ利益ヲ約スルカ如ク食ハスニ不正ノ利益ヲ以テシ支拂停止ヲ爲サシムル

カ如シ(泉二博士 七九三頁)

◎信用毀損ノ意義

- 一 信用ハ人ノ經濟的方面ニ於ケル名譽ニシテ經濟上ノ事業ヲ經營スルニ有用ナルモノナリ換言セハ財産上ノ業務執行ニ關スル人ノ社會的品位ナリ或學者カ支拂能力若クハ支拂意思ニ對スル人ノ信用ナリト定義スルハ狹キニ失ス又本罪ノ成立ニハ具體的信用毀損ノ結果ヲ生シタルコトヲ必要トセス(山岡ドクト 版四〇七頁)
- 二 信用トハ人ノ名譽ノ一部ニ對スルモノナリ即チ信用トハ一定ノ人カ有スル支拂能力及ヒ支拂意思ニ對スル信用ヲ謂フ(大場七各論 七五三三頁)
- 三 信用トハ人ノ社會上ノ價值ノ財産的方面ナリ換言スレハ財産上ノ義務ノ執行ニ關スル他人ノ信賴ヨリ生スル社會上ノ價值ナリ而シテ信用ヲ毀損スト謂フハ被害者ニ對スル世人ノ信用カ犯人ノ行爲ニ因リ失墜スルニ至リタル結果ヲ生スル意味ニ非ス(泉二博士 七九二頁)

◎業務妨害ノ意義

- 一 業務ヲ妨害ストハ人ノ行爲ニ障害ヲ與ヘテ業務ノ執行自體ヲ妨害スル場合ハ勿論執行行爲ニ障害ヲ與ヘサルモ業務ノ運行ニ障害ヲ與フルノ行爲ハ總テ業務妨害ナリ(牧野博士二一 版三二二頁)
- 二 業務トハ廣ク經濟的事業ヲ指ス故ニ全然經濟ニ關係ナキ事務ハ所謂業務タラス(山岡ドクト 版四〇九頁)
- 三 業務ヲ妨害ストハ業務ノ執行又ハ發展上障害ト爲ルヘキ状態ヲ發生セシメタルコトヲ意味ス必シモ業務ヲ止息セシメタルコトヲ要セス(泉二博士 七九四頁)



【判決例】

●入札妨害罪ト業務妨害トノ關係 偽計ヲ用ヒテ執行裁判所ニ於ケル競賣ヲ妨害シタル所爲ハ警察犯處罰令第二條第四號ノ入札妨害ニ非スシテ第二百三十三條ノ業務妨害罪ナリ(大審院判決錄明治四十二年一二〇頁)

●虚偽ノ風説流布

- 一 虚偽ノ風説ヲ流布シトハ虚偽ノ風説ヲ公衆ニ傳播スルノ謂ニシテ世人ヲシテ虚偽ノ風説ヲ傳唱セシムルコトヲ要セス(同上明治四二年一五八九頁)
- 二 第二百三十三條ニ所謂流布トハ多數ノ人ニ傳播スル行爲ヲ謂フモノナレハ虚偽ノ風説ヲ數回反覆シテ數人ニ傳ヘ依テ他人ノ業務ヲ妨害スルモ一個ノ業務妨害罪ヲ構成スルモノニシテ連續セル數個ノ犯行アリト爲スヲ得ス(同上明治四四年三三二頁)
- 三 虚偽ノ風説ヲ流布シ虚偽ノ事項ヲ内容トスル風説ヲ世上ニ傳播スルコトヲ意味ス其風説カ犯人ニ依リ創作セラレタルト否トハ風説ノ虚偽ナルコトニ消長スル所ナシ(同上大正二年一〇二頁)

●名譽毀損ト信用毀損トノ區別

- 一 第二百三十三條ハ信用及ヒ業務ニ對スル處罰規定ニシテ第二百三十條ノ名譽毀損罪ト混同スルヲ許サス蓋第二百三十三條ニ所謂人ノ信用ヲ毀損シ云々トハ人ノ社會ニ於ケル財産上ノ信用ヲ害スルノ謂ニシテ虚偽ノ風説必シモ惡事醜行ノ觀念ヲ含有スルヲ要セス(同上明治四四年五五頁)
- 二 名譽毀損罪ハ事實ノ有無ヲ問ハス公然之ヲ摘示シテ人ノ社會上ノ地位又ハ價值ニ侵害ヲ加フ

ルニ因リテ成立シ信用毀損罪ハ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用キテ人ノ支拂資力又ハ支拂意思ヲ有スルコトニ對スル他人ノ信賴ニ危害ヲ加フルニ因リ成立シ虚偽ノ事實ヲ流布シタル行爲或ハ信用毀損及ヒ名譽毀損ノ二罪ニ觸レ或ハ單ニ其一罪名ニ觸ルルモノトス(同上大正五年八五五頁)

●信用毀損ト財産權侵害

- 一 第二百三十三條ニ所謂信用トハ人ノ經濟的方面ニ於ケル價值ヲ指稱スルモノナレハ苟モ同條所定ノ行爲ニ因リテ人ノ經濟的方面ニ於ケル價值ヲ減少セシムルノ虞アルニ於テハ其人ノ信用ヲ毀損シタルモノト謂ハサル可ラス然レトモ信用ヲ毀損スル行爲必シモ人ノ財産權ヲ侵害スル結果ヲ惹起スルモノニ非ス蓋人ノ經濟的方面ニ於ケル價值トハ其人カ業務上辨濟ノ能力及ヒ意思ニ付キ他人ヨリ受クル信憑ヲ指示スルモノナレハ人ノ信用ヲ毀損スト云フモ之ヲ以テ直ニ財産權上ノ損害ヲ生セシメタリト解スヘキニ非サレハナリ(同上明治四四年五六四頁)
- 二 信用ハ無形ノ財産ナリト謂ヒ得ヘキモ信用ノ毀損ハ直ニ財産權ノ侵害ナリト論スルコトヲ得ス即チ信用ノ毀損ト財産權ノ侵害トノ間ニハ必然的因果關係アルモノニ非サルヲ以テ信用ヲ毀損スレハ必ス財産權侵害ノ結果ヲ生スルモノナリト謂フヲ得サレハ各場合ニ付キ損害ノ有無ヲ判定セサルヘカラス(同上明治四四年五六七頁)

●法人以外ノ團體ノ信用毀損 法人ニ非サル團體ノ信用ヲ毀損スル行爲ハ團體ヲ組織スル各人ノ信用ヲ毀損スルモノニシテ均シク第二百三十三條ノ罪ヲ構成ス而シテ同罪ノ成立ニハ信用ヲ毀損スルニ付キ必シモ具體的不正ノ事實即チ一定ノ不正行爲ヲ指摘スルコトヲ要スルモノニ非ス(同上明治四四年)



年一〇  
九七頁)

◎信用毀損ト實害ノ發生 第二百三十三條ノ信用毀損罪ハ人ノ信用ヲ害スル虞アル虚偽ノ風説ヲ流布スルニ因リ成立ス現ニ信用毀損ノ結果ヲ生シタルコトヲ必要トセス(大審院判決錄大正二年一〇五頁)

◎恐喝罪ト業務妨害トノ關係 恐喝罪遂行ノ手段トシテ他人ノ營業妨害タルヘキ虚偽ノ記事ヲ新聞紙ニ掲載シ他人ヲ畏怖セシメタル上金錢ヲ取得シタルトキハ營業妨害ノ行爲ハ恐喝罪ノ手段トシテ之ヲ處分スヘキモノトス(同上大正二年一一一七頁)

◎漁業ノ妨害ト漁具ノ損壞トノ關係 他人ノ漁業ヲ妨害スル爲メ竊ニ漁場ノ海底ニ障害物ヲ沈メ置キ以テ其漁網ヲ破損シ漁獵不能ニ致シタル所爲ハ第二百三十三條ニ該當ス(同上大正三年二三二五頁)

◎新聞紙ノ改題ト偽計 新聞紙ノ改題ナル行爲自體ハ元來何等ノ違法性ナキモ他ノ行爲ト抱合セシメ以テ他人ノ業務妨害ノ手段トシテ之ヲ行フニ於テハ第二百三十三條ノ所謂偽計ニ外ナラス(同上四年八五頁)

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

【關係法令】

◎警察犯處罰令(明治四十一年  
內務省令第十六號)

第一條(抜抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條(抜抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スルハ者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

三 濫ニ寄附ヲ強制シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

【學 說】

◎業務妨害ノ意義(第二百三十三條  
學說ノ部参照)

◎威力ノ意義

一 威力トハ人ノ自由ヲ制壓スル勢力ナリ暴行脅迫ニ比シテ其範圍廣シ犯人ノ地位權勢ニ因リテ相手方ヲ畏怖セシムル如キ場合ヲモ指稱ス(牧野博士二二頁)

二 威力トハ人ノ自由ヲ抑壓シ得ヘキ力ヲ謂フ其方法ノ有形タルト無形タルトヲ問ハス故ニ暴行脅迫ハ勿論恐喝、地位若クハ權力ノ濫用等苟モ人ヲ畏怖スルニ足ルヘキモノハ總テ所謂威力タリ(山岡博士四〇九頁)

三 威力トハ人ノ意思ヲ制壓セントスル勢力ナリ有形タルト無形タルトヲ分ダス暴行ヲ用ユルモ可ナリ脅迫、恐喝、權威、職權ノ濫用等亦可ナリ(泉二博士七九三頁)

【判決例】



◎入札妨害罪ト業務妨害トノ關係(第二百三十三條 判決例ノ部參照)

◎恐喝罪ト業務妨害トノ關係(同上)

◎漁業ノ妨害ト漁具ノ損壞トノ關係(同上)

◎威力ノ意義 第二百三十四條ニ所謂威力トハ意思ヲ抑壓スル勢力ヲ指稱スルノ義ナレハ犯人カ相手方ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ノミナラス犯人ノ恐喝又ハ位置權勢ニ因リテ相手方ヲ畏怖セシムルカ如キ場合ヲモ指稱スルモノトス而シテ犯人カ第三者ヨリ危害ノ來ルヘキコトヲ告ケ恐喝スルモ又犯人カ直接危害ヲ加フヘキコトヲ告ケ恐喝スルモ均シク相手方ニ對スル恐喝ニシテ又恐喝ハ其方法ニ於テ權謀術數ノミヲ用フルモノニ非サレハ偽計ト異リ且多數人ノ間ニ虛構ノ事實ヲ傳播スルモノニ非サレハ風説ノ流布ト同視スヘキモノニ非ス(大審院判決錄明治四三年一五二頁)

◎業務ノ主體 第二百三十四條ニハ人ノ業務トアリテ業務ノ主體タル人ニ何等制限スル所ナケレハ苟モ其妨害カ一人ニ及フモノト公衆ニ及フモノトヲ問ハス同條ノ犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ(同上明治四三年一五四頁)

### 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

### 【關係法令】

◎民法(明治二十九年法律第八十九號)

第九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者カ拂ヒタル代價ヲ辨償スルニ非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス

◎森林法(明治四十年法律第四十三號)

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

### 【學說】

◎財物ト金錢的價值

一 財物ハ交換價格アルモノナラサル可カラサルニ關シテ疑アリ法律ハ財產權ヲ以テ必シモ金錢ニ見積ルコトヲ得ルモノニ對スルヲ要セサル所ヨリ見ルトキハ(民法三九九條)財物トハ單ニ財產權ノ目的トナルコトヲ得ル有體物ト解スルヲ以テ足ル金錢的價值ヲ有スルヤ否ヤハ問フ所ニ



非ス(牧野博士二二)

二 竊盜ノ物體ハ他人ノ所有物タル以上ハ交換價值ヲ有スルト否トヲ問ハス從テ賣買スル能ハサルモノト雖モ仍ホ本罪ノ物體タリ死體遺骨ハ一般ニ於テハ本罪ノ目的物タラスト雖モ一定ノ目的ニ從ヒ法律上財產權ノ目的物トシテ取扱ハルル場合ニ於テハ本罪ノ目的物タルモノトス(山岡トール四二一頁)

三 財物ハ財產權殊ニ所有權ノ目的タルコトヲ得ル物ナリ金錢的價值ノ有無ヲ問ハス然レトモ大洋ノ海水若クハ大空ノ空氣ノ如キ財產權ノ目的タラサルモノハ本罪ノ物體トナラス(泉二博士七九七頁、岡田トール五三二頁)

四 客觀的價值ナキ物ト雖モ他人ノ所有ニ屬スル以上ハ竊盜ノ客體ト爲ル例ヘハ系圖、證書其他證據類ノ如ク其所有者ヨリ見レハ侮ルヘカラサル價值アルモ客觀的價值ノ絶無ナル物ト雖モ竊盜ノ客體ト爲ルコトヲ得(大場博士各論上五二七頁)

◎人體ノ竊取

一 屍體及ヒ其一部モ學術其他適法ナル目的ニ於テ授受ノ目的物ト爲リタルトキハ竊盜罪ノ目的物トナル(小崎學士各論二六二頁)

二 人間ハ之ヲ物ト看做ス規則アルニ非サレハ本罪ノ物體ト爲ルコト能ハス身體ヲ毀損セスシテ分離スルコトヲ得ル加工物例ヘハ、義足、入毛、義齒、義眼等ハ別問題ナリ(岡田博士講義二九三頁)

三 人體ノ一部分ハ勿論人ノ財物ニ非ス然レトモ之ヲ身體ヨリ分離スルト同時ニ財物ニ變スルモ

ノアリ例ヘハ竊取ノ目的ヲ以テ婦女ノ頭髮ヲ切斷スルトキハ竊盜ヲ構成ス尤モ此場合ハ一個ノ所爲ニシテ傷害罪ト竊盜罪トノ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス(大場博士各論上五二五頁)

四 埋葬スヘキ死體ノ如キ資産上ノ利益ヲ享有スヘキモノニ非サルモノハ本罪ノ目的物タルコトヲ得ス(勝本博士講義下二八八頁)

五 人ハ物ニ非ス從テ竊盜ノ目的物タラサルハ論ナキモ頭髮ハ之ヲ切斷スルニ依リ竊取スルヲ得ヘシ人體ノ自然的部分ナラサル義手義足入齒入目等カ竊盜ノ目的物タルハ論ナシ(山岡トール四二一頁)

◎不動産ノ竊取

一 不動産ハ騙取スルコトヲ得ヘシト雖モ竊取スルコトヲ得ス(泉二博士七九九頁)

二 奪取即チ己ノ占有ニ移スノ行爲アルコトヲ要スルカ故ニ竊盜ノ目的物ハ占有ヲ移シ得ヘキ物件即チ現實ニ甲ノ場所ヨリ乙ノ場所ニ移轉シ得ヘキ物件タルコトヲ要ス必シモ民法上ノ動產タルコトヲ要セス(勝本博士析義下二九九頁)

三 竊盜ノ目的物ハ現實ニ動カシ得ヘキ物タルコトヲ要ス必シモ民法上ノ動產タルコトヲ要セス(小崎學士七六五頁、岡田トール五二三頁、江木博士二五二頁)

四 竊盜ノ客體タル物ハ動カシ得ヘキ物タルコトヲ要ス動カシ得ヘキ物トハ民法上ノ動產ト同意義ニ非ス不動産ト雖モ例ヘハ地所ノ一部ヲ組成スル土塊ノ如キ又家屋ヲ組成スル木材ノ如キハ之ヲ掘取リ或ハ之ヲ取毀チテ竊取スルコトヲ得ヘシ(大場博士各論上五四三頁)

五 竊盜ノ物體ハ動產タルヲ要ス動產トハ單ニ動カシ得ヘキ物即チ所在ヲ移轉シ得ヘキ物タルコ



トヲ意味ス民法上不動産ニ屬スル物ト雖モ分離解放ニ因リ動カシ得ヘキ場合ニ於テハ竊盜ノ目的物ト爲ルヘシ立木ヲ盜伐スル森林盜ノ如キ其一例ナリ(山岡ドクトル四一九頁)

六 不動産ニ對シ竊盜罪ノ成立セサル所以ハ不動産ハ假令占有ヲ奪取セラルルモ之ヲ恢復スルコト容易ナルニ在リ(牧野博士法學志林 明治四二年八號)

七 竊盜ノ目的物ハ可動の物件ニシテ法律ノ保護スル利益アル物件ナルコトヲ要ス故ニ經濟的價値ナキ物件及ヒ不動産其物ハ竊盜ノ目的物タルコトヲ得ス(田代資清氏警察講 報明治四三年一號)

◎禁制品ノ竊取

一 禁制品ハ法律ニ於テ絶對的ニ其製造又ハ所持ヲ禁スルモノト見ル能ハス特別ノ條件ヲ具備スル場合ニハ之ヲ製造シ所持スルコト必シモ法ノ禁スル所ニ非サルカ故ニ之ヲ財産權ノ目的ト爲スコト能ハサルモノト解スル能ハス既ニ沒收ニ關シテモ一定ノ手續ヲ定ムル以上ハ濫リニ之ヲ竊盜強取シ來ル所爲ハ法律上容サレサルナリ(牧野博士一八 版三七〇頁)

二 禁制品ハ其相對的ナルト絶對的ナルトヲ問ハス竊盜罪ノ客體タルヲ得ルモノトス相對的禁制品トハ銃砲火藥類爆發物又ハ偽造若クハ變造ノ金銀貨幣ノ如キヲ謂ヒ絶對的禁制品トハ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ如キヲ謂フ(大場博士各論 上五三〇頁)

三 他人カ法律上ノ利益ヲ有スル物件タルコトヲ要スルカ故ニ縱令事實上他人カ利益ヲ有スト思惟スル物件ト雖モ例ヘハ阿片煙又ハ偽造貨幣ノ如キ法律ノ禁制シタル物件ハ此罪ノ目的物タルコトヲ得ス(勝本博士折義 下二八七頁)

四 禁制品ハ之ヲ二種ニ區別スルヲ要ス一ハ絶對的禁制品ニシテ何人モ之ヲ所有シ能ハサルモノヲ指シ他ハ相對的禁制品ニシテ特種ノ場合若クハ特種ノ人ニ其所有ヲ許スモノヲ謂フ前者ハ竊盜ノ物體タラスト雖モ後者ハ其目的物タリ得ヘシ(山岡ドクトル四二〇頁)

◎零細ナル物ノ竊取

一 物理學上ノ物ハ必シモ法律觀念ノ物ニ非ス故ニ零細ナル物ト雖モ物理學上ノ物ナルモ法律上物ト認メサルコトヲ得ヘシ(加藤博士法學志林 明治四三年一二號)

二 社會生活上ノ觀念ニ於テ吾人ニ利益ヲ與フルモノニ非サレハ刑法ノ保護スル法益ニ非スト雖モ既ニ一厘ノ價格ヲ有スル物ハ盜罪ノ目的ト爲ルモノトス(富井博士法學協會雜 誌明治四四年一號)

三 目的物カ零細ナルモ之カ爲メ犯罪ノ存スルコトナシト謂フヘカラス故ニ刑ノ減免ノ理由タルヘキモ無罪ノ理由トナラス(勝本博士京都法學會 雜誌明治四四年二號)

◎他人カ不法ニ占有スル物ノ竊取

一 他人ニ貸渡シ又ハ寄託シタル等適法ノ原因ニ基ク場合ハ勿論他人カ不法ナル原因ニ因リ所持スル場合ト雖モ之ヲ侵害スルトキハ本條ノ罪トナル(牧野博士二二 版三三五頁)

二 他人ノ事實上ノ支配ニシテ法律ノ保護セサルモノニ係ルトキハ之ヲ侵シ物ヲ奪取スルモ罪トナルヘキニ非ス例ヘハ竊盜犯者カ其竊取シタル贓物ヲ携帶スル場合ニ於テ所有者カ取還センカ爲メ奪取スルモ處罰セラルルコトナシ(大場博士各論 上五五九頁)

三 他人カ物ノ上ニ占有權ヲ有スル以上ハ法律上ノ原因アル場合ト不法行爲ニ因ル占有トヲ區別



セス苟モ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テスル占有物ナル以上ハ竊盜罪ヲ成立ス(山岡ドクトル四二〇頁)

●竊取ノ觀念

一 竊取トハ他人ノ意思ニ反シテ財物ノ所持ヲ移轉スルノ謂ナリ他人ノ承諾ナクシテ所持ヲ移轉スル謂ナリト云フハ廣キニ過ク故ニ他人ノ承諾ヲ缺クモ其承諾ヲ豫想スルトキハ竊盜トナラス所持トハ吾人日常ノ慣習ニ從ヒ人カ事實上物ヲ支配スル關係ナリ必シモ民法上ノ占有ト同シカラス(牧野博士二一版三二四頁) 法學新報明治三九年一二號

二 奪取ハ他人ノ所持内ニ於ケル物ヲ自己ノ所持ニ移轉スルヲ以テ成立ス故ニ奪取ハ單ニ他人ノ所持ヲ害スルノミノ行動ニ非ス更ニ進ンテ財物ヲ自己ノ所持ニ移スヲ必要トス(山岡ドクトル四二二頁)

三 竊盜ハ承諾若クハ權利ナクシテ他人ノ管督ヲ侵シ其管督内ニ存スル物品ヲ自己又ハ第三者ノ監督内ニ移ス動作ヲ謂フ(江木博士二五五頁)

四 竊取トハ物ヲ他人ノ所持ヲ離シテ自己ノ所持ニ移スヲ謂ヒ暴行、脅迫、欺罔等特ニ法律ノ指示シタル方法ヲ用ヒサル總テノ場合ヲ包含ス(岡田博士講義二九八頁) 小崎學士各論七六一頁

五 竊取ハ他人ノ意思ニ反シ其所持ヲ奪取スル平穩手段ナリ被害者カ犯罪ノ現行ヲ認知シタルト否トニ關係ナシ(泉二博士九八〇頁)

●物ノ所持

一 物ノ所持ハ物ノ現實的支配ナリ即チ他人ヲ排除シテ任意ニ物ノ取扱ヲ爲シ得ルヲ謂フ近時ノ學者ハ所持ノ成立ニハ現實的支配力ノ外之ニ伴フ意思ヲ必要トセリ(山岡ドクトル四二二頁)

二 物ニ對スル事實上ノ支配ハ單ニ物ノ所持ト稱ス物ニ對スル事實上ノ支配ヲ有ストハ物ニ對シ事實上ノ支配關係アルコトヲ指稱ス物ニ對スル事實上ノ支配トハ必シモ物ヲ現ニ握有シ又ハ之カ見張ヲ爲スカ如キ事實アルヲ要セス一般ノ慣習ニ依リ物ニ對シ事實上ノ支配アリト認めラルヘキ關係アルヲ以テ足ル(大場博士各論上五三三頁)

三 物ノ所持トハ現實ニ物ヲ支配スル實力關係ナリ(泉二博士附錄四〇二頁、法學新報明治三九年一二號)

四 竊盜ノ要件タル占有ハ占有者カ其物ヲ竊取セラルヘキ狀態即チ單純ナル事實上ノ物ト人トノ支配關係ニ外ナラス(喜頭學士法學志林明治四四年七號)

●竊取ト領得ノ意思

一 領得ノ意思トハ所有權ノ内容ヲ行使スルノ意思ニシテ全ク返還セス又ハ永ク返還スルコトナキノ意思ナリ竊取ニハ此意思ヲ要スルトスルヲ多數說トスルモ所持ノ安全ナルコトハ社會ノ秩序ヲ維持スル要件ニシテ犯人ニ領得ノ意思アルト否トニ論ナク苟モ財物ノ所持ヲ侵害シタルトキハ奪取行爲アリト爲ス(牧野博士二一版三二五頁)

二 竊盜ニハ領得ノ意思アルヲ要ス領得ノ意思ハ行爲者ニ於テ所有者ト同様ナル支配ヲ物ノ上ニ行使セントスル意思ナリ故ニ奪取カ一時使用ノ意ニ出テタルトキ(使用竊盜)ハ罪ヲ構成セス(山岡ドクトル四二四頁)

三 竊盜罪ニハ他人ノ所有物ヲ不正ニ領得スルノ故意アルコトヲ要ス(江木博士二五五頁)

四 竊取ハ行爲者カ自己ノ物トスル目的ヲ以テ爲シタルコトヲ意味ス即チ自己ノ物トスル目的ト